

F D活動報告書

第 14 号 (2018 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2019 年 3 月

目 次

| | |
|------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法 | |
| (1) 対象科目 | 2 |
| (2) 実施方法 | 2 |
| (3) 分析方法 | 2 |
| (4) フィードバック方法 | 2 |
| (5) 対象科目リスト | 3 |
| II 2018年度授業評価アンケートフォーム | 7 |
| III 2018年度授業評価アンケート結果概要 | |
| (1) 2018年度授業評価アンケート（春学期）結果概要 | 11 |
| (2) 2018年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要 | 47 |
| (3) 2018年度授業評価アンケート総括 | 87 |
| IV 講演会 | 91 |

はじめに

関西大学大学院会計研究科は、創設以来、10年間を超えて国際会計士連盟（International Federation of Accountants: IFAC）による会計専門職の国際教育基準（International Education Standards: IES）に準拠した会計専門職教育を行ってきた。この10年以上の期間において、教育体制、カリキュラム、ならびに教育内容・方法など常に研究科として主体的に見直し、改善を試みてきた。また、個々の教員においても、それぞれが自己研鑽を繰り返し、最善の教育内容と最高の教育効果を目指して取り組んできた。このような取り組みを組織的に行っているのが、FD(Faculty Development)活動である。そして、このFD活動を推進してきたのが教務・FD委員会およびその下部組織としての専攻分野別教務・FD委員会である。このFD活動報告書は、FD活動の一環として作成しており、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしている。

本研究科では、このFD活動によって、教員の教育能力および教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っている。教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されない。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③教務・FD委員長による当該年度の教育内容全体に関する自己点検と総括がなされていること、ならびに④それらの結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

FD活動報告書は、上記の学生による授業評価アンケートの結果とそれに対する教員の認識と今後の改善案を中心にして、本研究科が行ったFD活動をまとめたものである。FD活動報告書は、これまで第1号から第13号まで作成され、本書は2018年度のFD活動をまとめた第14号である。本研究科はこれまで3度の分野別認証評価を受けたが、評価基準のすべてを満たしていると評価され、「認定会計大学院」の称号を得ている。このFD活動報告書は、本研究科の自己点検・評価報告書と合わせて、評価を受けるにあたっての資料として提出されている。

我々は、今後もこのFD活動を通じて、IESに準拠した「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計専門職業人」を養成すべく、会計専門職教育を継続的に充実・発展させていかなければならない。

今後も、FD活動を継続して行い、その結果をFD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育内容と水準を向上させ得ると同時に、社会的な評価の向上を期待できると確信している。

2019年3月

会計研究科長 松本 祥尚

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2018年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。最終講義日の前回である第14回目の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務所に提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び総括については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5) 対象科目リスト(索引)

| 類別 | 授業科目 | 単位 | 配当年次 | 系統 | 開講学期 | 頁 |
|-----------|-----------------------------------------|----|--------|--------|-------|----------|
| 導入科目群 | 中級商業簿記 | 2 | 1 | 財務会計 | 春・秋 | 11・47 |
| | 中級工業簿記 | 2 | 1 | 管理会計 | 春・秋 | 12・48 |
| 基本科目群 | 上級簿記論<上級簿記> | 2 | 1 | 財務会計 | 春前・秋 | 13・14・49 |
| | 上級財務会計論 | 2 | 1 | 財務会計 | 春後・秋 | 15・50 |
| | 上級原価計算論 | 2 | 1 | 管理会計 | 春前・秋 | 16・17・51 |
| | 上級管理会計論 | 2 | 1 | 管理会計 | 春後・秋 | 18・52 |
| | 監査制度論 | 2 | 1 | 監査 | 春後・秋 | 19・53 |
| | 監査基準論<監査基準> | 2 | 1 | 監査 | 春・秋 | 20・54 |
| | 企業法 | 2 | 1 | 法律・税務 | 春前・秋 | 21・55 |
| | 会計専門職業倫理 | 2 | 2 | 監査 | 春・秋 | 22・56 |
| | 会計基準論 | 2 | 1 | 財務会計 | 春 | 23 |
| | 会計制度論 | 2 | 1 | 財務会計 | 春 | 24 |
| 発展科目群 | 財表作成簿記論<財表作成簿記> | 2 | 1 | 財務会計 | 秋 | 57 |
| | 戦略管理会計論 | 2 | 1 | 管理会計 | 春 | |
| | 企業分析論 | 2 | 1 | 管理会計 | 春 | 25 |
| | 監査実施論 | 2 | 1 | 監査 | 秋 | |
| | 監査報告論 | 2 | 1 | 監査 | 秋 | 58 |
| | 商取引法<商法> | 2 | 1 | 法律・税務 | 春 | 26 |
| | 会社法 | 2 | 1 | 法律・税務 | 秋 | 59 |
| | 民法<民法(総則・物権)> | 2 | 1 | 法律・税務 | 秋 | |
| | 法人税法 | 2 | 1 | 法律・税務 | 春 | 27 |
| | 上級税務会計論 | 2 | 1 | 法律・税務 | 春 | 28 |
| | 経営学理論 | 2 | 1 | 経営・経済 | 春 | |
| | 経営戦略・組織論<経営戦略論> | 2 | 1 | 経営・経済 | 秋 | |
| | 統計学 | 2 | 1 | 経営・経済 | 秋 | |
| | ミクロ経済学 | 2 | 1 | 経営・経済 | 秋 | |
| | 特殊講義(企業経営を取り巻く会計の課題と方向) | 2 | 1 | 横断科目 | 秋 | |
| | 特殊講義(コンサルティング実務) | 2 | 1 | 横断科目 | 秋 | 60 |
| | 特殊講義(会計学の理論と実践) | 2 | 1 | 横断科目 | 秋 | 61 |
| | 特殊講義(税務と会計) | 2 | 1 | 横断科目 | 秋前 | 62 |
| | 特殊講義(労務と会計) | 2 | 1 | 横断科目 | 秋前 | 63 |
| | 特殊講義(日本内部監査協会寄附講座・ビジネスリスクと内部統制)<実践内部統制> | 2 | 1 | 横断科目 | 秋後 | |
| | 特殊講義(企業情報の読み方と使い方) | 2 | 1 | 横断科目 | 春後 | |
| | 特殊講義(ビジネス法務と会計) | 2 | 1 | 横断科目 | 春前 | |
| | 特殊講義(会計専門職業数学)<会計専門職業数学> | 2 | 1 | 横断科目 | 春 | |
| | 特殊講義(アントレプレナーの実務と地域の発展) | 2 | 1 | 横断科目 | 春後 | |
| | 特殊講義(企業マネジメントと会計) | 2 | 1 | 横断科目 | 春前 | 29 |
| | 特殊講義(公会計論)<公会計理論> | 2 | 1 | 横断科目 | 秋 | 64 |
| | 特殊講義(BATIC演習)<BATIC演習> | 2 | 1 | 横断科目 | 秋 | |
| | 特殊講義(IFRS実務)<IFRS実務> | 2 | 1 | 横断科目 | 秋 | |
| | 英文会計論 | 2 | 2 | 財務会計 | 秋 | |
| | IFRS会計論 | 2 | 2 | 財務会計 | 未開講 | |
| | 組織再編会計論 | 2 | 2 | 財務会計 | 未開講 | |
| | コストマネジメント論 | 2 | 2 | 管理会計 | 秋 | 65 |
| | 企業価値マネジメント論 | 2 | 2 | 管理会計 | 春 | |
| | マネジメント・コントロール・システム論 | 2 | 2 | 管理会計 | 秋 | |
| | 内部監査論 | 2 | 2 | 監査 | 春 | |
| | 国際監査基準論 | 2 | 2 | 監査 | 未開講 | |
| | 上級会社法 | 2 | 2 | 法律・税務 | 春 | 30 |
| | 租税法理論 | 2 | 2 | 法律・税務 | 秋 | 66 |
| | 国際税務論 | 2 | 2 | 法律・税務 | 未開講 | |
| | マクロ経済学 | 2 | 2 | 経営・経済 | 春 | |
| 応用・実践科目群 | 基本会計プログラム演習 | 2 | 1 | 財務会計 | 秋 | 67 |
| | 会計事例研究 | 2 | 1 | 財務会計 | 春 | 31 |
| | 会社経理実務 | 2 | 1 | 財務会計 | 春 | 32 |
| | 管理会計事例研究 | 2 | 1 | 管理会計 | 春 | |
| | 監査事例研究 | 2 | 1 | 監査 | 秋 | 68 |
| | 基本監査プログラム演習 | 2 | 1 | 監査 | 秋 | 69 |
| | アカデミック・ソリューション<ソリューション・イン・アカデミック> | 2 | 1 | 個別演習科目 | 秋 | 70-74 |
| | 論文指導(導入) | 2 | 1 | 個別演習科目 | 春 | 33 |
| | 論文指導(基礎)<論文指導・修士論文(基礎)> | 2 | 1 | 個別演習科目 | 秋 | 75・76 |
| | 実践会計プログラム演習 | 2 | 2 | 財務会計 | 秋 | |
| | IFRS事例研究 | 2 | 2 | 財務会計 | 未開講 | |
| | ディスクロージャー実務 | 2 | 2 | 財務会計 | 秋 | |
| | 国際管理会計事例研究 | 2 | 2 | 管理会計 | 春 | |
| | 実践監査プログラム演習 | 2 | 2 | 監査 | 夏集 | |
| | 企業法判例演習 | 2 | 2 | 法律・税務 | 秋 | |
| | 税務事例研究 | 2 | 2 | 法律・税務 | 未開講 | |
| | 企業実践コミュニケーション | 2 | 2 | 経営・経済 | 未開講 | |
| | プロフェッショナル・ソリューション | 2 | 2 | 個別演習科目 | 未開講 | |
| 論文指導・修士論文 | 4 | 2 | 個別演習科目 | 通年 | 77・78 | |

| 授業科目 (2017年度以前入学生用カリキュラムとして開講) | 単位 | 配当年次 | 系統 | 開講学期 | 頁 |
|-----------------------------------|----|------|--------|------|-------|
| 租税法会計論 | 2 | 1 | 法律・税務 | 秋 | 79 |
| インベストメント論 | 2 | 1 | 経営・経済 | 春 | 34 |
| コーポレート・ファイナンス論 | 2 | 1 | 経営・経済 | 秋 | 80 |
| 国際会計基準論 | 2 | 2 | 財務会計 | 秋 | 81 |
| 上級税務戦略論 | 2 | 2 | 税務会計 | 秋 | |
| 公監査論 | 2 | 2 | 行政 | 春 | 35 |
| 国際監査制度論 | 2 | 2 | 監査 | 春 | |
| 金融商品取引法 | 2 | 2 | 法律 | 春 | |
| 民法(債権) | 2 | 2 | 法律 | 春 | |
| 資本市場論 | 2 | 2 | ファイナンス | 春 | 36 |
| 税務会計事例研究 | 2 | 2 | 法律・税務 | 春 | |
| 起業・株式公開事例研究 | 2 | 2 | 経営 | 春 | |
| ソリューション・イン・プロフェッショナル | 2 | 2 | 個別演習科目 | 春 | 37-39 |
| ソリューション・イン・エキスパートタイズ | 2 | 2 | 個別演習科目 | 秋 | 82・83 |
| 実践コミュニケーション | 2 | 1 | 経営・経済 | 秋 | |
| 会計戦略論 | 2 | 2 | 財務会計 | 春 | 40 |
| 資産会計論 | 2 | 2 | 財務会計 | 春 | 41 |
| 負債・資本金会計論 | 2 | 2 | 財務会計 | 春 | 42 |
| 企業結合会計 | 2 | 2 | 財務会計 | 秋 | |
| 国際税務戦略論 | 2 | 2 | 法律・税務 | 春 | |
| 保証業務論 | 2 | 2 | 監査 | 春 | 43 |
| 不正摘発監査論 | 2 | 2 | 監査 | 秋 | 84 |
| 国際会計事例研究 | 2 | 2 | 財務会計 | 春 | |
| 国際税務会計事例研究 | 2 | 2 | 税務会計 | 秋 | |
| 国際監査事例研究 | 2 | 2 | 監査 | 秋 | |
| 企業再生事例研究 | 2 | 2 | 経営 | 秋 | |
| 総括 | | | | | 87 |

※掲載対象科目は、2018年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

※<>は、2017年度以前入学生用カリキュラムの科目名称です。

Ⅱ . 2018 年度授業評価アンケートフォーム

2018 年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。なお、このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

| 授業科目 | 担任者 | クラス |
|------|-----|-----|
|------|-----|-----|

| NO | 質問内容 | 回答 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1 | 授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 2 | この授業の進度はどうでしたか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い | |
| 3 | この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 4 | 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 5 | この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 6 | 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 7 | ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 8 | 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 9 | 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 10 | この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 11 | 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 12 | この授業への出席状況はどうでしたか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上 | |
| 13 | この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上 | |
| 14 | この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上 | |
| 15 | この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 16 | この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |
| 17 | あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う | |

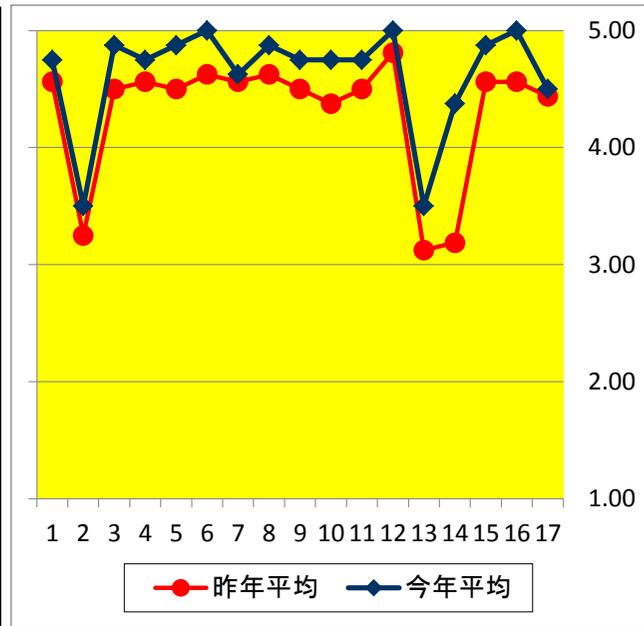
— 以上 —

授業担任者に提出してください。ご協力ありがとうございました。

Ⅲ-(1). 2018 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 科目 | 中級商業簿記(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春金5 |
| 受講者数 | 13 | 回答者数 | 8 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.56 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.25 | 3.50 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.50 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.56 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.50 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.63 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.56 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.63 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.50 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.38 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.50 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.81 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.13 | 3.50 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 3.19 | 4.38 | 5 | 5 | 3 |
| 15 | 4.56 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.56 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.44 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 16 | 8 | | | |



受講生の傾向

簿記の習熟度が低い学生が多く、受講生の大半が留学生であった。授業中は、頑張って問題を解いて積極的に質問していたが、課外講座への参加率は低く、授業時間外に意欲的に学習している学生は少ない様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全体説明よりも個別の質問対応を重視して、全員の理解を一人ずつ確認して回った。定期的には何回かのミニテストを行って受講生のモチベーションを維持することに努めるとともに、ミニテストは講義中に即座に採点して学生に個別の学習指導を行った。とくに今年度は、授業時間外での学習が少ないと感じたため、宿題を課して提出させるようにした。昨年度と同じ学生にTAを依頼し、課外講座の講師にも有志で講義に参加してもらって、講義と講座の連携を図りながら受講生の学習をフォローした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

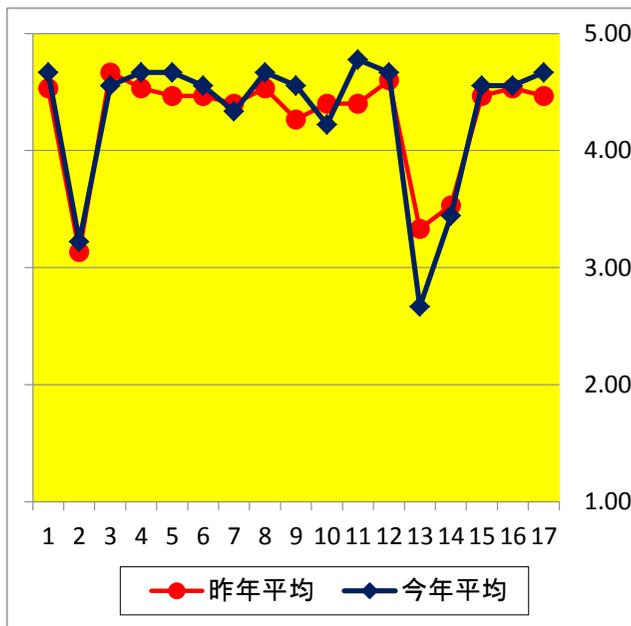
今年度のフォロー体制は、昨年度のものをベースとして、その内容を充実させるものであった。今年度は勉学意欲の高い学生が多く、スキルアップ講座(導入)への出席率も昨年度より高かったが、全員出席を原則としていたことからすれば、出席率はまだ低いと言わざるを得ない。一部の学生にヒアリングしたところによると、学部生のときにはそれほど勉強しなくても単位が取れてきたことから、大学院でも同程度の心構えであったという。次年度も、可能であれば同様のフォロー体制で臨み、受講生には大学院生としての自覚と勉学意欲、緊張感をもって日常の勉学に励むように指導していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の学生は、授業中は積極的に課題に取り組んでいたが、授業時間外でも同様に意欲的であった学生と、そうではなかった学生がいたように感じられる。なかには、アルバイトで勉学に支障が生じていると思われるケースもあった。受講生には大学院生としての自覚と勉学意欲、緊張感をもって日常の勉学に励むように指導していきたい。

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 科目 | 中級工業簿記(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春木5 |
| 受講者数 | 12 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.53 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.13 | 3.22 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.67 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.53 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.47 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.47 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.40 | 4.33 | 4・5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.53 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.27 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.40 | 4.22 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | 4.40 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.60 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 3.33 | 2.67 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 3.53 | 3.44 | 3 | 5 | 2 |
| 15 | 4.47 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.53 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.47 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 15 | 9 | | | |



受講生の傾向

本講義は、工業簿記の知識が基本科目の受講に到達していない受講生を対象とした導入科目である。受講生は基本的に真剣に出席して授業に臨んでいたが、一部には欠席が目立つ学生が見受けられた。また、受講生の持つ知識レベルの分散は大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度で比較的高い評点を獲得できていたため、昨年度の対応を継続して、きめ細かい指導をするように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

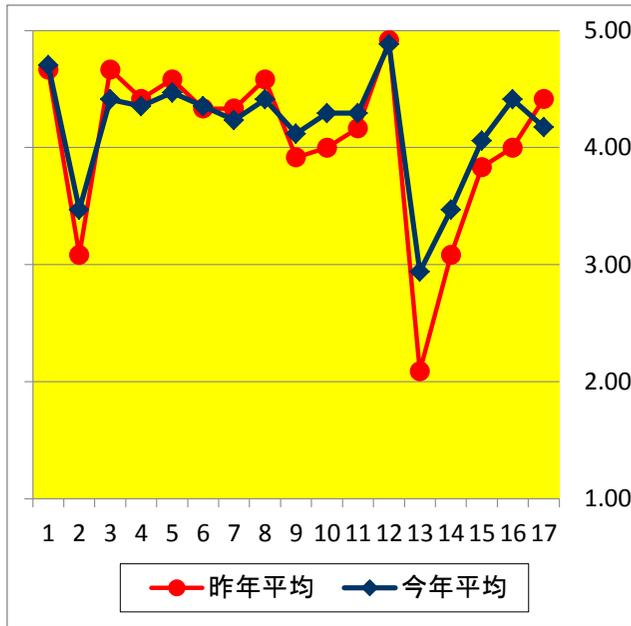
前年よりも評点がやや改善しているため、今年度の対応をさらに継続することが重要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

項目ごとに評点の増減が見受けられるが、全体としては昨年度と同様に比較的高い評点であったと考えられる。ただし、授業外の学習については大きく減少していることから、授業中に予復習を行うように指導する必要性を感じている。それ以外の点については、次年度以降も本年と同様の対応を継続することが重要であると考えている。

| | | | |
|------|-----------------|------|---------|
| 科目 | 上級簿記論<上級簿記>(A1) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春前月2・木3 |
| 受講者数 | 18 | 回答者数 | 17 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.67 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.08 | 3.47 | 4 | 4 | 2 |
| 3 | 4.67 | 4.41 | 4・5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.42 | 4.35 | 4 | 5 | 3 |
| 5 | 4.58 | 4.47 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.33 | 4.35 | 4・5 | 5 | 2 |
| 7 | 4.33 | 4.24 | 4 | 5 | 3 |
| 8 | 4.58 | 4.41 | 5 | 5 | 2 |
| 9 | 3.92 | 4.12 | 4 | 5 | 3 |
| 10 | 4.00 | 4.29 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | 4.17 | 4.29 | 4 | 5 | 2 |
| 12 | 4.92 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.09 | 2.94 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 3.08 | 3.47 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 3.83 | 4.06 | 4 | 5 | 1 |
| 16 | 4.00 | 4.41 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.42 | 4.18 | 4・5 | 5 | 2 |
| 回答者数 | 12 | 17 | | | |



受講生の傾向

A1クラスは、A2クラスよりも簿記の習熟度の高い学生が多かった。一方で、日商2級程度の内容について、しっかりと理解に欠ける学生や、問題を解き慣れていない学生も少なくなく、レベル差が大きいと感じることもあった。講義展開は昨年度と同様であり、アンケート結果も全体的に昨年度と同様の傾向を示している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。基礎的で重要な論点は、優先的に取り上げて説明した。講義中は全体説明に終始することなく、問題演習の時間も確保するようにした。問題演習の時間には基本例題を解いてもらい、質問があればその場で個別に対応し、間違いがあれば指導するなど、全員の理解を一人ずつ確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

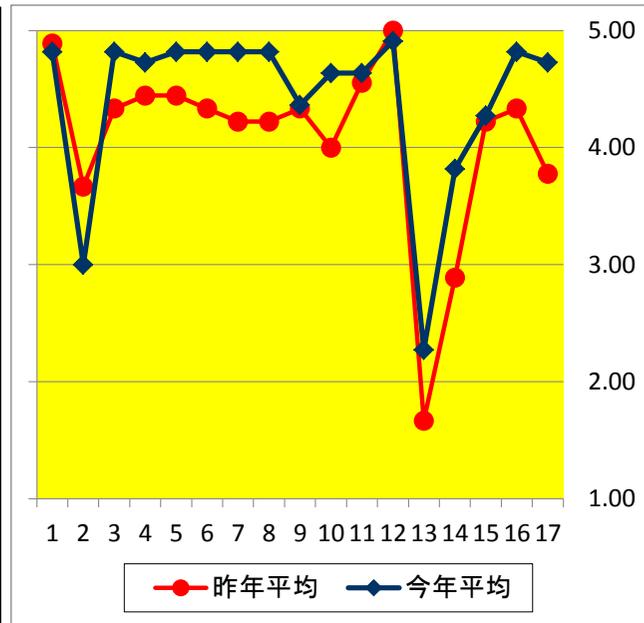
受講生の勉学意欲や簿記の習熟度に差があることはやむを得ないことであり、それによってアンケート結果が毎年安定しないこともまた当然である。しかしながら、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

| | | | |
|------|-----------------|------|---------|
| 科目 | 上級簿記論<上級簿記>(A2) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春前月3・木2 |
| 受講者数 | 13 | 回答者数 | 11 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.89 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.67 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.33 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.44 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.44 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.33 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.22 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.22 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.33 | 4.36 | 4・5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.00 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.56 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 5.00 | 4.91 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 1.67 | 2.27 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 2.89 | 3.82 | 3・5 | 5 | 2 |
| 15 | 4.22 | 4.27 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.33 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 3.78 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 9 | 11 | | | |



受講生の傾向

講義展開は昨年度と同様であるが、アンケート結果は全体的に昨年度よりもポイントが高く、今年度のA1クラスよりも高くなっている。A2クラスには、再履修の学生が含まれるが、今年度はその学生が多く、しかも留学生が多かったため、丁寧な説明を心がけた。今年度のポイントの高さは、それによるものと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。基礎的で重要な論点は、優先的に取り上げて説明した。講義中は全体説明に終始することなく、問題演習の時間も確保するようにした。問題演習の時間には基本例題を解いてもらい、質問があればその場で個別に対応し、間違いがあれば指導するなど、全員の理解を一人ずつ確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

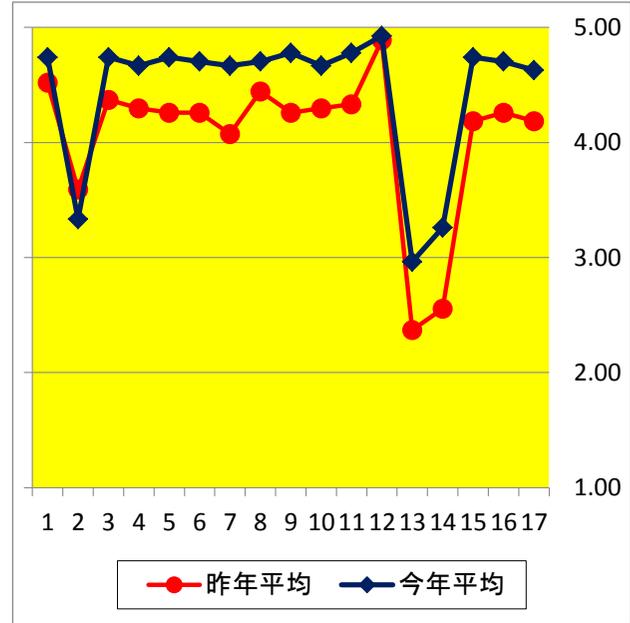
受講生の勉学意欲や簿記の習熟度に差があることはやむを得ないことであり、それによってアンケート結果が毎年安定しないこともまた当然である。しかしながら、講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義展開としては全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

| | | | |
|------|------------|------|---------|
| 科 目 | 上級財務会計論(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春後月3・木2 |
| 受講者数 | 29 | 回答者数 | 27 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.52 | 4.74 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.59 | 3.33 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.37 | 4.74 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.30 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.26 | 4.74 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.26 | 4.70 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.07 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.44 | 4.70 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.26 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.30 | 4.67 | 5 | 5 | 2 |
| 11 | 4.33 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.89 | 4.93 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.37 | 2.96 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.56 | 3.26 | 3 | 5 | 2 |
| 15 | 4.19 | 4.74 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.26 | 4.70 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.19 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 27 | 27 | | | |



受講生の傾向

概ね全ての受講生(若干名欠席の多い学生や途中退室する学生がいた)が、真摯に受講していたと感じる。予習・復習の時間も昨年度より増加し平均1時間を超えている状態であり、十分に準備をして受講していると思われる。それに伴い、講義内容や小テストの内容への追加的な質問も多かったと感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の受講生は、基礎的な知識を十分に習得し学習意欲も高めである受講生が多いと思われ、講義内容をより深く正確に理解ができるよう留意した。また、個別の質問であっても、受講生全体に解説した方がよいと思われる内容については、受講生全体に解説と理解のポイントを説明した。また、講義の冒頭に前回の講義の内容の概略と小テストの結果に基づく学習上の注意事項を説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

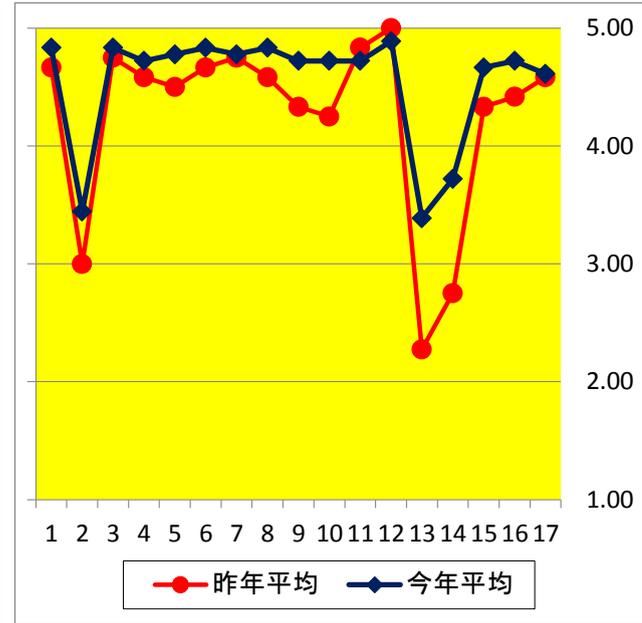
春学期の受講生の傾向を踏まえ、受講生の学習意欲や理解度に合わせ、他との関連性も理解できるような内容を含めた講義内容となるように工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と比較して、受講生による評価が向上しており、今学期(春学期)と同方向で実施したいと思う。具体的には、受講生の学習レベルや意識の想定とそれに伴う講義内容への要望に沿うよう、講義内容のより深く正確な理解を促し、小テストや中間試験を通じた学習の注意事項の解説、個別の質問への回答を踏まえた理解のポイントの説明を行うつもりである。

| | | | |
|------|-------------|------|---------|
| 科 目 | 上級原価計算論(A1) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春前月3・木2 |
| 受講者数 | 18 | 回答者数 | 18 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.67 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.44 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.75 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.58 | 4.72 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.50 | 4.78 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.67 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.75 | 4.78 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.58 | 4.83 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.33 | 4.72 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.25 | 4.72 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.83 | 4.72 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 5.00 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.27 | 3.39 | 5 | 5 | 1 |
| 14 | 2.75 | 3.72 | 5 | 5 | 1 |
| 15 | 4.33 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.42 | 4.72 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.58 | 4.61 | 5 | 5 | 2 |
| 回答者数 | 12 | 18 | | | |



受講生の傾向

公認会計士受験を目指しているなど高いレベルの学生と、主に留学生など低いレベルの学生との差を感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年からフォローアップ講座を実施したことによって、低いレベルの学生の実力の底上げをうまく行えたと感じており、中間・期末ともに平均点10点ほどの上昇がみられた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

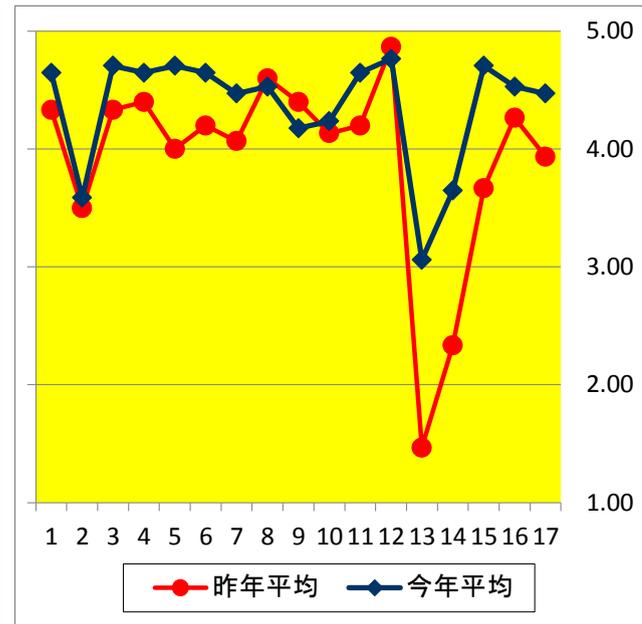
過年度から使用していたテキストをベースに、毎回のレジュメを加えて講義を行ったが、今後はレジュメに統一化をはかっていきたい(作成する時間があればだが…)。網羅的なレジュメを完成させる事を、今後の課題とする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

かなりレジュメの精緻化が進んできたので、できればレジュメを書籍にしたいと考えている。富田先生経由で、中央経済社と連絡を取り、来年の秋学期をメドに書籍化を図りたい。

| | | | |
|------|-------------|------|---------|
| 科目 | 上級原価計算論(A2) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春前月2・木3 |
| 受講者数 | 19 | 回答者数 | 17 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.33 | 4.65 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.50 | 3.59 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.33 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.40 | 4.65 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.00 | 4.71 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.20 | 4.65 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.07 | 4.47 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.60 | 4.53 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.40 | 4.18 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.13 | 4.24 | 4・5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.20 | 4.65 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.87 | 4.76 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 1.47 | 3.06 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.33 | 3.65 | 4・5 | 5 | 1 |
| 15 | 3.67 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.27 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 3.93 | 4.47 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 15 | 17 | | | |



受講生の傾向

公認会計士受験を目指しているなど高いレベルの学生と、主に留学生など低いレベルの学生との差を感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年からフォローアップ講座を実施したことによって、低いレベルの学生の実力の底上げをうまく行えたと感じており、中間・期末ともに平均点10点ほどの上昇がみられた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

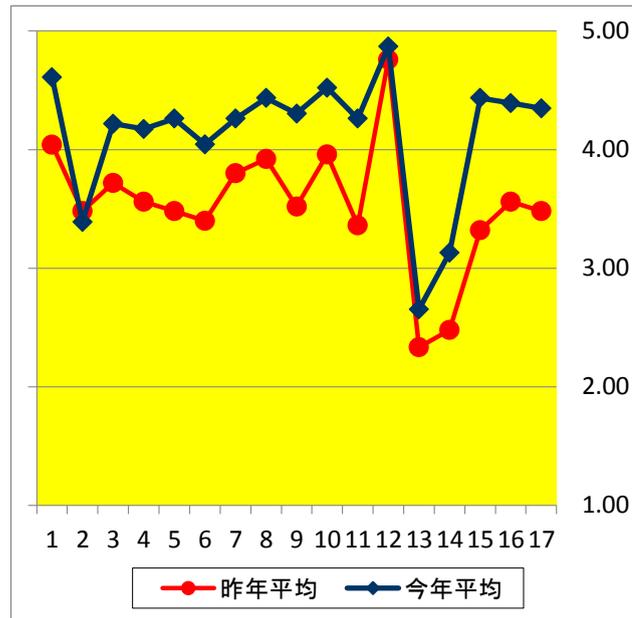
過年度から使用していたテキストをベースに、毎回のレジュメを加えて講義を行ったが、今後はレジュメに統一化をはかっていきたい(作成する時間があればだが…)。網羅的なレジュメを完成させる事を、今後の課題とする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

かなりレジュメの精緻化が進んできたので、できればレジュメを書籍にしたいと考えている。富田先生経由で、中央経済社と連絡を取り、来年の秋学期をメドに書籍化を図りたい。

| | | | |
|------|------------|------|---------|
| 科 目 | 上級管理会計論(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春後月2・木3 |
| 受講者数 | 32 | 回答者数 | 23 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.04 | 4.61 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.48 | 3.39 | 3 | 5 | 2 |
| 3 | 3.72 | 4.22 | 5 | 5 | 2 |
| 4 | 3.56 | 4.17 | 4 | 5 | 2 |
| 5 | 3.48 | 4.26 | 5 | 5 | 2 |
| 6 | 3.40 | 4.04 | 5 | 5 | 2 |
| 7 | 3.80 | 4.26 | 5 | 5 | 1 |
| 8 | 3.92 | 4.43 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 3.52 | 4.30 | 4・5 | 5 | 3 |
| 10 | 3.96 | 4.52 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 3.36 | 4.26 | 5 | 5 | 2 |
| 12 | 4.76 | 4.87 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.33 | 2.65 | 1・3 | 5 | 1 |
| 14 | 2.48 | 3.13 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 3.32 | 4.43 | 5 | 5 | 2 |
| 16 | 3.56 | 4.39 | 5 | 5 | 2 |
| 17 | 3.48 | 4.35 | 5 | 5 | 2 |
| 回答者数 | 25 | 23 | | | |



受講生の傾向

本講義は、上級レベルの知識の習得を目標とする基本科目のひとつである。受講生は全体として継続して講義に出席するとともに、まじめに受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、一昨年よりも全体として評点が減少していた。そのため、本年度は受講生の状況を注意深く観察して、きめの細かい対応を進めるように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

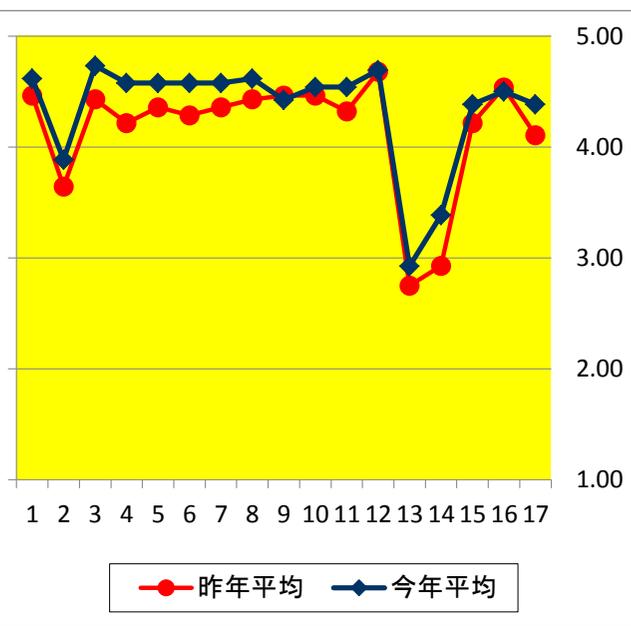
比較的高い評点であった前年度と同様の講義を行ったが、実際には評点が下がってしまっている。そのため、本年度は受講者の状況を注意深く観察しながら、きめの細かい対応を進めていくことが必要と考えている

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度の評点は、ほとんど全ての項目で昨年度よりも改善しており、全体として良好であったと思われる。そのため、次年度以降も本年度のような対応を継続することが重要であると考えている。

| | | | |
|------|----------|------|---------|
| 科目 | 監査制度論(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春後火2・金3 |
| 受講者数 | 29 | 回答者数 | 26 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.46 | 4.62 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.64 | 3.88 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.43 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.21 | 4.58 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.36 | 4.58 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.29 | 4.58 | 5 | 5 | 2 |
| 7 | 4.36 | 4.58 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.43 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.46 | 4.42 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.46 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.32 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.68 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 2.75 | 2.92 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.93 | 3.38 | 3 | 5 | 2 |
| 15 | 4.21 | 4.38 | 5 | 5 | 2 |
| 16 | 4.54 | 4.50 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | 4.11 | 4.38 | 5 | 5 | 2 |
| 回答者数 | 28 | 26 | | | |



受講生の傾向

1年次必修科目(基本科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は80%を超えており極めて高い出席率となっている。出席率から見ると、勉学に対する意欲は相変わらず相対的に高いだけでなく、教員側の熱意(項目4)、説明の仕方(項目5)、教材の利用(項目6)、機材の使い方(項目7)に対するといった項目のほぼ全ての項目において、去年実績よりも改善されている。特に、課題予習(項目13)・復習(項目14)に対する時間も、去年より増加しており、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)に繋がっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、監査基準の改訂がなされたため、改訂監査基準及び監査実務指針を含め、網羅的・体系的に整理したパワーポイントによるスライドを用意した。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日アップロードし、WEB配信を前提とした学生の予習・復習に役立つように配慮した。

また授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認する目的とともに復習を動機付けるために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、翌回にコメントを付して返却した。また優秀答案を氏名を伏せて配布するとともに、添削上のポイントを追加し解説を行った。最終的に、講義2回分→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント表・講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

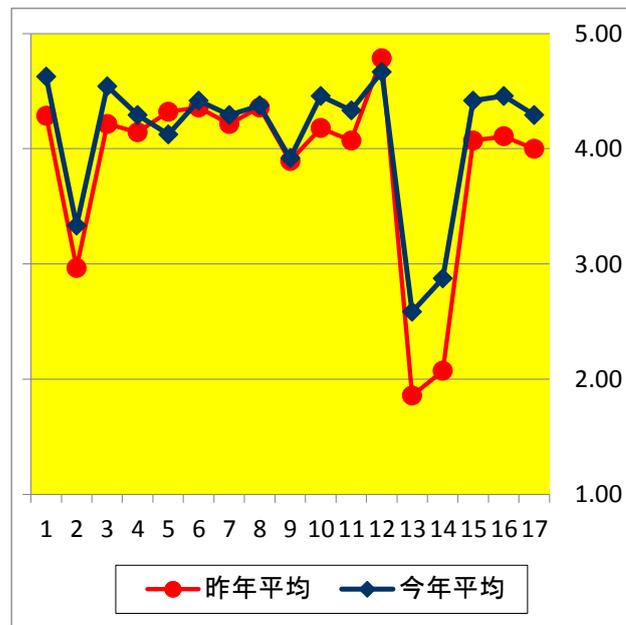
今年度も一部学生からの復習課題の添削依頼があったため、従来通り、真摯に対応するとともに、受講者に含まれる留学生向けに復習課題の解説等、一定の対応が必要になりつつある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は学生からの復習課題の添削依頼がなかったため、より前向きに復習課題への取組みを促す仕組みを確立し、自発的な復習課題の作成と提出が行われるような措置が必要になりつつある。

| | | | |
|------|----------------|------|-----|
| 科 目 | 監査基準論<監査基準>(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春水2 |
| 受講者数 | 26 | 回答者数 | 24 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.29 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 2.96 | 3.33 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.21 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.14 | 4.29 | 4 | 5 | 3 |
| 5 | 4.32 | 4.13 | 4 | 5 | 2 |
| 6 | 4.36 | 4.42 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.21 | 4.29 | 4 | 5 | 3 |
| 8 | 4.36 | 4.38 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 3.89 | 3.92 | 4 | 5 | 2 |
| 10 | 4.18 | 4.46 | 4 | 5 | 4 |
| 11 | 4.07 | 4.33 | 4 | 5 | 3 |
| 12 | 4.79 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 1.86 | 2.58 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 2.07 | 2.88 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.07 | 4.42 | 4 | 5 | 3 |
| 16 | 4.11 | 4.46 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.00 | 4.29 | 4 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 28 | 24 | | | |



受講生の傾向

概ね熱心に集中して受講していた。授業中に実施する演習にも前向きに取り組み、予習と復習の時間も昨年度より改善している。講師からの質問に対しても積極的に回答し、疑問点については真摯に質問する姿勢がみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

自宅学習の時間が少ないということに対して、引き続き授業の中で復習演習をするとともに、関係する監査実務委員会報告書を配布して自宅学習用とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

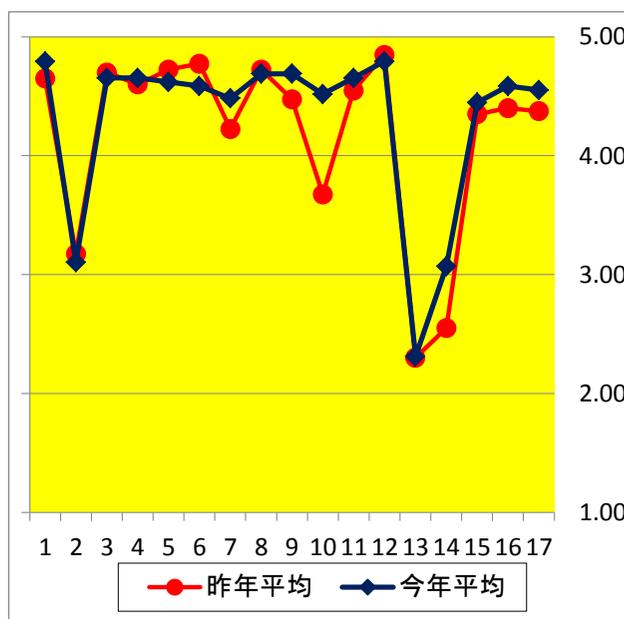
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評価は引き続き期末試験重視にし、自宅での自己学習用に関連資料の配布を充実させることとする。

| | | | |
|------|--------|------|---------|
| 科 目 | 企業法(A) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春前火2・金3 |
| 受講者数 | 35 | 回答者数 | 29 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.65 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.18 | 3.10 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.70 | 4.66 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.60 | 4.66 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.73 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.78 | 4.59 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.23 | 4.48 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.73 | 4.69 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.48 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 3.68 | 4.52 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.55 | 4.66 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.85 | 4.79 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 2.30 | 2.31 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 2.55 | 3.07 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.35 | 4.45 | 4・5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.40 | 4.59 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.38 | 4.55 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 40 | 29 | | | |



受講生の傾向

今年度は入学者数は昨年度と大差ないところ、35名の履修者数ということで、秋学期受講に若干の学生が回ったように思う。ただ、例年の授業と大きく変化はなく、本授業は基本科目ということもあり、ほとんどの受講生が出席し、遅刻者もほとんど見られなかった。また、受講生の大半は受講態度もよく熱心に授業に集中していた。しかし、すでに企業法を学習している学生もいれば企業法をはじめて学習する学生もあり、また企業法の学習度合いも差異があり、授業の難易度についてはその感じ方にばらつきが見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上記で示したように、企業法の学習度合いに差はみられるものの、企業法の本来の趣旨である企業法の基礎を学習するということを徹底して、より基礎学力を習得することができるよう心がけた。さらに、法学を習得ということはその考え方や法的文章の作成をすることも習得することを意味する。そこで、知識の習得のみならず、法的な論文作成能力を高められるよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

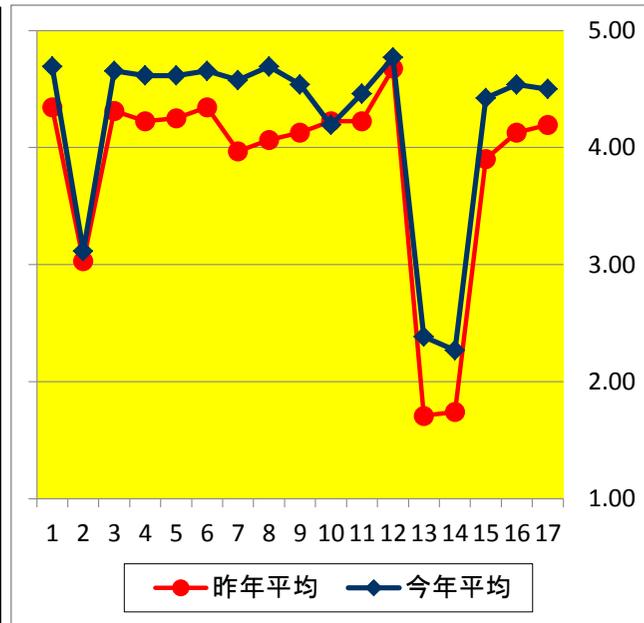
今後の対応としては、やはり予習と復習により取り組んでもらえるよう心掛けたい。多くの科目がある中で、企業法にのみ時間を割くのは難しいであろうから、例えば、小テストの前には当該範囲の内容を予習・復習をするというような授業の流れにしたい。特に論文式の小テストについては、その論文作成の練習をすることで論文作成能力が上がる機会があるので、効果的な方法で指導を行い全体の授業の中でバランスよくそれを組み入れる必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本科目は、企業法の基礎を学習するとともに、法学の基礎についてもここで習得することを目的としている。よって、基本的な法律用語等も含めて法的な思考方法ないし考え方を身に付けられるようにし、今後の法律系の授業をスムーズに受けられるようにしていきたい。よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

| | | | |
|------|-------------|------|-----|
| 科目 | 会計専門職業倫理(A) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春水1 |
| 受講者数 | 32 | 回答者数 | 26 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.34 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.03 | 3.12 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.31 | 4.65 | 5 | 5 | 2 |
| 4 | 4.23 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.25 | 4.62 | 5 | 5 | 2 |
| 6 | 4.34 | 4.65 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 3.97 | 4.58 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.06 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.13 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.23 | 4.19 | 5 | 5 | 1 |
| 11 | 4.23 | 4.46 | 5 | 5 | 1 |
| 12 | 4.68 | 4.77 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 1.71 | 2.38 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 1.74 | 2.27 | 2 | 5 | 1 |
| 15 | 3.90 | 4.42 | 5 | 5 | 1 |
| 16 | 4.13 | 4.54 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | 4.19 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 32 | 26 | | | |



受講生の傾向

32人の受講生があり、最近の水準からすればかなり人数の多いクラスとなった。受講生の傾向は、概ね積極的で、教員の指導にまじめに取り組む姿勢が見られた。ただ、人数が多いうえ、留学生(語学力にばらつきがある)も10名程度含まれており、理解度のレベルにかなり差があったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の秋学期は少人数のクラスであったため、また別の工夫が必要であると感じた。必修であることから、全員が積極的に取り組めるよう声掛けを行った。しかし、反応はまちまちであったことも事実である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

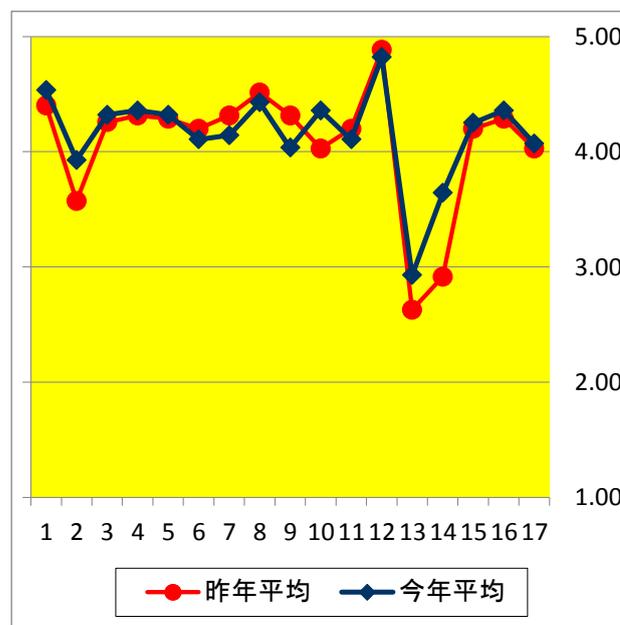
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全員が履修しなければならない必修科目であることから、その必要性、重要性を説得する必要があると感じた。受講者の中には、「PAコース以外の者にはわかりにくい(或いは不要)」、「班編成に不満」というような声もあったが、所与の条件の中で学習目標を設定して取り組むことが必要と認識しているため、今後そのように指導したい。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科 目 | 会計基準論 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春火3 |
| 受講者数 | 34 | 回答者数 | 28 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.40 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.57 | 3.93 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.26 | 4.32 | 4 | 5 | 1 |
| 4 | 4.31 | 4.36 | 5 | 5 | 1 |
| 5 | 4.29 | 4.32 | 5 | 5 | 1 |
| 6 | 4.20 | 4.11 | 4 | 5 | 2 |
| 7 | 4.31 | 4.14 | 5 | 5 | 1 |
| 8 | 4.51 | 4.43 | 5 | 5 | 2 |
| 9 | 4.31 | 4.04 | 5 | 5 | 1 |
| 10 | 4.03 | 4.36 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | 4.20 | 4.11 | 4 | 5 | 1 |
| 12 | 4.89 | 4.82 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.63 | 2.93 | 1・5 | 5 | 1 |
| 14 | 2.91 | 3.64 | 5 | 5 | 1 |
| 15 | 4.20 | 4.25 | 5 | 5 | 1 |
| 16 | 4.29 | 4.36 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | 4.03 | 4.07 | 4 | 5 | 1 |
| 回答者数 | 35 | 28 | | | |



受講生の傾向

概ね全ての受講生が毎回出席していたが、一部休みの多い受講生が散見された。受講生の傾向は、十分な基礎的な知識がなく理解が困難なまま出席している受講生と、積極的に講義内容を理解しようとする態度が顕著に見られる受講生との二つに分けられた。前者の受講生には、受講に際し、指定された教科書もしくは資料を用意せずに出席する者も多く、当該受講生には、小テストや試験を難しいと感じる者も多かったようである。授業は後者の学生を意識したため、結果的に全体としては授業の速度が早いと感じる受講生も多いようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計基準そのものに慣れ親しむよう工夫するだけでなく、トピックの選択において、会計基準ができる過程や体系までも理解できるよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

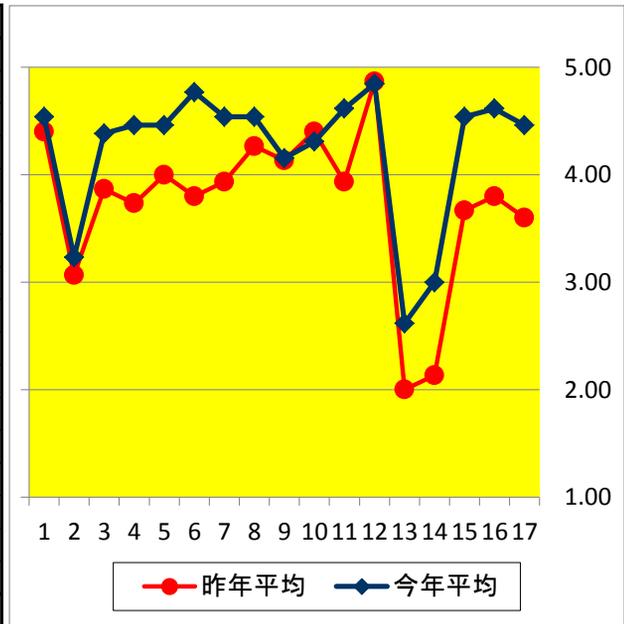
受講生が二極化している状態を改善する必要があると感じる。まず、導入科目を受講しつつ本講義を受講している受講生には、学習時間を増やすような策を講じる。また、そうではない受講生には、よりレベルの高い内容、より多くの内容を学習できるような工夫を講じたいと考える。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の態度や事前の理解度は、昨年同様に二極化していると感じる。十分に受講の準備ができていない受講生には、指定した教科書もしくは資料を必ず用意させるところから注意し、小テストの結果に応じて追加の課題を課すなどの工夫を模索していこうと思う。また、十分に受講の準備ができていない受講生には、より深く体系的で実践的な内容を示すことができるように工夫を講じるつもりである。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科目 | 会計制度論 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春火4 |
| 受講者数 | 18 | 回答者数 | 13 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.40 | 4.54 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.07 | 3.23 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 3.87 | 4.38 | 4・5 | 5 | 3 |
| 4 | 3.73 | 4.46 | 4 | 5 | 4 |
| 5 | 4.00 | 4.46 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 3.80 | 4.77 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 3.93 | 4.54 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.27 | 4.54 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.13 | 4.15 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.40 | 4.31 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 3.93 | 4.62 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.87 | 4.85 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.00 | 2.62 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.13 | 3.00 | 2・3 | 5 | 2 |
| 15 | 3.67 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 3.80 | 4.62 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 3.60 | 4.46 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 15 | 13 | | | |



受講生の傾向

昨年度よりも予習復習に時間をかける割合が増え、出席率は昨年同様に非常に高い。全般的にこの科目への評価がかなり高まっているが、重点的に重要事項を繰り返したことが原因かもしれない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度十分な関心を引かなかった単元を補強して、重要な論点を丁寧に繰り返した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

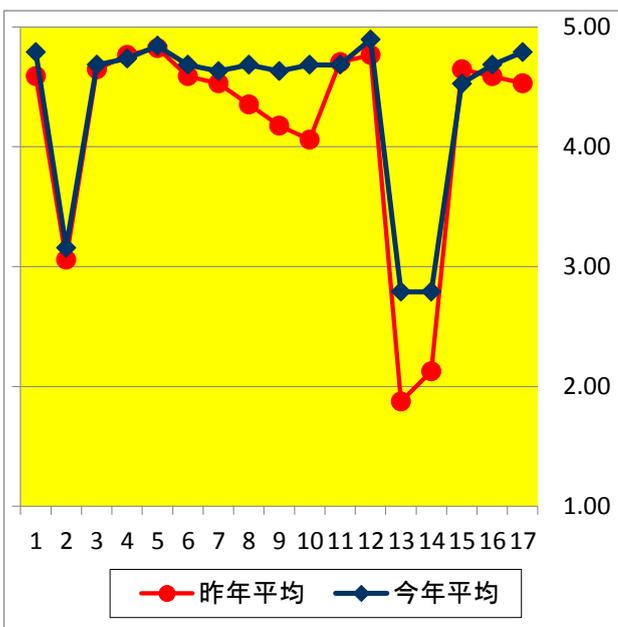
受講生の一層の理解度・満足度を高めるには論理的な話を少なくすればいいのだが、講義の主旨に反するので、論理的思考を高めるようにより多くの質問を浴びせるなどのクラス運営が必要に思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

概ね今年度の方針が受け入れられたようなので、次年度も同じように進めたい。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科目 | 企業分析論 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春土2 |
| 受講者数 | 26 | 回答者数 | 19 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.59 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.06 | 3.16 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.65 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.76 | 4.74 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.82 | 4.84 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.59 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.53 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.35 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.18 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.06 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.71 | 4.68 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.76 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 1.88 | 2.79 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.13 | 2.79 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.65 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.59 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.53 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 17 | 19 | | | |



受講生の傾向

全体として出席率は高く、毎回平均して9割程度の受講生が出席している。ただ、極端に出席率が低い受講生が一部見られた。

今年度より受講対象が拡大し、1年次生も受講できるようになったことから、1年次生の受講生が全体の3割5分を占めた。その結果、分析の前提となる会計の基礎的な知識が不十分な受講生が増えたため、講義の内容に付いていけない受講生が大幅に増加した。特に、留学生にその傾向が強かったと言える。

全体の成績も昨年度との比較でかなり低下する結果となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

どこまで効果があったかは分からないが、毎回の講義の最後に、次回の講義の内容からテーマを選んで予習をしてもらうように指示を出すようにした。

また、単に分析のテクニックだけを伝えるのではなく、その背景や分析結果を受けてどのように判断するか的重要性を強調するように努めた。分析の結果が大事なのではなく、それを受けて自身の意見を構築し発信することが重要であることを引き続き伝えていきたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

多少の予習、復習をしないと意味のないような講義の組み立てを考える必要がある。勉学にしっかりと取り組んでもらえるような講義の構成を考えたい。

また、単なる分析のテクニックを習得することに終始しないように、演習の機会をとらえて、自分自身の意見を論理的に伝える訓練を多く取り入れたい。

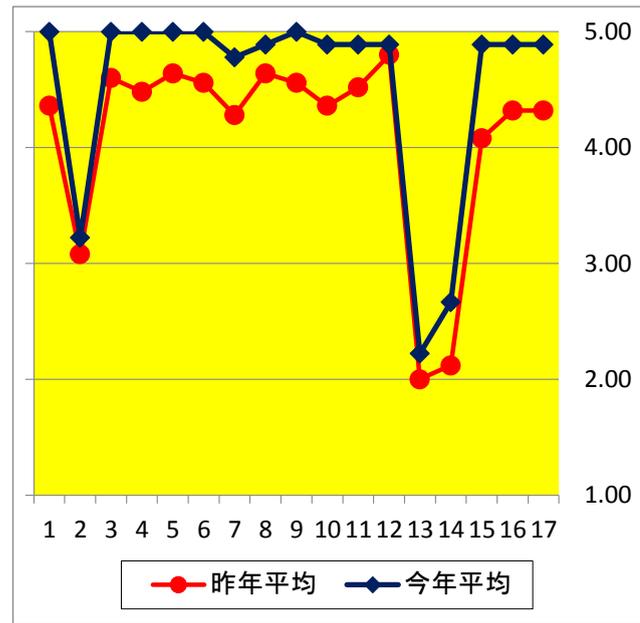
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計の基礎的な知識を身に付けていることを、受講の前提条件としてシラバスに明記した方がよいと感じた。また、可能であれば、開講時期を春学期から秋学期に変更することを検討しても良いのではないかと考えている。いずれにせよ、せつかくの受講時間をより実りの多いものとする事ができるように、受講の意思決定を行う段階で正しい選択をサポートする工夫が必要である。

講義内容に関しては、引き続き予習、復習を促す取り組みを模索していく必要がある。

| | | | |
|------|----------|------|-----|
| 科 目 | 商取引法<商法> | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春火1 |
| 受講者数 | 13 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.36 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.08 | 3.22 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.48 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.64 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.56 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.28 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.64 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.56 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 4.36 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.52 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.80 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.00 | 2.22 | 3 | 3 | 1 |
| 14 | 2.12 | 2.67 | 2・3 | 4 | 2 |
| 15 | 4.08 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.32 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.32 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 25 | 9 | | | |



受講生の傾向

今年度「商取引法」受講者は13人であった。これまでは「商法」という科目であったが、「商取引法」となり、範囲が広がり難易度も上がったが、受講生はほとんどが出席率もよく、受講態度もまじめであった。1年生はほとんどが企業法と同時並行で受講していることになるが、企業法は基礎のみを学習するが、商取引法はその分野においては、基礎から応用にいたるまで扱うので、企業法に比べて商取引法を難しく感じる学生がいたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は商取引法となり昨年度と異なり範囲が広がったが、その広い範囲をむらなく網羅的に理解できるよう心がけた。その反面、詳細については授業から割愛せざるを得なくなったが、この点は学生の自習にゆだねることとした。ただ、網羅的に扱うとメリハリのない授業となりがちであるのでこの点を気遣った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

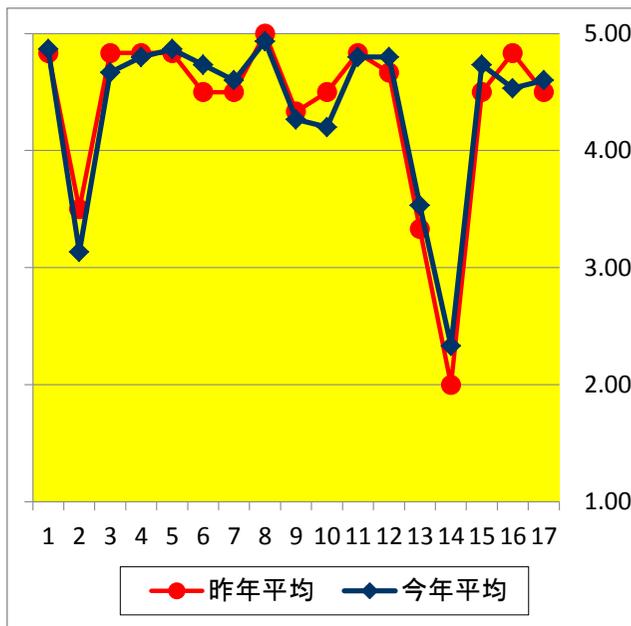
商法は、企業法や会社法などのように段階的に複数科目があるのとは異なり、この科目で完結させるものであるから、バランスを考えて授業する必要がある。上でも述べたが、範囲は広くないのでその範囲全体をしっかりと扱うのと同時に、しかし内容が平坦になって授業に対する興味を失わないようにすべく心がけたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は商取引法となり、進度・難易度ともに試行錯誤を繰り返したが、今後は学生が全範囲をむらなく網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるがより踏み込んだ議論にも言及して、メリハリのある授業を行っていきたいと思う。

| | | | |
|------|------|------|-----|
| 科目 | 法人税法 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春金2 |
| 受講者数 | 20 | 回答者数 | 15 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.83 | 4.87 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.50 | 3.13 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.83 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.83 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.83 | 4.87 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.50 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.50 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 5.00 | 4.93 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.33 | 4.27 | 4 | 5 | 3 |
| 10 | 4.50 | 4.20 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | 4.83 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.67 | 4.80 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 3.33 | 3.53 | 3・4・5 | 5 | 1 |
| 14 | 2.00 | 2.33 | 2 | 4 | 1 |
| 15 | 4.50 | 4.73 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.83 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.50 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 6 | 15 | | | |



受講生の傾向

本科目は、新カリキュラムによって配当年次が変更された関係で、受講生が20名と昨年の3倍強となった。受講生のほとんどは、公認会計士志望者と税理士志望者から構成されていた。今年度のアンケート結果は、昨年度とあまり大きく変わらないが、授業ごとに提出させる判例レポートの提出遅れが多く、最終的には提出しないまま授業に来なくなる学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の今後の対応の欄に記載した組み合わせを今年度も採用した。なお、課題レポートの判例数は、昨年度と同様、15件とした。また、今年度は課題の判例数よりも受講者数の方が多かったため、1つの判例に複数の受講生に報告をさせることで対応することにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

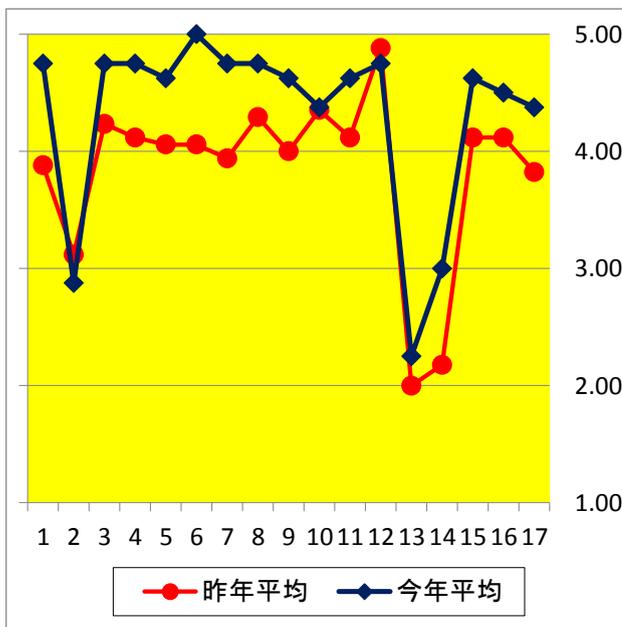
課題レポートの判例を学生に報告させ、かつ、公認会計士試験の過去問である記述式問題を解かせるという組み合わせは、受講生にとって有効な学習方法であったと思われる。なお、受講生に課すべき判例数(現在は15)をどの程度まで増やすかについては、講義スケジュールとの関係から検討を行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

定期試験を通じて、受講生が条文集を使って、うまく答えを組み立てられないことが確認できた。そこで、公認会計士試験の過去問を題材として、受講生に文章を書くトレーニングをさせるべく、そのための時間を授業内で確保する。

| | | | |
|------|---------|------|-----|
| 科目 | 上級税務会計論 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春木4 |
| 受講者数 | 11 | 回答者数 | 8 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 3.88 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.12 | 2.88 | 3 | 3 | 2 |
| 3 | 4.24 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.12 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.06 | 4.63 | 5 | 5 | 2 |
| 6 | 4.06 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 3.94 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.29 | 4.75 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.00 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.35 | 4.38 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.12 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.88 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.00 | 2.25 | 3 | 3 | 1 |
| 14 | 2.18 | 3.00 | 3 | 4 | 2 |
| 15 | 4.12 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.12 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 17 | 3.82 | 4.38 | 5 | 5 | 2 |
| 回答者数 | 17 | 8 | | | |



受講生の傾向

受講生のうち、5名は税務会計の既修者であったが、初学者の多くは留学生であった。そのため、質問No.2が示すように、授業の進度を少し落としたが、留学生にとっては授業についていくことがしんどかったようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本科目は法人税法、租税法会計論は所得税法と消費税法と範囲を明確に切り分けた。また、テキストは昨年度に使用したものが有効であったため、その平成30年度版を使用した。また、公認会計士試験の過去問を解答プロセスも記載した上で受講生に配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

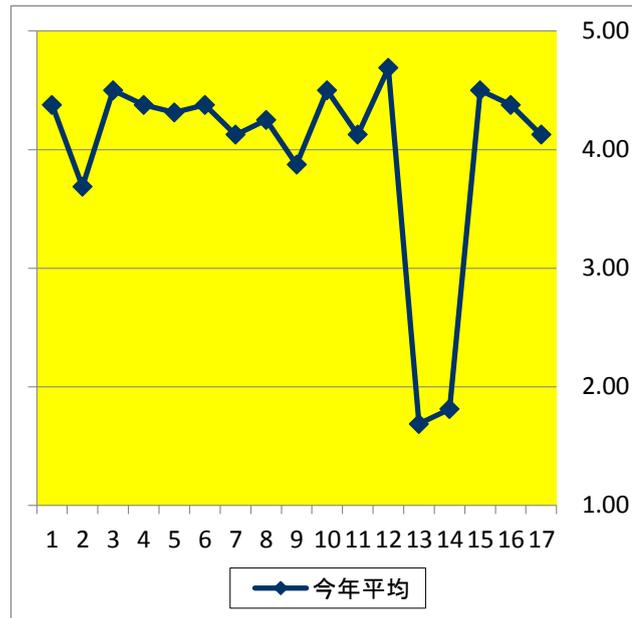
法人税法の税額計算部分を上級税務会計論で取り扱う方が、受講生にとって理解しやすい分野があることがわかった(所得税額控除や外国税額控除など)。従って、次年度の上級税務会計論の内容は、租税法会計論との関係から再検討する予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験で取り扱われる法人税の計算項目が拡大してきている。これに対し、授業時間には制限がある。従って、重要度の高い項目にウェイトをかけて講義を行うなど、メリハリをつけた対応をとっていきたい。

| | | | |
|------|-------------------|------|--------|
| 科 目 | 特殊講義(企業マネジメントと会計) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春前月6~7 |
| 受講者数 | 23 | 回答者数 | 16 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.38 | 5 | 5 | 2 |
| 2 | — | 3.69 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | — | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 4 | — | 4.38 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | — | 4.31 | 5 | 5 | 2 |
| 6 | — | 4.38 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | — | 4.13 | 5 | 5 | 2 |
| 8 | — | 4.25 | 4・5 | 5 | 2 |
| 9 | — | 3.88 | 3 | 5 | 3 |
| 10 | — | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | — | 4.13 | 5 | 5 | 2 |
| 12 | — | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | — | 1.69 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | — | 1.81 | 1 | 5 | 1 |
| 15 | — | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | — | 4.38 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | — | 4.13 | 5 | 5 | 2 |
| 回答者数 | — | 16 | | | |



受講生の傾向

社会人14名、学生9名、合計23名の構成であった。社会人の中には、まったく出席しなかった者が1名いたが、それ以外は出席も良好で、受講態度も大変優良であった。インターラクティブなクラスを目指したが、それに応えて積極的な発言も多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年なし

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

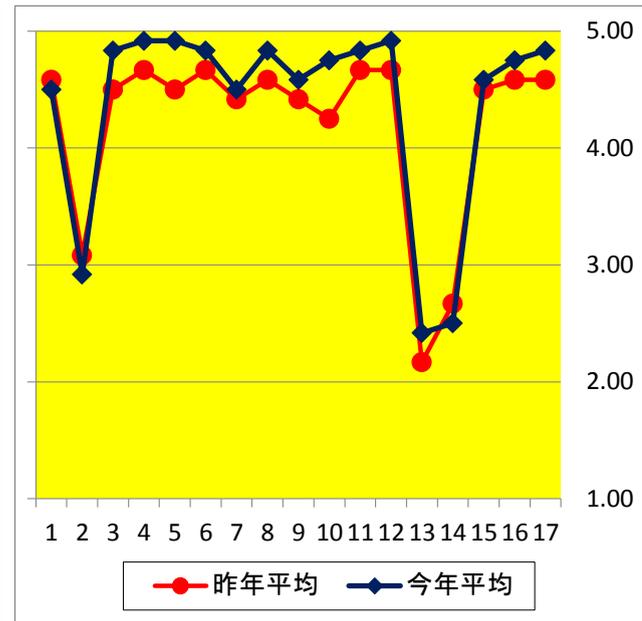
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

4人の班編成(社会人・学生の混合チーム)でのグループワークは有効であったように思うので、これは続けたい。一方、会計の知識にばらつきがあり、会計の初心者に対しては基本的なことを説明したにも拘わらず、難しいという印象を取り去ることはできなかったように思う。レベルに差のある受講生への対応は難しいが、基礎的なところから、高度なところまでバランスよく盛り込むことが必要だと思う。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科目 | 上級会社法 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春火4 |
| 受講者数 | 14 | 回答者数 | 12 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.58 | 4.50 | 5 | 5 | 2 |
| 2 | 3.08 | 2.92 | 3 | 3 | 2 |
| 3 | 4.50 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.67 | 4.92 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.50 | 4.92 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.67 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.42 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.58 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.42 | 4.58 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.25 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.67 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.67 | 4.92 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.17 | 2.42 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.67 | 2.50 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.50 | 4.58 | 5 | 5 | 2 |
| 16 | 4.58 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.58 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 12 | 12 | | | |



受講生の傾向

今年度は受講生が14名と授業の難易度の高さからすると、例年に比べて若干多い状況であった。内容が高度であり「会社法」を理解していなければ理解の難しい科目であるにもかかわらず、このような結果となるのは会社法に興味を抱いてくれた結果であろう。全員の授業態度は非常にまじめで熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は上記で示したように受講生が若干多かったため、個々の学生のレベルにばらつきがあり、これを見極めながら授業を行った。つまり、それぞれの学生の理解度を見つつ、本来であれば上級会社法では扱わないような基本的なレベルでも、受講生が理解できていないようであれば解説し、逆に上級で詳細に説明する予定のところ、学生が理解できている場合には簡単に説明したりするというを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

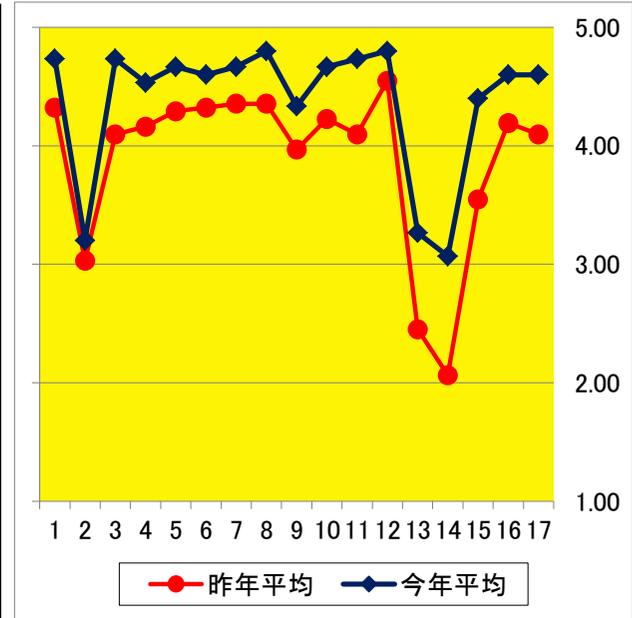
今年度はやや人数が多くなってはしまったが、今後もこのような人数ないしこれ以上であったとしてもきめ細かな指導ができるよう心掛けたい。上級会社法は、2年生配当科目であるからこれまでに企業法や会社法といった科目をすでに履修してきている。受講生のこれまでの学習レベルや弱点等はこちらで把握できているので、これまでの授業と継続させて学生を指導することによって、引き続き細かな指導ができるよう実践したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまで個人指導的に対話および論文指導を行ってきたが、若干受講者が増えてもきめ細かな指導を継続していきたい。受講生それぞれのレベルや理解度を把握するように心がけるとともに、それを実行するためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。また、上級会社法は、会社法から続く科目であるので、なるべく会社法で扱うところは会社法で、上級で扱うところは上級でという厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 科目 | 会計事例研究 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春水3 |
| 受講者数 | 15 | 回答者数 | 15 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.32 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.03 | 3.20 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.10 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.16 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.29 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.32 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.35 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.35 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 3.97 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.23 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.10 | 4.73 | 5 | 5 | 2 |
| 12 | 4.55 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.45 | 3.27 | 2・3・5 | 5 | 1 |
| 14 | 2.06 | 3.07 | 2・3 | 5 | 1 |
| 15 | 3.55 | 4.40 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.19 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.10 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 31 | 15 | | | |



受講生の傾向

授業の2回に1回はグループで選択したテーマでディスカッションを実施したが、概ね積極的に参加していた。グループ毎の発表に際しては全員熱心ではあるものの、留学生の中には日本語への対応に苦労している者が見受けられた。最終回は個人での発表にしたが、全員が真摯に対応していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年に引き続き、ディスカッション形式のアクティブラーニングを取り入れた。出来るだけ最近の会計実務事例を題材に取り上げて解説し、ディスカッションと発表をしてもらうようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

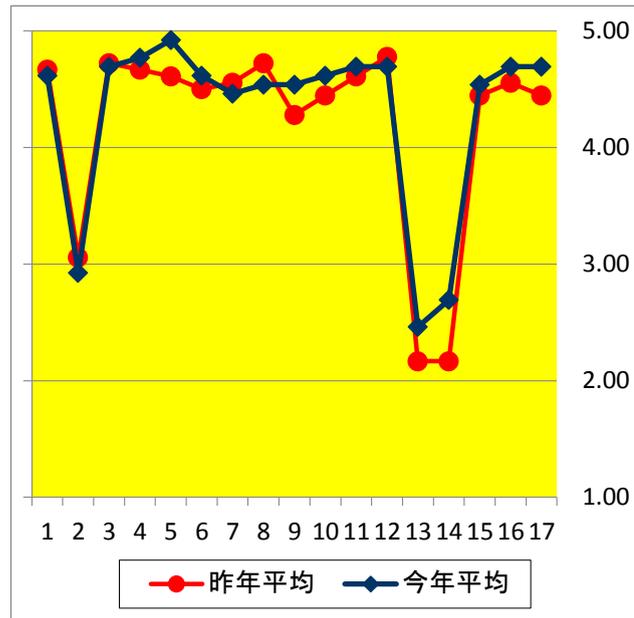
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

グループでのディスカッションにすると個々の受講生の実力が見えにくくなることもあるので、全員に発表と書記と司会の役割を分担してもらうとともに、個人での分析発表の機会を増やすことを検討する。

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 科 目 | 会社経理実務 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春土1 |
| 受講者数 | 15 | 回答者数 | 13 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.67 | 4.62 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.06 | 2.92 | 3 | 3 | 2 |
| 3 | 4.72 | 4.69 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.67 | 4.77 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.61 | 4.92 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.50 | 4.62 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.56 | 4.46 | 4 | 5 | 4 |
| 8 | 4.72 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.28 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.44 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.61 | 4.69 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.78 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 2.17 | 2.46 | 2・3 | 5 | 1 |
| 14 | 2.17 | 2.69 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.44 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.56 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.44 | 4.69 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 18 | 13 | | | |



受講生の傾向

出席率は平均して8割程度だが、多くの学生が9割以上出席する中、休みがちの学生が全体の出席率を引き下げた結果である。出席率の高い学生は授業に対しても熱心に取り組んでおり、一部の例外を除き好成績を獲得する傾向にあった。

留学生が受講生の約半数を占めているが、語学力が壁となり授業、課題ともに苦労していた印象を受けた。ただ、平均点で見ると、留学生と日本の学生で成績にそれほど大きな差はなく、努力の跡が見て取れた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第1回目の講義で、全15回の講義と財務諸表との関係を示す1枚ものの資料を配布し、講義の全体像を俯瞰できる工夫を行った。それによって、各回の講義が独立したものではなく関連していることを伝えることができたのではないかと考える。

また、各回の講義の最後に、次回の講義に関連して設定したテーマを予習してくるよう伝えるようにした。アンケート結果を見る限り、予習時間に顕著な変化は見られないため、まだ工夫の余地があると感じる。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

1回の講義が特定のテーマで完結するように構成していることから、講義と講義のつながりを意識させることができなかつたように感じる。それぞれの講義内容が関連していることが分かる全体像を示した上で進行することによって、より興味をもって積極的に受講してもらえる可能性があると考えられる。

また、例えば次回の講義内容に応じた予習課題を出すことで、当日の講義内容を聞くだけに止まらない工夫が必要である。

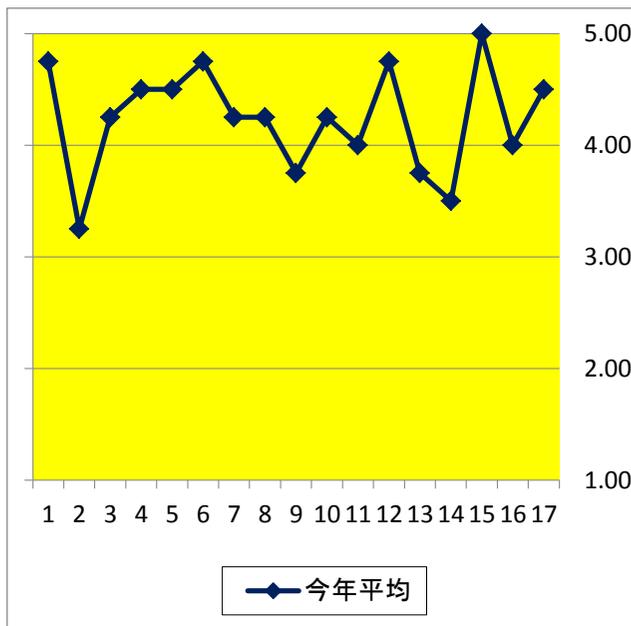
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き現場の経理実務がイメージできるような説明の仕方を模索し、試行錯誤を繰り返す。

また、講義中、予習および復習の組み合わせでより深く学んでもらえるような講義の進め方、課題の設定を工夫する必要がある。

| | | | |
|------|-----------------|------|-----|
| 科 目 | 論文指導(導入)(中村クラス) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 春月5 |
| 受講者数 | 5 | 回答者数 | 4 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | — | 3.25 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | — | 4.25 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | — | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 5 | — | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 6 | — | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | — | 4.25 | 4 | 5 | 4 |
| 8 | — | 4.25 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | — | 3.75 | 3 | 5 | 3 |
| 10 | — | 4.25 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | — | 4.00 | 5 | 5 | 2 |
| 12 | — | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | — | 3.75 | 5 | 5 | 2 |
| 14 | — | 3.50 | 2 | 5 | 2 |
| 15 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | — | 4.00 | 5 | 5 | 2 |
| 17 | — | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | — | 4 | | | |



受講生の傾向

受講生のうち、4名は税法免除論文の執筆を希望し、残りの1名は租税法に関心のある留学生であった。また、社会人経験のある受講生は4名で、そのうち税実務の経験者は3名であった。講義では、この3名が議論の中心となり、残りの2名もその議論についていこうとしていた。質問No.16の結果が示す通り、受講生は本講義を通じて租税法に関する知識の向上を実感できたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

租税法において最も重要な税目である所得税の基本書を輪読させた。その際、報告者にはレジュメを作成させた上で、プレゼンを行わせた。また、報告者以外の受講生にも必ず講義中に一度は質問をするように指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

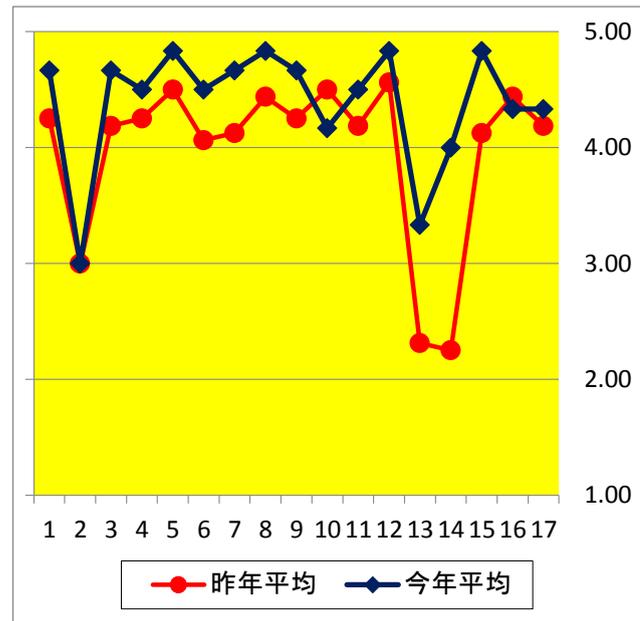
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

輪読する租税法の文献は、受講生の意向を確認した上で選定したい(最近では、所得課税だけでなく、消費課税や資産課税に関心のある受講生が増えているため)。

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 科 目 | インベストメント論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春月4 |
| 受講者数 | 6 | 回答者数 | 6 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.25 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.19 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.25 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.50 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.06 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.13 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.44 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.25 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.50 | 4.17 | 5 | 5 | 1 |
| 11 | 4.19 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.56 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.31 | 3.33 | 3・4 | 5 | 1 |
| 14 | 2.25 | 4.00 | 3・5 | 5 | 3 |
| 15 | 4.13 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.44 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.19 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 16 | 6 | | | |



受講生の傾向

受講者6名中5名が中国からの留学生であり、日本語にやや難があった。また、高校レベルの数学等、授業を受けるのに必要な基礎力が不足しており、授業についていくのが難しいという状況であった。その中、日本人1人と中国からの留学生2人は非常に努力して、授業についてきたが、残りの3人は授業への出席も悪く、努力もしないため、全くついてこれない状態であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年とほぼ同様の授業を行った。基礎的な知識の不足から、努力の必要なレベルの授業となっていたが、3人は大変努力してついてきていたので、前年並みの授業を行うことができた。それに対し、残りの3人は努力をしようとならないので、申し訳ないが、授業についてこれない状況であった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

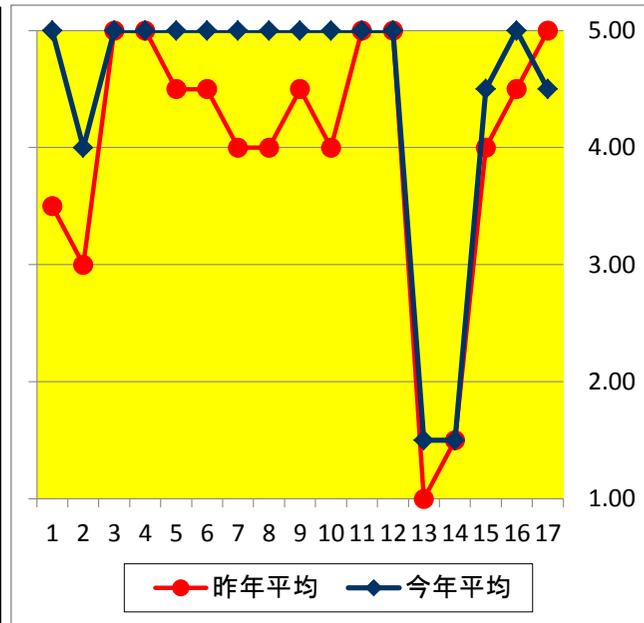
今年度と同様の対応を行う。つまり、会計との関連を意識しつつファイナンスに特化した内容の授業を行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度と同様の対応を行う。つまり、会計との関連を意識しつつファイナンスに特化した内容の授業を行う。

| | | | |
|------|------|------|-----|
| 科目 | 公監査論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春水3 |
| 受講者数 | 2 | 回答者数 | 2 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 3.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.00 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 3 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 1.00 | 1.50 | 1・2 | 2 | 1 |
| 14 | 1.50 | 1.50 | 1・2 | 2 | 1 |
| 15 | 4.00 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 5.00 | 4.50 | 4 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 2 | 2 | | | |



受講生の傾向

2名の受講者があり、2名とも公的部門の知識は殆どなく、シラバスで興味を持ったようであった。概ね真面目な受講態度であったと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回のアンケート結果を踏まえ、できるだけ最新のトピック(日本の国会での議論(森友学園を巡る会計検査院等の対応、アメリカのロシア疑惑に関連する司法省監察総監の対応等)を紹介し、興味を引くように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

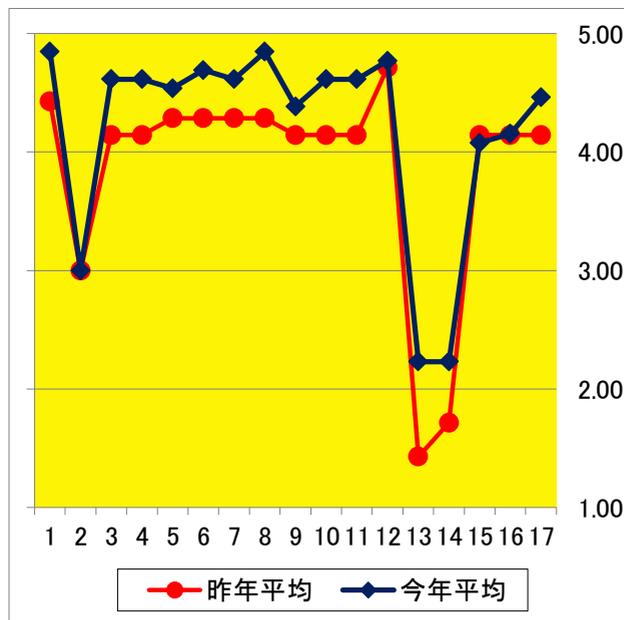
受講者数が限られる中、シラバスを工夫することにより、できるだけ受講者を増やしたい。さらに、トピックを提供する等により、学生のパブリックセクターにおける監査に対する関心を高めたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

2年次であること、1年次から公的部門に触れる機会が少ないこと等から、受講者が少ないのが問題と認識する。会計専門職の活躍場所としてはこれから多いに期待できることから、授業内外でもう少し学生の関心を高める工夫をしたい。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科 目 | 資本市場論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春水2 |
| 受講者数 | 15 | 回答者数 | 13 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.43 | 4.85 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.14 | 4.62 | 5 | 5 | 2 |
| 4 | 4.14 | 4.62 | 5 | 5 | 2 |
| 5 | 4.29 | 4.54 | 5 | 5 | 2 |
| 6 | 4.29 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.29 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.29 | 4.85 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.14 | 4.38 | 5 | 5 | 2 |
| 10 | 4.14 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.14 | 4.62 | 5 | 5 | 2 |
| 12 | 4.71 | 4.77 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 1.43 | 2.23 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 1.71 | 2.23 | 1 | 5 | 1 |
| 15 | 4.14 | 4.08 | 5 | 5 | 1 |
| 16 | 4.14 | 4.15 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | 4.14 | 4.46 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 7 | 13 | | | |



受講生の傾向

受講生15名中11名が留学生という構成で、日本語能力に若干問題のある者やパソコン操作が不得手な者がおり、開講当初はコミュニケーションがうまく取れず、講義内容を理解してもらえたか苦慮した。

そのため、事例演習を中心に、パソコンを活用し、受講生同士で協議して回答を導き出させる方式に転換したところ、質問や相談事項が増加し、コミュニケーションが取れるようになった。

日本人の受講生は一般企業の経理職志望者及び企業就職者は、実務的な知識を欲していたため、講義に積極的に質疑に参加してくれた。その一方で試験合格者が1名おり、その者にとっては期待したレベルの講義を提供できなかったのか、講義に対して無関心であったように思われた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

個別事例を中心に実践的な講義を行うよう留意するとともに、疎外されそうな受講生にできるだけ話しかけるようにした。ただ、話かけられたくない受講生からはあからさまな拒絶反応にあったことは反省材料である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生の将来志望を聴取し、興味をもってくれそうな課題を選定し、対話を重視した講義を展開したい。

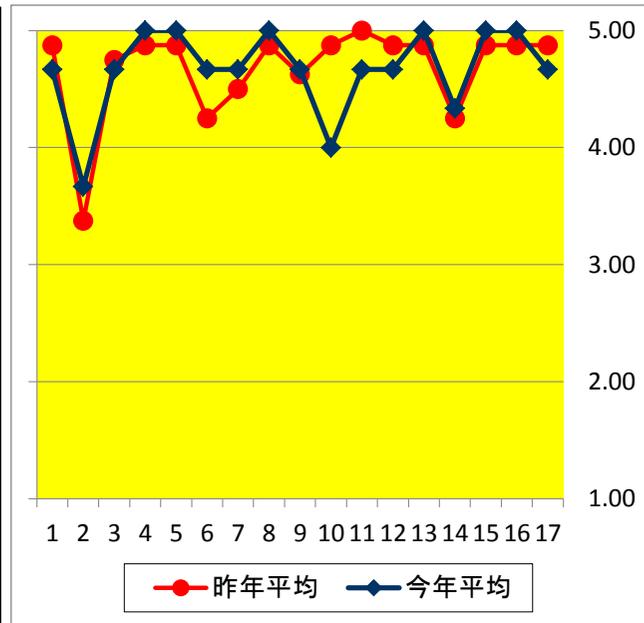
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

単年度契約なので、一般論として回答します。

受講生間のレベルに差がありすぎて、事前にテーマを決めて受講生らに発表させることは難しく、講義形式にならざるを得なかった。ただし、一方的な講義であれば受講生が内容に興味を持ってもらえないため、事例を中心に参加型の講義内容で進めるのが現実的と思われる。また、適当な事例を設定し、ミニテストを適宜行うことも効果的と思われる。

| | | | |
|------|-----------------------------|------|------|
| 科 目 | ソリューション・イン・プロフェッショナル(松本クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春木 5 |
| 受講者数 | 3 | 回答者数 | 3 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.88 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.38 | 3.67 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.75 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.25 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.50 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.63 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.88 | 4.00 | 3・4・5 | 5 | 3 |
| 11 | 5.00 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.88 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | 4.25 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 15 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.88 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 8 | 3 | | | |



受講生の傾向

最終学期の個別演習ということもあり、昨年度よりは低下しているものの、出席割合(項目12)は全員がほぼ80%となっており、受講生の極めて高いモラルが見出せる。全員が公認会計士を志望したこともあり、課題を達成するための予習(項目13)・復習(項目14)の何れにもおいて時間を確保していることが判る。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最終学期ということで、監査論の諸論点を網羅的かつ総合的に扱い、より実践的な演習とした。受講生には、監査論に関する各種論点について重要ポイントを抽出させ、かつ正しい流れの解答を事前に準備させた。演習時には個々の解答を添削するとともに、それぞれの弱点ないしは判りにくい点に関して相互に検討するための機会とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

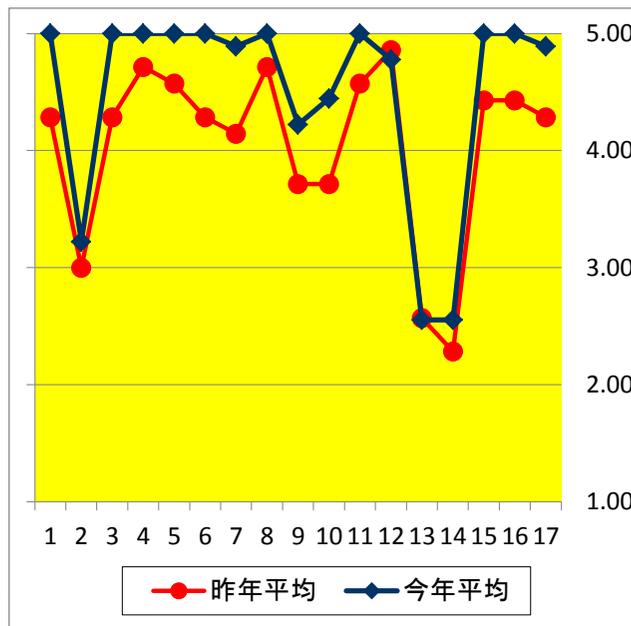
監査論の個別論点に対応する能力を身に付けることは可能となっているが、各論点の相互関係やその応用になると格段に対応能力が落ちる傾向にあるので、各受講生の応用力を養える演習指導が必要と思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

監査論の普遍的な個別論点に対応する能力を身に付けることは可能となっているが、各論点の相互関係やその応用になると格段に対応能力が落ちる傾向にある。このため、普遍的論点に対応した実例を用いて、各受講生の応用力を養える演習指導が必要と思われる。

| | | | |
|------|-----------------------------|------|-----|
| 科 目 | ソリューション・イン・プロフェッショナル(三島クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春火5 |
| 受講者数 | 11 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.29 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.00 | 3.22 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.29 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.71 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.29 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.14 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.71 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 3.71 | 4.22 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 3.71 | 4.44 | 5 | 5 | 2 |
| 11 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 4.86 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.57 | 2.56 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.29 | 2.56 | 2 | 5 | 1 |
| 15 | 4.43 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.43 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.29 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 7 | 9 | | | |



受講生の傾向

今回は本授業の受講生は11人であった。昨年度よりも人数が増えたが、授業には全員が熱心かつまじめに取り組んでおり、予習・復習もしっかりと行っていた。受講生の学習進度に差異は見られたが、班形式でグループディスカッションとすることで、むしろ議論を活発化させる方向に働いたように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は11人いたが個人指導というスタンスはそのままとして、個々の受講生の要望に応える形で、例えばテーマ選びや論文指導などを適宜行いながら授業を行った。また、受講生の要望として、受講生の多くが判例の考察や論点演習という形式があげられたので、このような形式で理解を深めることにも努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

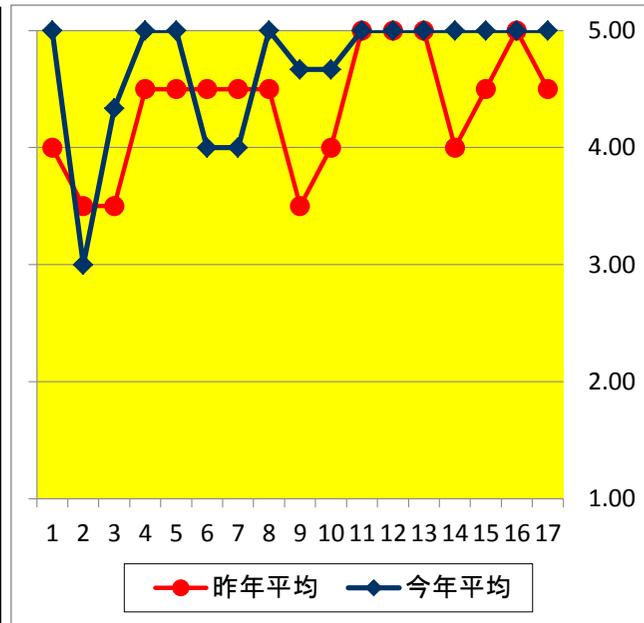
今後も受講生数によってはグループ学習という形態をとっていきたい。ただし、受講生単独による考慮から始まり、構成された班による主体的な議論から報告に至るまでを学生によるイニシアチブで授業が進められるように確立したい。しかし学生数やそれぞれの学生の学習目的やその実力によっては、今回行った方法が必ずしもとれるというわけではないので、その場合にはそれぞれの学生に適合したきめ細かな指導ができるよう対応していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の数が11人程度となると、個人指導以外に半形式でのグループディスカッションやプレゼンテーション形式で授業が行えるようになり、これがさらに個々の学生の能力をアップさせることにつながると思う。今後は学生間における議論も積極的に行われるよう、課題や教材の選定から授業方法に至るまで、考えていきたい。

| | | | |
|------|-----------------------------|------|-----|
| 科目 | ソリューション・イン・プロフェッショナル(中村クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春火5 |
| 受講者数 | 3 | 回答者数 | 3 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.50 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 3.50 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.50 | 4.00 | 3・4・5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.50 | 4.00 | 3・4・5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 3.50 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.00 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 2 | 3 | | | |



受講生の傾向

今年度の受講生も全員が税理士志望であり、租税法に関する修士論文の執筆中である。質問No.13及び14の結果の通り、受講生は昨年度よりも予習と復習に時間をかけて臨んでいた。その成果は、昨年度よりも講義内における受講生間の活発な議論となって表れていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

第一回講義時にレジメを棒読みしないように注意喚起を行った(ただ、1回の注意喚起では棒読みは直らなかったため、繰り返し注意喚起を行う必要があった)。また、英文の翻訳自体を報告と勘違いした受講生に対しては、翻訳自体は報告のための事前作業に過ぎず、英文ないし翻訳文から得られた知見を報告するよう指導した。あと、例年のことであるが、引用もれと孫引きが頻発したため、繰り返し注意喚起を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

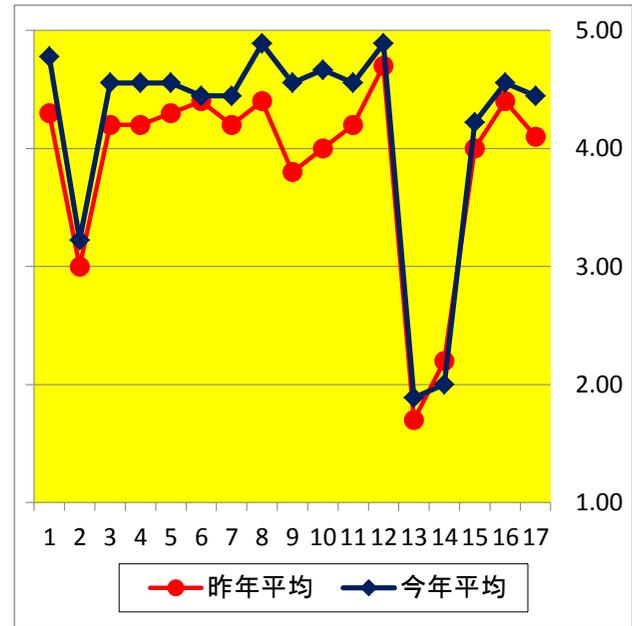
受講生のレジメについては、講義を通じて徐々にレベルアップしてきたが、プレゼンについては、レジメの文章をそのまま棒読みする場面が散見された。受講生自身の言葉でプレゼンをすることができるよう、何度も繰り返し指導していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまで受講生がプレゼンにおいてどのような失敗をしてきたかをレジメに記載した上でさらに注意喚起を行う方法を試してみたい。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科 目 | 会計戦略論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春火1 |
| 受講者数 | 9 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.30 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.22 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.20 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.20 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.30 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.40 | 4.44 | 5 | 5 | 1 |
| 7 | 4.20 | 4.44 | 5 | 5 | 2 |
| 8 | 4.40 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 3.80 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.00 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.20 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.70 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 1.70 | 1.89 | 1 | 3 | 1 |
| 14 | 2.20 | 2.00 | 2 | 3 | 1 |
| 15 | 4.00 | 4.22 | 5 | 5 | 2 |
| 16 | 4.40 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.10 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 10 | 9 | | | |



受講生の傾向

全ての受講生がほぼ毎回出席し、積極的に受講している受講生がほとんどであった。例年よりも受講者数が多かった昨年と同程度の受講生数であった。全ての受講生がほとんど毎回の授業からより多くの知識を得ようとしていたようであり、学習意欲の高い受講生であったと感じる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の人数に依存せず、積極的なディスカッションがなされるよう工夫を講じたつもりであった。特に授業中に受講生に授業内容での事例についてどう感じるか質問したり、プレゼンにおいて受講生の中の質疑応答を強く奨励した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

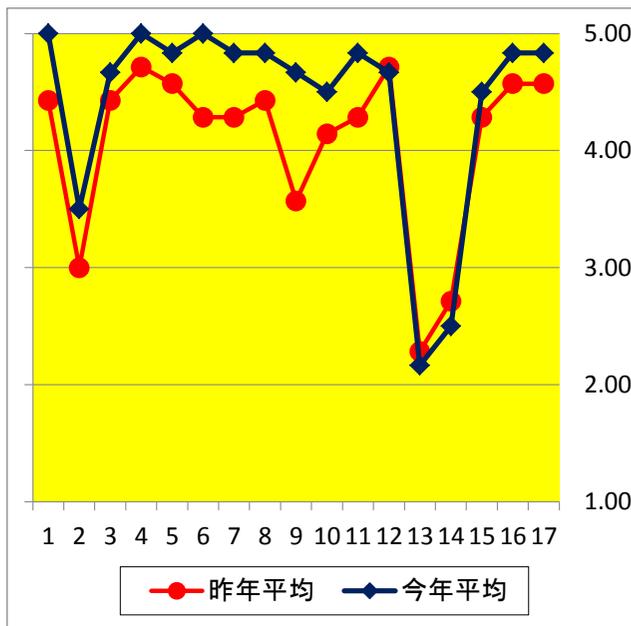
受講生が例年より多かったこともあり、ともすると受講生が受け身になりやすい状況が受講生の積極的な受講態度で回避できていた部分もある。受講生の人数に依存せず、積極的なディスカッションがなされるような工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

カリキュラム改訂に伴い、本授業科目は廃止されるため、今後の対応は特にはないが、仮に継続するとすれば、次回の授業で扱う内容に関する簡単な課題を各回の授業で与えるなどの所作を追加し、受講生がより積極的に受講できるよう工夫を講じたいと思う。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科目 | 資産会計論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春金3 |
| 受講者数 | 7 | 回答者数 | 6 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.43 | 5.00 | 3 | 5 | 3 |
| 2 | 3.00 | 3.50 | 5 | 5 | 3 |
| 3 | 4.43 | 4.67 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.71 | 5.00 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.57 | 4.83 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.29 | 5.00 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.29 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.43 | 4.83 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 3.57 | 4.67 | 4・5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.14 | 4.50 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.29 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.71 | 4.67 | 2 | 3 | 1 |
| 13 | 2.29 | 2.17 | 1・3 | 5 | 1 |
| 14 | 2.71 | 2.50 | 5 | 5 | 3 |
| 15 | 4.29 | 4.50 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.57 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.57 | 4.83 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 7 | 6 | | | |



受講生の傾向

受講生は真面目で、講義しやすい状況であった。講義中の発言も積極的で、ディスカッションも活発であった。講義展開は昨年と同様であるが、アンケート結果は全体的に昨年度よりもポイントが高くなっている。下記のように、受講生の習熟度に合わせて工夫したことが効果的であったと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計上の資産について重要なテーマを取り上げ、その現行制度上の取扱いを中心に講義をした。会計基準等の現物を教科書として使用し、「原文に慣れ親しむ」というコンセプトのもとで、「原文の表現をもとに学ぶ」ことを重視した。昨年度とは異なり、簿記と理論の習熟度が高い学生は少なかったため、講義で取り上げる論点を減らして丁寧な説明を心がけ、受講生とのコミュニケーションを大切にしながら、彼らの理解を確認しながら講義を進めた。また、受講生各自に課題研究を行わせ、問題意識の持ち方や論理展開の方法などについて、簡単な論文指導を行った。そして、全員で発表とディスカッションを行って発言力と思考力を養い、一定程度のクオリティの高いレポートを仕上げるトレーニングをした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

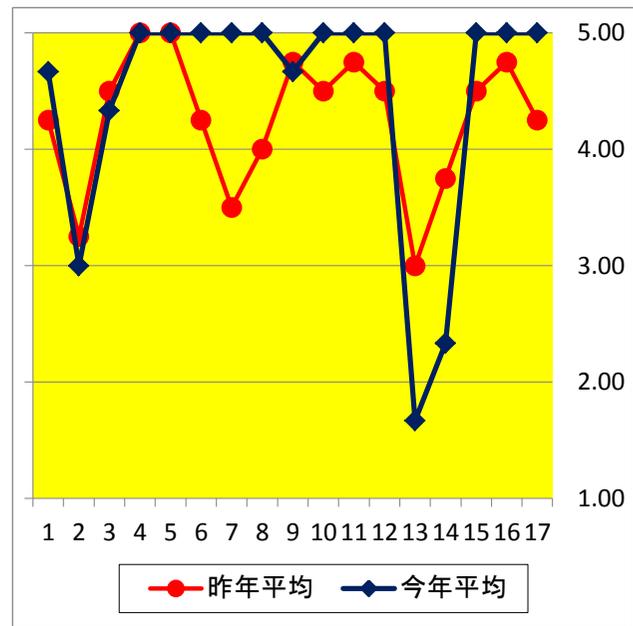
講義展開としては、全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。ただ、テストの回数(質問9)については、再考の余地がある。例年、テストは3回実施しているが、前々年度までは質問9のポイントは4.0を超えていた。回数を減らすと1回の出題範囲が増えるので受講生にとっては負担が増えるし、逆に、回数を増やすと講義で取り扱うテーマが減ってしまい講義内容が薄くなるので、難しいところである。今後の課題としたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義展開としては、全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。なお、昨年度に課題としたテストの回数については、今年度に高いポイントを得ているので、継続して様子を見ることにしたい。

| | | | |
|------|---------|------|-----|
| 科目 | 負債・資本金論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春火3 |
| 受講者数 | 7 | 回答者数 | 3 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.25 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.25 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.50 | 4.33 | 4 | 5 | 4 |
| 4 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.25 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 3.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.75 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | 4.75 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.00 | 1.67 | 1 | 3 | 1 |
| 14 | 3.75 | 2.33 | 3 | 3 | 1 |
| 15 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.75 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.25 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 4 | 3 | | | |



受講生の傾向

予習復習の時間は少ないものの、毎回出席の3名が回答したようです。総じて講義内容に満足しているようであり、この科目の講義の進め方があっていったようだ。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の数が多くなると実行できないが、前半は論点を選んで解答させる訓練をさせ、後半は選んだテーマ(基準)に基づいて報告させ全員で討論するという形式を採用している。6名程度まではこの方式で効果を上げることができると考えている。反対に10名を超えると講義の割合が多くせざるを得ない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

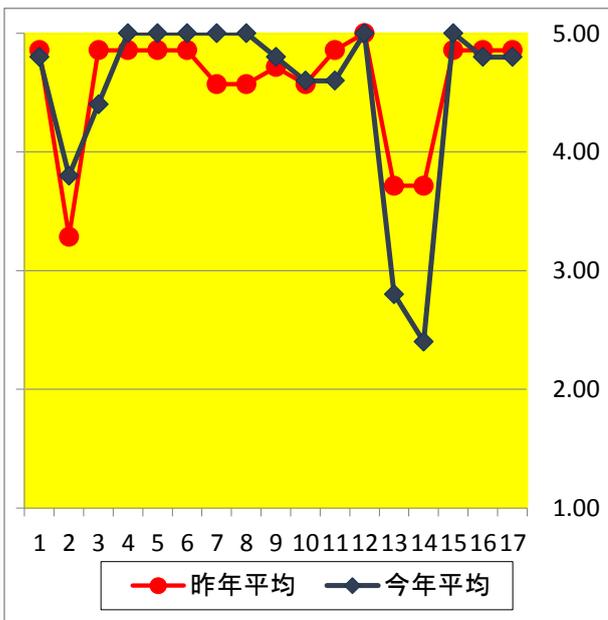
次年度もこれまでと同様にこの授業方法を継続したい。人数が10名程度になると、授業方法について見直しをかける(PPTによる講義が中心)。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の成績が良いので、次年度も効果の出やすい討論中心の講義としたい。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科 目 | 保証業務論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 春金1 |
| 受講者数 | 6 | 回答者数 | 5 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.86 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.29 | 3.80 | 3・4 | 5 | 3 |
| 3 | 4.86 | 4.40 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.71 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.57 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.86 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.71 | 2.80 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 3.71 | 2.40 | 2 | 4 | 2 |
| 15 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.86 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.86 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 7 | 5 | | | |



受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」「監査基準」等のその他の基本的な監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっていることから、出席率は去年に引き続きほぼ100%であった(項目12)。ただ教員に対する評価(熱意[項目4]、説明の方法[項目5]、配布資料[項目6]、機材の利用[項目7]、質問対応[項目8])は非常に高いにもかかわらず、予習(項目13)と復習(項目14)が昨年度に比して、極端に低くなっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

保証業務に関する枠組みと実務指針の他、アメリカの基準及び国際基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半において習得された保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、自らが提案する当該保証業務の魅力を読かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行ったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに相互評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終始しないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンテーションについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼンテーション能力の向上を期待した。最終的に当該業務に関する提案書をレポートの形で提出させ、採点し、その点数と相互評価の結果を纏めて成績の評価とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

過年度に提案された保証業務と優秀な提案業務を予め提示する方法を採用し、過年度よりも理解を高度化するとともに、当該理解がより優れた保証業務の提案に反映されるように期待したい。

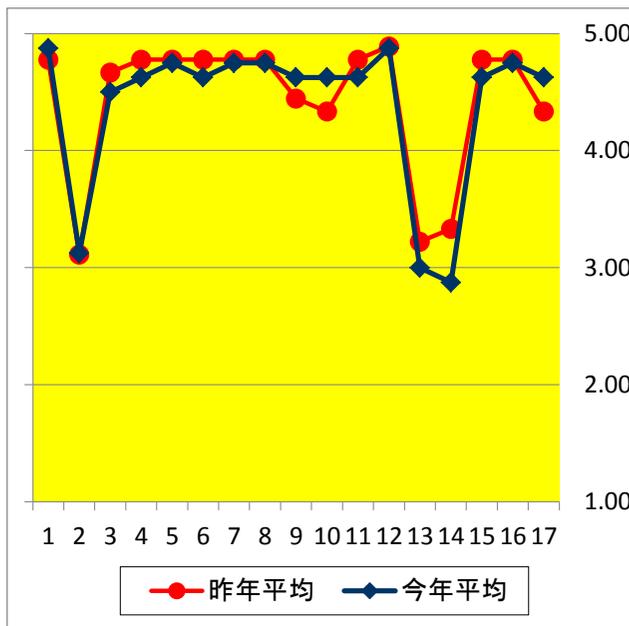
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前半で習得した専門知識が必ずしも咀嚼し切れておらず、後半の保証業務提案が不十分な形でなされるケースが多い。このため、過年度よりも理解を高度化するとともに、当該理解がより優れた保証業務の提案に反映されるように期待したい。

Ⅲ-(2). 2018 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 科目 | 中級商業簿記(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋金5 |
| 受講者数 | 9 | 回答者数 | 8 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.78 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.11 | 3.13 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.67 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.78 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.78 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.78 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.78 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.78 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.44 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.33 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.78 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.89 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 3.22 | 3.00 | 1・3・5 | 5 | 1 |
| 14 | 3.33 | 2.88 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.78 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.78 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.33 | 4.63 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 9 | 8 | | | |



受講生の傾向

受講生は、春学期に本科目の単位が不認定となった学生であり、ほとんどが留学生であった。若干名ではあるが、入学前履修の制度により受講した学生もいた。前者の学生は、日商簿記2級程度の理解が不足していたが、次第に要領を得てきて、積極的に問題を解けるようになっていった。後者の学生は、理解を深めようとする気持ちが強く、受講態度は真面目で意欲的であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記一巡の流れを明確に意識するように指導し、そのように講義資料も工夫した。上級レベルの内容を理解する上で重要な論点は、優先的に取り上げて講義した。仕訳は、パターンとして「覚える」のではなく、「考える」ように指導した。また、講義中は全体説明よりも問題演習に重点をおき、個々人の習熟度に応じてコミュニケーションをとりながら個別指導を行うなど、全員の理解を確認して回った。さらに、定期的ミニテストを行い、それを即座に採点して個別指導するなど、ひとりひとりの理解力アップを図ることを大切にしたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

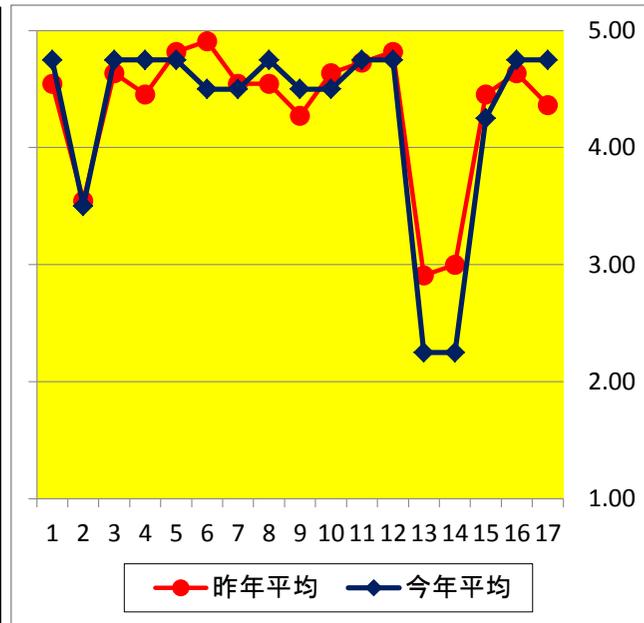
受講生の大半が留学生であり、日本語でのコミュニケーション力にも差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。しかし、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の大半が留学生であり、日本語でのコミュニケーションや理解にも差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 科目 | 中級工業簿記(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋木5 |
| 受講者数 | 6 | 回答者数 | 4 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.55 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.55 | 3.50 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.64 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.45 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.82 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.91 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.55 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.55 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.27 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.64 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.73 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.82 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.91 | 2.25 | 3 | 3 | 1 |
| 14 | 3.00 | 2.25 | 3 | 3 | 1 |
| 15 | 4.45 | 4.25 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.64 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.36 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 11 | 4 | | | |



受講生の傾向

本講義は、導入科目の再履修クラスである。全体的に受講者はまじめに出席していたが、一部には履修態度に問題がある受講者も見受けられた。また、受講者間の知識のばらつきも大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の結果をもとに、受講生に対してきめ細かい指導を行うように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

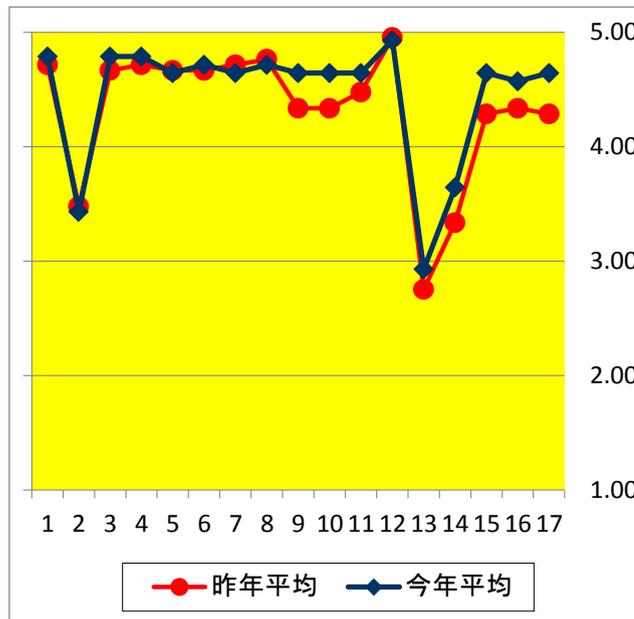
次年度は担当しないため、ノウハウを含めて、他の先生方に伝達していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体としては、評価点は昨年と大きく変わっていないと考えられる。そのため、今後も同様の取り組みを継続するつもりである。

| | | | |
|------|----------------|------|-----|
| 科目 | 上級簿記論<上級簿記>(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋金3 |
| 受講者数 | 20 | 回答者数 | 14 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.71 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.48 | 3.43 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.67 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.71 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.67 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.67 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.71 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.76 | 4.71 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.33 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.33 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.48 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.95 | 4.93 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.75 | 2.93 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 3.33 | 3.64 | 5 | 5 | 1 |
| 15 | 4.29 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.33 | 4.57 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.29 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 21 | 14 | | | |



受講生の傾向

講義展開は昨年度と同様であり、アンケート結果も昨年度と同様に概ね高いポイントを得ている。とくに昨年度よりも質問15と16のポイントが高いことは、受講生の意欲が全体的に高かったことを示している。とりわけ、留学生にとって本科目の内容は、日本語としても難しいことから、留学生の多くは必死に勉強して理解しようと努力していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の本科目と同じく、講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識するように指導し、そのように講義資料も工夫した。複雑な論点や枝葉的な論点よりも、基本的で重要な論点を優先的に取り上げ、その仕訳を中心に説明した。問題演習の時間は、質問があればその場で対応して個別指導するなど、個々人の習熟度に応じてコミュニケーションをとりながら、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、受講生のニーズと概ね合致していたと考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

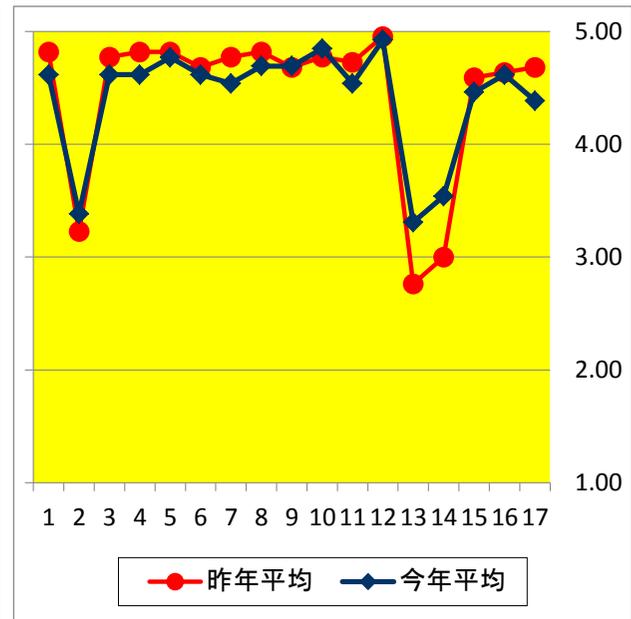
受講生の傾向にもよるが、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の傾向にもよるが、今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

| | | | |
|------|------------|------|-----|
| 科 目 | 上級財務会計論(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋火1 |
| 受講者数 | 16 | 回答者数 | 13 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.82 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.23 | 3.38 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.77 | 4.62 | 5 | 5 | 2 |
| 4 | 4.82 | 4.62 | 5 | 5 | 2 |
| 5 | 4.82 | 4.77 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.68 | 4.62 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.77 | 4.54 | 5 | 5 | 2 |
| 8 | 4.82 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.68 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.77 | 4.85 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.73 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.95 | 4.92 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.76 | 3.31 | 3 | 5 | 2 |
| 14 | 3.00 | 3.54 | 3 | 5 | 2 |
| 15 | 4.59 | 4.46 | 5 | 5 | 1 |
| 16 | 4.64 | 4.62 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | 4.68 | 4.38 | 5 | 5 | 1 |
| 回答者数 | 22 | 13 | | | |



受講生の傾向

一部の受講生を除き、多くの受講生が毎回真摯に出席し受講していた。また途中から出席しなくなる受講生がいた。また、予習・復習も充分に行われているように感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、予習・復習に当てる時間が増加する一方で、授業進度について早く感じる受講生がいたため、今年度は、学習の意欲を維持しつつ、時間の許す限り丁寧な説明を増やし、受講生の理解度が比較的低いと感じられる内容については、さらに丁寧な説明を心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

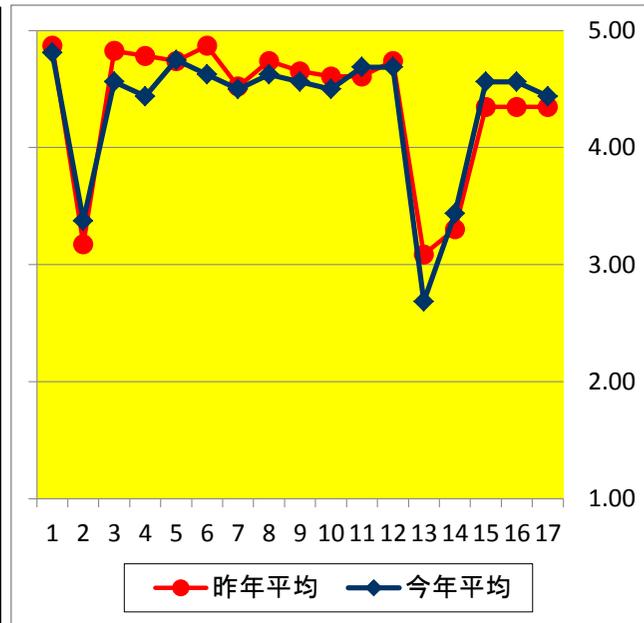
予習・復習への時間が、昨年度より増加しているので、その点については、今年度を踏襲することとする。一方、授業進度について、昨年度より若干早く感じているようなので、受講生の理解度を確認しつつ、より丁寧な説明を増やすことで、受講生が授業進度が早いと感じないような工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体的に改善傾向にあるようなので、予習・復習を促すような教材や小テストの実施を継続し、受講生の講義時間での反応や小テストの結果を踏まえつつ、理解度が低いと思われる内容については繰り返しとなるように内容を織り交ぜつつ、授業進度を早いと感じさせないように留意し、同時に学習意欲を高めていくように工夫を講じるつもりである。

| | | | |
|------|------------|------|-----|
| 科目 | 上級原価計算論(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋水1 |
| 受講者数 | 18 | 回答者数 | 16 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.87 | 4.81 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.17 | 3.38 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.83 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.78 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.74 | 4.75 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.87 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.52 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.74 | 4.63 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.65 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.61 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.61 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.74 | 4.69 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 3.09 | 2.69 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 3.30 | 3.44 | 4 | 5 | 1 |
| 15 | 4.35 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.35 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.35 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 23 | 16 | | | |



受講生の傾向

公認会計士受験を目指しているなど高いレベルの学生と、主に留学生など低いレベルの学生との差を感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期もそうだったが、秋学期についてもフォローアップ講座を実施したことによって、低いレベルの学生の実力の底上げをうまく行えたと感じており、中間・期末ともに平均点10点ほどの上昇がみられた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

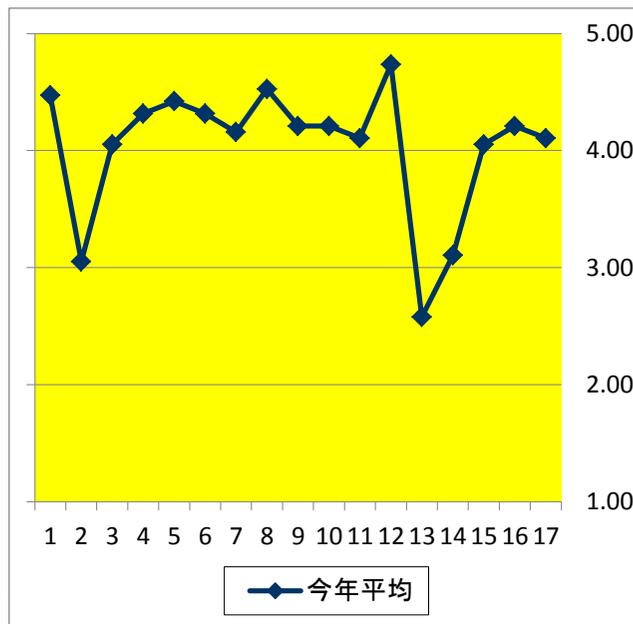
実務的な内容をさらに取り入れたい。ただそうなると、やはりレベルの低い学生はついてくるの大変になることが想定されるため、内容については少し検討する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義資料にさらに実務的な資料をとりいれて配布する。毎回心がけていることではあるが、できるだけ「例え」を入れながら話すことをさらに心がける。

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 科目 | 上級管理算論(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋木4 |
| 受講者数 | 28 | 回答者数 | 19 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.47 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | — | 3.05 | 3 | 4 | 2 |
| 3 | — | 4.05 | 4 | 5 | 1 |
| 4 | — | 4.32 | 4 | 5 | 3 |
| 5 | — | 4.42 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | — | 4.32 | 5 | 5 | 1 |
| 7 | — | 4.16 | 4 | 5 | 1 |
| 8 | — | 4.53 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | — | 4.21 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | — | 4.21 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | — | 4.11 | 5 | 5 | 1 |
| 12 | — | 4.74 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | — | 2.58 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | — | 3.11 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | — | 4.05 | 4 | 5 | 1 |
| 16 | — | 4.21 | 4 | 5 | 1 |
| 17 | — | 4.11 | 4 | 5 | 1 |
| 回答者数 | — | 19 | | | |



受講生の傾向

本科目は、管理会計系統の基本科目である。受講生は全体としてはまじめに出席していたが、一部には出席状況が不十分な者も見受けられた。また、受講生間の知識量の差異は大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は不開講のため、本項目は該当しない。管理会計の理論および計算について丁寧に教えるよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

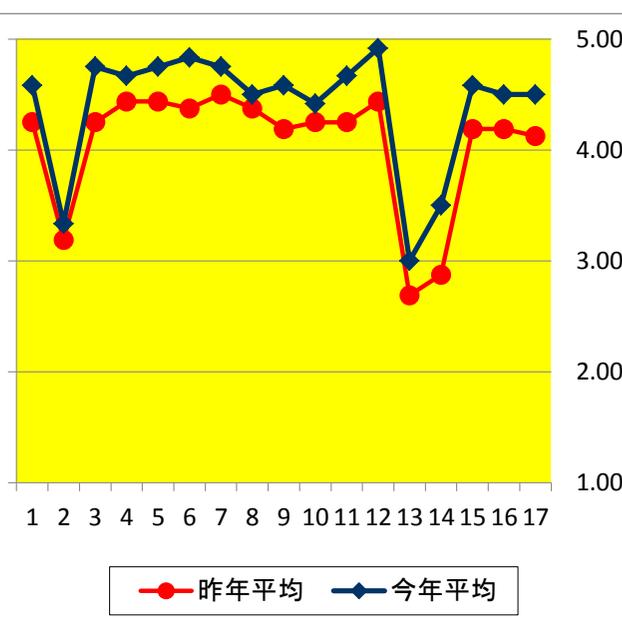
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体としては、評点に問題はないと認識している。ただし、受講生間で評点のばらつきが大きい。そのため、全体的には本年の取り組みを継続しながらも、理解の不十分な受講生に対するきめ細かい対応を進めたいと考えている。

| | | | |
|------|----------|------|-----|
| 科目 | 監査制度論(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月3 |
| 受講者数 | 17 | 回答者数 | 12 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.25 | 4.58 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.19 | 3.33 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.25 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.44 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.44 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.38 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.50 | 4.75 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.38 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.19 | 4.58 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.25 | 4.42 | 4 | 5 | 4 |
| 11 | 4.25 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.44 | 4.92 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.69 | 3.00 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.88 | 3.50 | 2・4 | 5 | 2 |
| 15 | 4.19 | 4.58 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.19 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.13 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 16 | 12 | | | |



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)はほぼ100%となっており、非常に高い出席率であり勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。

例年、秋学期開講のクラスBは、春学期のクラスAに比して評価が相対的に低くなる傾向があったが、今年度のクラスBの受講生については、ほぼ全ての項目で去年実績よりも改善している。特に授業に対する予習時間(項目13)と復習時間(項目14)も1時間以上と増加し、本科目の受講による学習意欲の向上(項目15)及び知識/能力の向上(項目16)でも増加がみられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は企業会計審議会による監査基準改訂があったため、改訂部分とともに、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。講義スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。これら配布用の資料は、関西大学LMSに授業当日中にアップロードし、授業録画によるWEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために記述式小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を氏名を伏せて配布するとともに、添削上のポイントを追記し解説を行った。最終的に、小テスト実施→添削→返却(添削ポイント表・講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

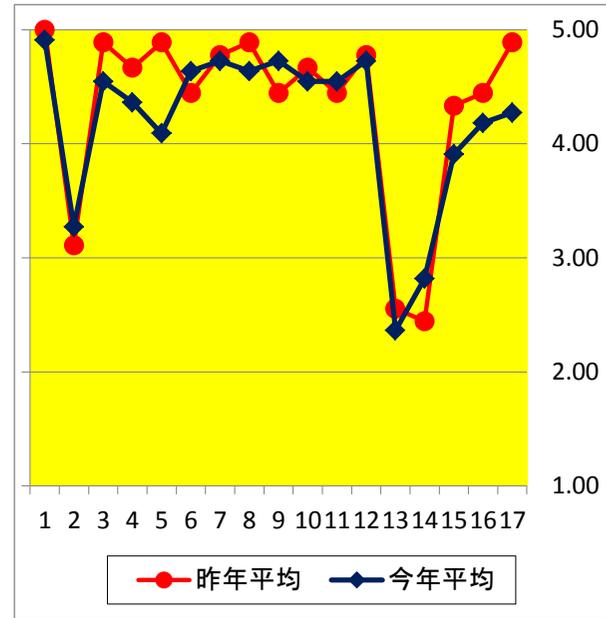
小テストの添削結果を返却する際、添削時の論点表の写しとともに成績優秀者の添削済み答案の写しを配布し解説を加えているが、この形を次年度も続けることで、学生側での復習課題の作成に流れを与えるようにしたい。これに加えて、予習時間を多少でも増やすべく、インフォメーション・システムにおいて予め重要論点を明示したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は学生からの復習課題の添削依頼がなかったが、前向きに復習課題への取組みを促す仕組みを確立し、自発的な復習課題の作成と提出が行なわれるような措置として、優秀答案だけでなく誤りやすい点を指摘・指導する仕組みが必要かもしれない。

| | | | |
|------|----------------|------|-----|
| 科 目 | 監査基準論<監査基準>(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋水3 |
| 受講者数 | 14 | 回答者数 | 11 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 5.00 | 4.91 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.11 | 3.27 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.89 | 4.55 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.67 | 4.36 | 4・5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.89 | 4.09 | 4 | 5 | 2 |
| 6 | 4.44 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.78 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.89 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.44 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.67 | 4.55 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.44 | 4.55 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.78 | 4.73 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.56 | 2.36 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 2.44 | 2.82 | 2 | 5 | 1 |
| 15 | 4.33 | 3.91 | 3・4 | 5 | 3 |
| 16 | 4.44 | 4.18 | 4 | 5 | 3 |
| 17 | 4.89 | 4.27 | 4 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 9 | 11 | | | |



受講生の傾向

概ね熱心に集中して受講していた。授業中に実施する演習にも前向きに取り組み、予習と復習の時間も昨年度と同程度となっている。講師からの質問に対しても積極的に回答し、疑問点については真摯に質問する姿勢がみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

自宅学習が少ないということに対して、引き続き授業の中で復習演習するとともに、関係する監査基準委員会報告書を配布して自宅学習用とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

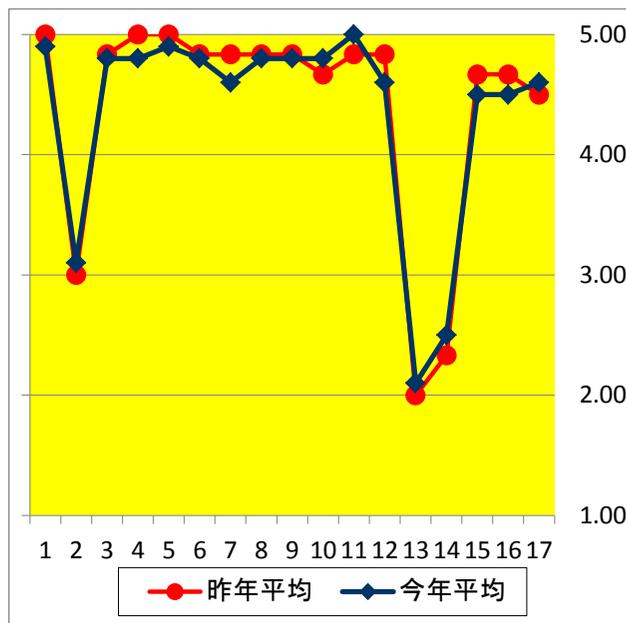
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評価は引き続き試験重視にして、自宅での自己学習を促進させていくことにする。

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 科目 | 企業法(B) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋火4 |
| 受講者数 | 15 | 回答者数 | 10 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 5.00 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.10 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.83 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 5.00 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 5.00 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.83 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.83 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.83 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.83 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.67 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.83 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 4.83 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.00 | 2.10 | 1 | 4 | 1 |
| 14 | 2.33 | 2.50 | 2 | 4 | 2 |
| 15 | 4.67 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.67 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.50 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 6 | 10 | | | |



受講生の傾向

今回の秋学期開講の企業法は、受講生は15人であった。企業法はほとんどの学生が春学期に受講しており、この秋学期の企業法は、秋学期において初めて企業法を受講する学生と春学期開講の企業法の再履修として受講する学生が混在している。授業の参加状況はおおむね良好で、授業態度も大変よかったが、その理解度についてはかなりばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様、講義の中にあって、対話と文章作成のウエイトを高めるという授業を心掛けた。特に、春学期に企業法を受講したが、再履修となった学生は、一概に法的な文章の作成能力をしっかりと身につけることが必要であった。論理的な思考能力とそれに結び付けられた説得力を持った文章の作成能力を習得できるように配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

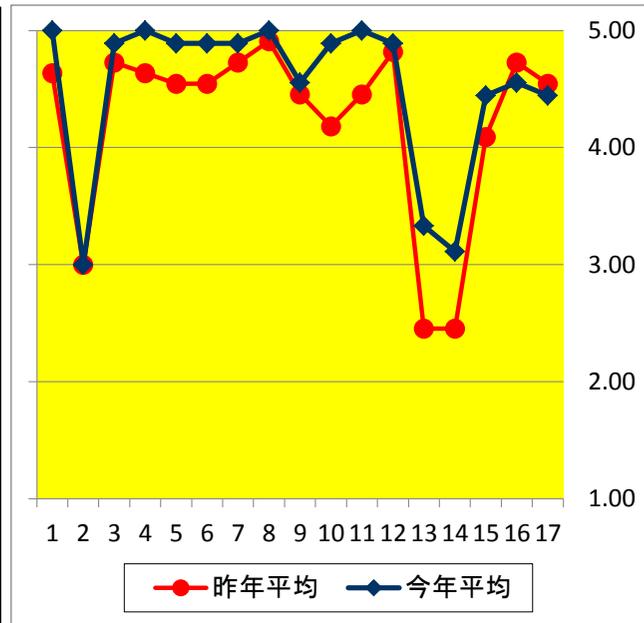
今回の授業で工夫したことにも記載したが、今年度はたまたま少人数であって、学生への個別対応が可能となったが、ある程度人数が増えても個々の学生の理解度を把握しながら授業をするよう工夫をしなければならない。授業を円滑に進めるということと同時に、学生との対話時間を増やすということを両立する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

企業法の授業の理解ということではできているが、それを自分で口頭で説明したり、文章で書いたりということになると難しくなる学生が多い。このギャップを埋められるような授業、すなわち、レクチャーと対話と文章作成のバランスをうまく考慮した授業を行いたい。

| | | | |
|------|-------------|------|-----|
| 科目 | 会計専門職業倫理(B) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋月4 |
| 受講者数 | 14 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.64 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.73 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.64 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.55 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.55 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.73 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.91 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.45 | 4.56 | 5 | 5 | 1 |
| 10 | 4.18 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.45 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 4.82 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.45 | 3.33 | 5 | 5 | 1 |
| 14 | 2.45 | 3.11 | 2・5 | 5 | 1 |
| 15 | 4.09 | 4.44 | 5 | 5 | 1 |
| 16 | 4.73 | 4.56 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | 4.55 | 4.44 | 5 | 5 | 1 |
| 回答者数 | 11 | 9 | | | |



受講生の傾向

14人の比較的小規模なクラスでの授業となったため、4班編制、留学生をまんべんなく配置することとした。概ね、授業計画通りに進めることができたこと、受講生の受講態度も真面目であったことは評価できる。ただ、プレゼンの準備など、今ひとつ事前の検討時の掘り下げ方が不十分であったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業外での学習を促進するように課題を工夫。その結果、アンケート13, 14番目の項目はやや改善した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

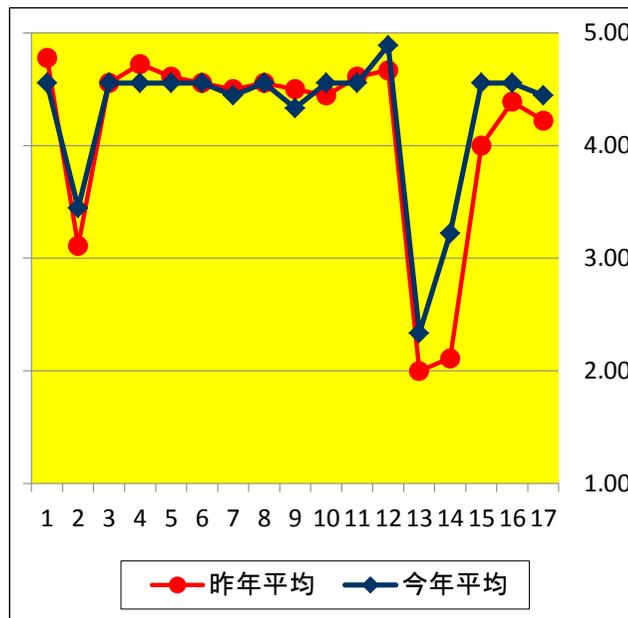
留学生対応については、再度検討する必要がある(實際上、授業時間中には殆ど理解できず参加していないと思われるため)。興味のない学生にも、東芝事件等のトピック等を提供することにより、徐々に授業に対する関心を高めていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最新の企業不祥事(日産)など、引き続きトピックを多く取り入れていく。

| | | | |
|------|-----------------|------|-----|
| 科目 | 財表作成簿記論<財表作成簿記> | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋木2 |
| 受講者数 | 14 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.78 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.11 | 3.44 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.56 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.72 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.61 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.56 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.50 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.56 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.50 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.44 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.61 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.67 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.00 | 2.33 | 1・2・4 | 4 | 1 |
| 14 | 2.11 | 3.22 | 4 | 5 | 1 |
| 15 | 4.00 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.39 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.22 | 4.44 | 4 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 18 | 9 | | | |



受講生の傾向

受講生は、公認会計士試験の合格者や同短答式試験の合格者、またはそれにチャレンジしている者、日商簿記1級の合格者、春学期の「上級簿記論」で高得点を取得した者など、全体的に簿記の習熟度が高い状況であった。しかし、とくに連結会計については、計算の問題としてテクニカルに解くことはできるが、仕訳して理解することは難しい様子であった。専門学校等では、連結会計を仕訳せずにテクニカルに教えることが多いので、それが一因であると考えられる。しかし、今年度は高いマインドをもつ受講生が多く、この機会に仕訳を通じて連結会計の理解を深めようと努めていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の全体を通じて、基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるように授業計画を立てた。とくに連結会計は、計算の問題としてテクニカルに解くのではなく、簿記のプロセスとして仕訳で理解するように指導し、そのように講義資料も工夫した。しかし、専門学校等でのテクニカルな解き方に慣れていると、受講生は違和感をもつこともある。そこで、問題演習の時間は、その違和感を緩和できるように、質問があればその場で対応して個別指導するなど、個々人の習熟度に応じてコミュニケーションをとりながら、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、受講生のニーズと概ね合致していたと考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

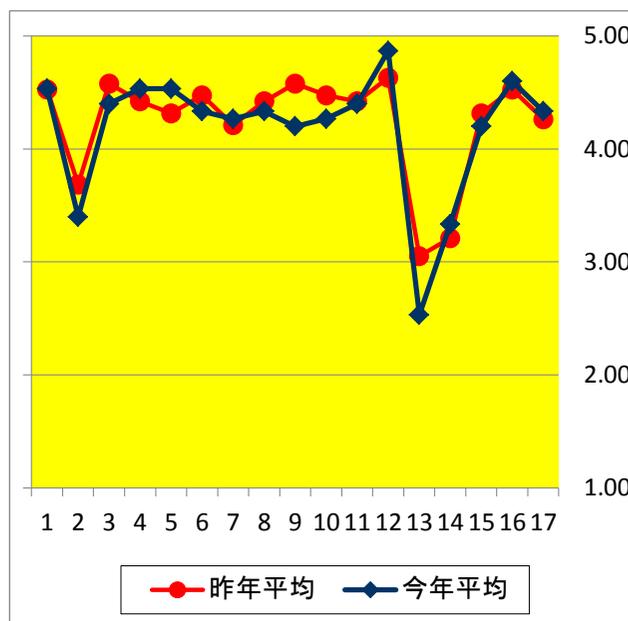
受講生の傾向にもよるが、全体的な講義展開としては良い感触を得ているので、次年度も継続することにしたい。なお、質問9について、前々年度にポイントが大きく下がり懸案としたが、昨年度と今年度は例年並みに戻っていることから、次年度も同様にしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の傾向にもよるが、今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科目 | 監査報告論 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋火2 |
| 受講者数 | 19 | 回答者数 | 15 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.53 | 4.53 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.68 | 3.40 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.58 | 4.40 | 4 | 5 | 4 |
| 4 | 4.42 | 4.53 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.32 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.47 | 4.33 | 4 | 5 | 3 |
| 7 | 4.21 | 4.27 | 4 | 5 | 3 |
| 8 | 4.42 | 4.33 | 4 | 5 | 4 |
| 9 | 4.58 | 4.20 | 4 | 5 | 3 |
| 10 | 4.47 | 4.27 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | 4.42 | 4.40 | 4 | 5 | 4 |
| 12 | 4.63 | 4.87 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 3.05 | 2.53 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 3.21 | 3.33 | 4 | 5 | 2 |
| 15 | 4.32 | 4.20 | 4 | 5 | 2 |
| 16 | 4.53 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.26 | 4.33 | 4 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 19 | 15 | | | |



受講生の傾向

選択科目である本科目では、受講生の出席状況(項目12)はほぼ90%を確保し極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも相対的に高いと看做し得る。また予習時間(項目13)は昨年度より減少したものの、復習時間(項目14)は1時間以上となった点で勉学に対する姿勢に改善が見られる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、監査報告に関連する監査基準改訂がなされたため、該当箇所に関する講義資料を新規に作成し配布するとともに解説を加えた。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料の全ては、授業当日中に関西大学LMSにアップロードし、授業録画WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

前2回分の理解度を確認するための記述式小テストを、隔週で授業時間の最初に20分程度で実施し、添削して返却すると同時に、成績優秀者の添削済み答案を氏名と学生番号を伏せた上で、コピーし全員に配布し解説を行った。返却時に論点の講評を行うことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。これらに加えて、添削に当たって作成した論点表と解答の流れを配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

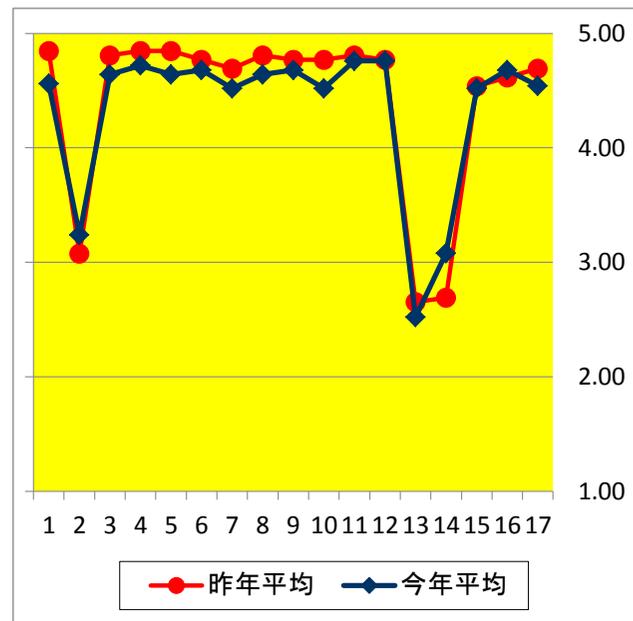
今期も復習課題の任意提出を繰り返し促す措置を取ることで、復習時間の確保を図りたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個々の受講生の小テストを添削して返却しているが、受講生自身にもっと記述の仕方を習得させるための措置として、優秀答案だけでなく、典型的な間違い答案の解説を実施することも検討したい。

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 科目 | 会社法 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋木3 |
| 受講者数 | 33 | 回答者数 | 25 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.85 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.08 | 3.24 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.81 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.85 | 4.72 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.85 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.77 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.69 | 4.52 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.81 | 4.64 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.77 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.77 | 4.52 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.81 | 4.76 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.77 | 4.76 | 5 | 5 | 2 |
| 13 | 2.65 | 2.52 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 2.69 | 3.08 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.54 | 4.52 | 5 | 5 | 2 |
| 16 | 4.62 | 4.68 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.69 | 4.54 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 26 | 25 | | | |



受講生の傾向

今回の会社法の受講生は、33人と全体の学生数から考えても比較的多いほうであった。公認会計士試験を受験する学生にとっては、必須の科目になるが、必ずしも公認会計士試験を受験しない学生もまた多く受講しているようであった。受講態度はおおむね良好であり、熱心に取り組んでいるようであった。ただ、理解度についてはそもそもの事前勉強量の違いなどからさまざまであったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は会社法について広く全体的な理解ということを中心に心掛けた。深い内容については、極力上級会社法で扱うこととした。さらに、広い内容とはいえお互いの項目がリンクしている部分も多く、これらをつなぎながら授業するという工夫をした。また、学生にとっては、負担であったかもしれないが、企業法で扱った部分については、すでに理解していることとして進め、会社法が単なる企業法の復習科目とならないように意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

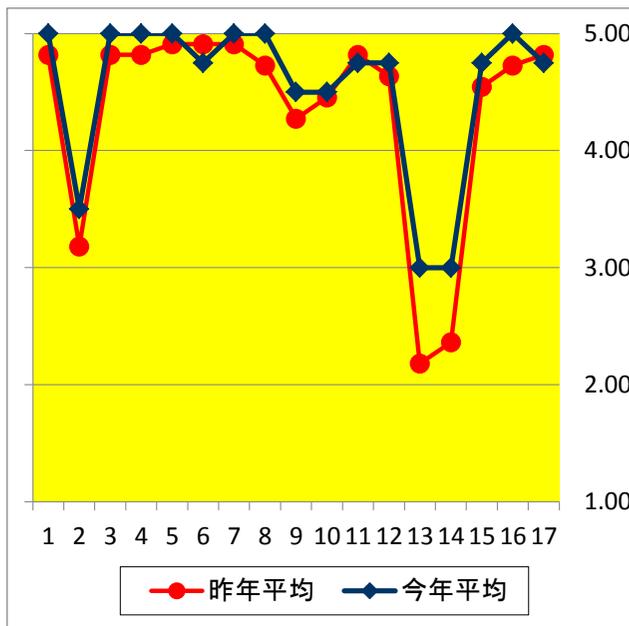
今年度も会社法の授業を効率的に行うよう工夫を行ったが、会社法の広い範囲を授業で扱うことと、学生が理解しながら授業についてくることができるようになることとの両立がうまく図れていないように思う。学生が理解できるような丁寧な授業を行いつつ、会社法の範囲を網羅できるよう心掛けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会社法では、広い内容を扱う中であって、それらを何らかのトピックスでくくって扱うことで、その広い内容をより効率的かつ興味深いものとした。たとえば、株主総会の手続きというものはそのものは単調な授業になりがちであるが、同じ会議対である取締役会の手続きと比較しながら扱うことで、両者の特徴がよりはっきりと表れ、それぞれの理解の助けにもなり、広い内容の授業を扱うに当たっても時間を短縮できる。

| | | | |
|------|------------------|------|-----|
| 科目 | 特殊講義(コンサルティング実務) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋土2 |
| 受講者数 | 6 | 回答者数 | 4 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.82 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.18 | 3.50 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.82 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.82 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.91 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.91 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.91 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.73 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.27 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.45 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.82 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.64 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.18 | 3.00 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | 2.36 | 3.00 | 2 | 5 | 2 |
| 15 | 4.55 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.73 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.82 | 4.75 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 11 | 4 | | | |



受講生の傾向

出席率は全体で82%とそれほど低くはなかったが、欠席が目立つ受講生がいたのも事実である。昨年同様、コンサルティングの本質を見極めようとする受講生が集まった印象を受けた。コンサルタントになりたいという明確な夢や目標があるわけではないが、その一端を見てみたいという好奇心が受講の理由だと思われる。2017年度から始まった新しい講座だが、興味を持って受講してくれる学生がいることは大変喜ばしい。コンサルティングを将来の選択肢の1つとして考えてくれる受講生、コンサルティングスキルをビジネスの様々なシーンで活用したいと思ってくれる受講生がもっと増えてくれることを期待している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

より実践的な内容に近付けるべく、実務の現場における具体的な情報を盛り込んだ講義にした。経験や現在関与しているプロジェクトの内容を前提に、可能な限り生の情報を提供するように心がけた。また、人数が少なかったこともあって、双方向のコミュニケーションをふんだんに織り交ぜて講義を進めた。さらに、PCを使ってビジネスソフトウェアを活用する場面も多く取り入れた。その意味では、昨年の講義の振り返りを受けて実施したいと考えていたことは、概ね実践できたのではないかと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

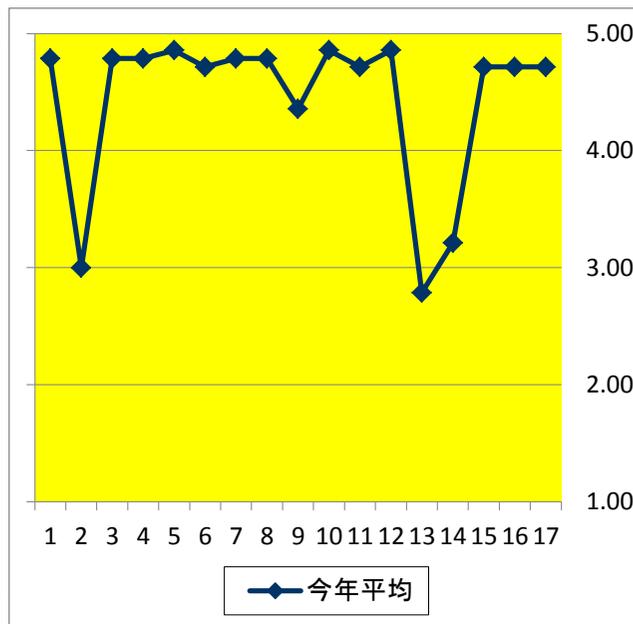
あらゆるビジネスのシーンで有用であるコンサルティングの要素を、具体的な活用事例に絡めて解説できるようにさらに内容を進化させていきたい。また、PC教室の特性を活かして、コンサルティングの実務で多用されるビジネスソフトウェアに触れる機会を一層増やしていくことに取り組みたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、より実践的な内容にするという基本姿勢は堅持したい。その上で、プレゼンテーションや企画書の作成等、情報のインプットではなくアウトプットの質を高めることを目標に取り組みたいと考える。とかく知識の習得に偏りがちな受講生の勉強に対する意識を、社会で早く活躍できる人材になることを目指して、少しでも変えることであれば狙い通りである。そのような講義を目指したい。

| | | | |
|------|-----------------|------|-----|
| 科目 | 特殊講義(会計学の理論と実践) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋水2 |
| 受講者数 | 17 | 回答者数 | 14 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | — | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | — | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | — | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | — | 4.86 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | — | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | — | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | — | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | — | 4.36 | 5 | 5 | 2 |
| 10 | — | 4.86 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | — | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | — | 4.86 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | — | 2.79 | 3 | 5 | 1 |
| 14 | — | 3.21 | 3 | 5 | 1 |
| 15 | — | 4.71 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | — | 4.71 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | — | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | — | 14 | | | |



受講生の傾向

公認会計士試験や日商簿記一級を目指すなど、意識の高い学生の履修が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年初回の授業。

他の授業で深くは取り扱わないため学生の習熟度が低いと想定される、例えば企業結合・事業分離・包括利益計算書・連結キャッシュフロー計算書・一株当たり当期純利益などの論点について幅広く取り扱うようにした。

結果、期末試験においても平均点は高く(もともと履修生のレベルが高いのもあるが)、これらの論点について概ね習熟度を高めることができたと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

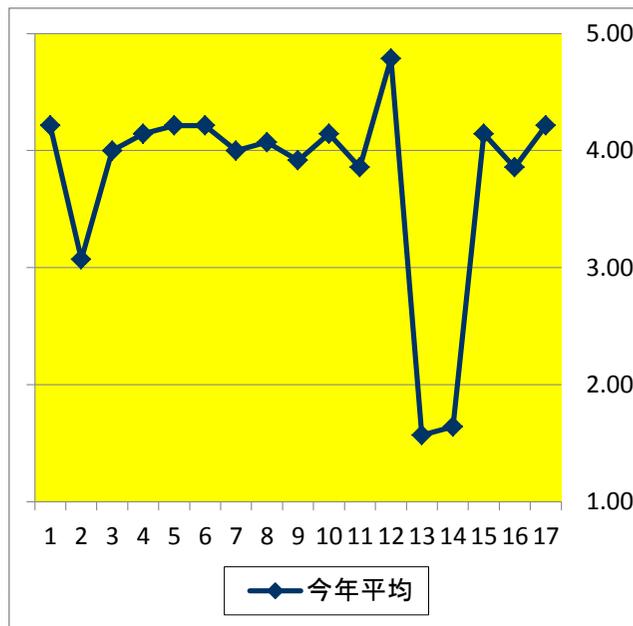
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

履修生のレベルに応じて、取り扱う内容を検討したい。

| | | | |
|------|-------------|------|--------|
| 科目 | 特殊講義(税務と会計) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋前月6~7 |
| 受講者数 | 20 | 回答者数 | 14 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.21 | 4 | 5 | 1 |
| 2 | — | 3.07 | 3 | 4 | 2 |
| 3 | — | 4.00 | 4 | 5 | 1 |
| 4 | — | 4.14 | 4・5 | 5 | 1 |
| 5 | — | 4.21 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | — | 4.21 | 4 | 5 | 3 |
| 7 | — | 4.00 | 4 | 5 | 2 |
| 8 | — | 4.07 | 4・5 | 5 | 3 |
| 9 | — | 3.92 | 5 | 5 | 2 |
| 10 | — | 4.14 | 4 | 5 | 3 |
| 11 | — | 3.86 | 4 | 5 | 1 |
| 12 | — | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | — | 1.57 | 1 | 4 | 1 |
| 14 | — | 1.64 | 1 | 4 | 1 |
| 15 | — | 4.14 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | — | 3.86 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | — | 4.21 | 4 | 5 | 3 |
| 回答者数 | — | 14 | | | |



受講生の傾向

この授業は、本研究科院生と社会人との共同授業であって、院生および社会人で合計18名による授業であった。院生および社会人ともに、出席状況もよく(社会人にとっては仕事終わりではあったが)、まじめにかつ熱心に授業に参加しており、議論や発言等も積極的に行われていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この授業は社会人と院生の共同授業ということもあって、なるべく社会人と院生と一緒にになって議論をし、お互いを高めあってもらうような授業を心掛けた。また、税務および会計について、実務家の立場から理論に基づいた実務的な観点からの授業を行った。税務と会計実務について、それぞれ分量は多いが、バランスよく扱うことによって、全体として実務的感覚が身につくよう配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

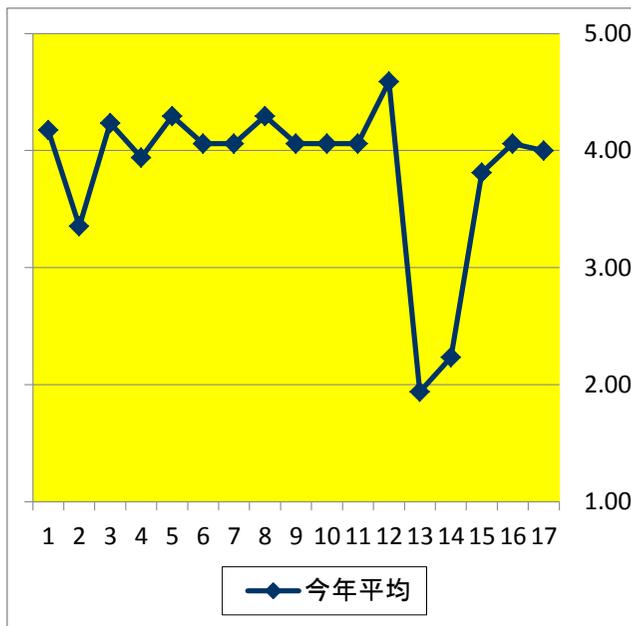
該当なし(昨年度未実施)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

社会人との共同授業でかつ受講者数も20人ということで、本科目に関する受講生のそれぞれの理解度の違いが大きくあり、この点を配慮して授業運営を行う必要があると感じた。授業の最初のうちに学生の理解度を把握して、その理解度を前提としたレベル設定をしながら授業を行うことを心掛けたい。

| | | | |
|------|-------------|------|--------|
| 科目 | 特殊講義(労務と会計) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋前金6~7 |
| 受講者数 | 25 | 回答者数 | 17 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.18 | 5 | 5 | 1 |
| 2 | — | 3.35 | 3 | 5 | 1 |
| 3 | — | 4.24 | 5 | 5 | 1 |
| 4 | — | 3.94 | 5 | 5 | 1 |
| 5 | — | 4.29 | 5 | 5 | 1 |
| 6 | — | 4.06 | 5 | 5 | 1 |
| 7 | — | 4.06 | 5 | 5 | 1 |
| 8 | — | 4.29 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | — | 4.06 | 5 | 5 | 2 |
| 10 | — | 4.06 | 5 | 5 | 1 |
| 11 | — | 4.06 | 5 | 5 | 1 |
| 12 | — | 4.59 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | — | 1.94 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | — | 2.24 | 1・2 | 5 | 1 |
| 15 | — | 3.81 | 5 | 5 | 1 |
| 16 | — | 4.06 | 5 | 5 | 1 |
| 17 | — | 4.00 | 4 | 5 | 1 |
| 回答者数 | — | 17 | | | |



受講生の傾向

この授業は、本研究科院生と社会人との共同授業であって夜間に開講している。履修者数は多く、院生および社会人で合計25名による授業であった。院生および社会人ともに、本授業の趣旨を明確に理解して受講しており、授業に対して積極的に参加していた。ただ、社会人にとっては仕事終わりでの受講と思われるが、遅刻して授業に参加する場面があった。全体的には、まじめにかつ熱心に授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本授業は労務と会計とを組み合わせるという授業で、会計を専門に学習する院生にとっても、また労務・人事を専門に扱っている社会人にとっても、満足を得られるような授業にすることを心掛けた。特に気を付けた点とすると、院生と社会人が共同でディスカッションをし、お互いが本分野に関する刺激を受けあい、そして、それぞれの知識・経験を共有しあうということを意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

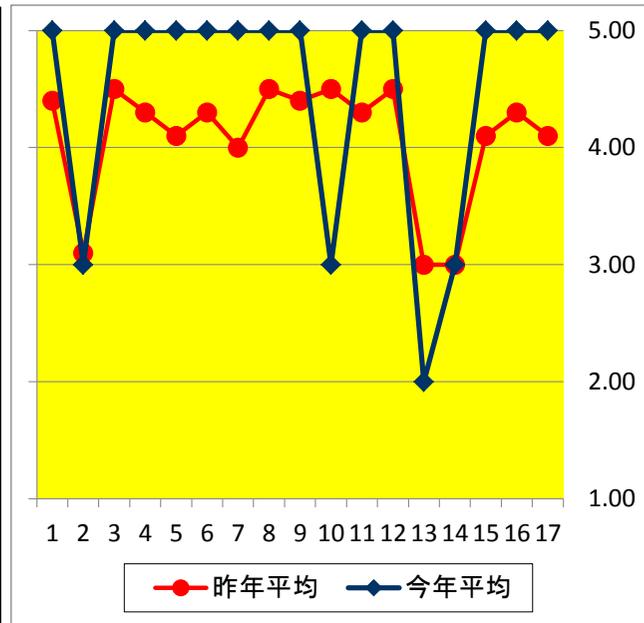
該当なし(昨年度未実施)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の授業は社会人と院生ともに受講生が多く、このクラスの中に複数のグループができたので、その意味では多くのグループ学習が行われたことになる。しかし、グループごとに費やす時間が少なくなってしまうという問題点もあった。この点を意識して、やや人数が増えても濃度の高い授業を心掛けたい。

| | | | |
|------|-----------------|------|-----|
| 科目 | 特殊講義(公会計)＜公会計論＞ | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月2 |
| 受講者数 | 2 | 回答者数 | 1 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.40 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.10 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.30 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.10 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.30 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.40 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 4.50 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 11 | 4.30 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.00 | 2.00 | 2 | 2 | 2 |
| 14 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 15 | 4.10 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.30 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.10 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 10 | 1 | | | |



受講生の傾向

当初の履修は2名、途中から1名に減る。回答した1名は極めてまじめで、近隣自治体の調査も実施した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は履修生が11名であったのに対して、今年度は2名(日本人)であった。そこで、身近な自治体の実態を調査させるなど関心を高めるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

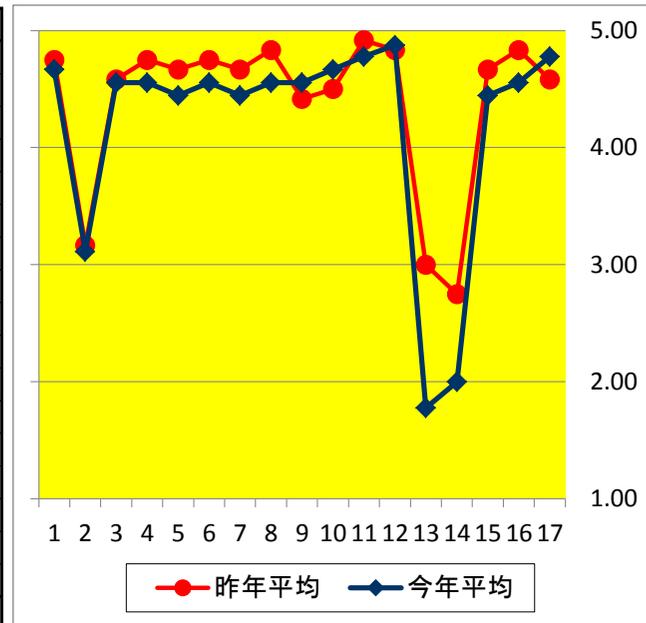
外国人がいた場合には本年度と同様に日本のことに関心を持ってもらえるような工夫をする。日本人だけの場合には日本の都市の調査を課すなどの方法で学習のインセンティブを高める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

毎年、人数が少ないので、履修者の希望をも考慮して、講義内容やレポートの内容を柔軟に変えて対応する。

| | | | |
|------|------------|------|-----|
| 科 目 | コストマネジメント論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋木3 |
| 受講者数 | 14 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.75 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.17 | 3.11 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.58 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.75 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.67 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.75 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.67 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.83 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.42 | 4.56 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.50 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.92 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.83 | 4.88 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 3.00 | 1.78 | 1 | 3 | 1 |
| 14 | 2.75 | 2.00 | 1・3 | 3 | 1 |
| 15 | 4.67 | 4.44 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.83 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.58 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 12 | 9 | | | |



受講生の傾向

本講義は、2年次生を対象とした管理会計系統の科目である。受講生は、全体としてまじめに出席していた。ただし、受講生間の知識量には、大きな差が見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないため、本項目は該当しない。コストマネジメントを支援するツールについて丁寧に説明するように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

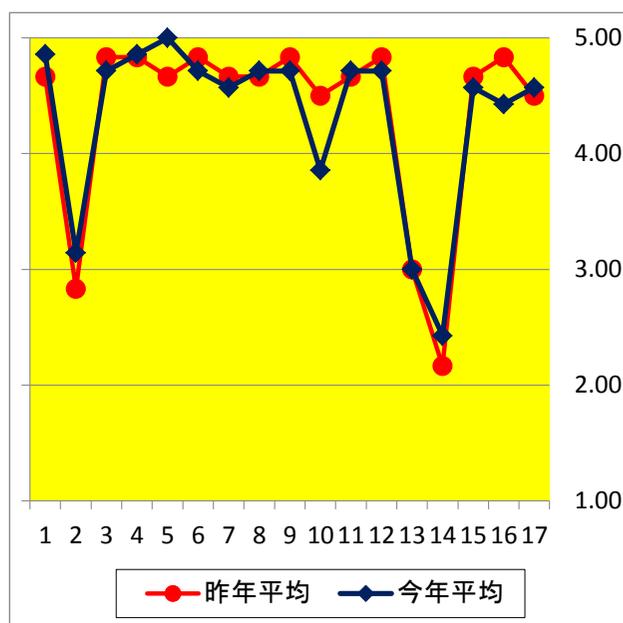
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体としての評点には大きな問題はないと思われる。学習に対する意識付けを行う点は必要であるが、全体としては本年度の取り組みを継続するつもりである。

| | | | |
|------|-------|------|-----|
| 科目 | 租税法理論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋火4 |
| 受講者数 | 7 | 回答者数 | 7 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.67 | 4.86 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 2.83 | 3.14 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 4.83 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.83 | 4.86 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.67 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.83 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.67 | 4.57 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.67 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.83 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.50 | 3.86 | 3 | 5 | 3 |
| 11 | 4.67 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.83 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 3.00 | 3.00 | 2・4 | 5 | 1 |
| 14 | 2.17 | 2.43 | 2 | 4 | 1 |
| 15 | 4.67 | 4.57 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.83 | 4.43 | 4 | 5 | 4 |
| 17 | 4.50 | 4.57 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 6 | 7 | | | |



受講生の傾向

受講生7名の内訳は、会計士志望4名と税理士志望3名であった。受講生は前年度と同様、租税法に関心をもって真面目に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

重要な条文については、カッコ書きの部分も含め、出来るだけ受講生にたくさん読ませるようにした。また、受講生に課題レポートの租税判例を報告させ、質疑応答を通じて文理解釈や目的論的解釈の理解を目指した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

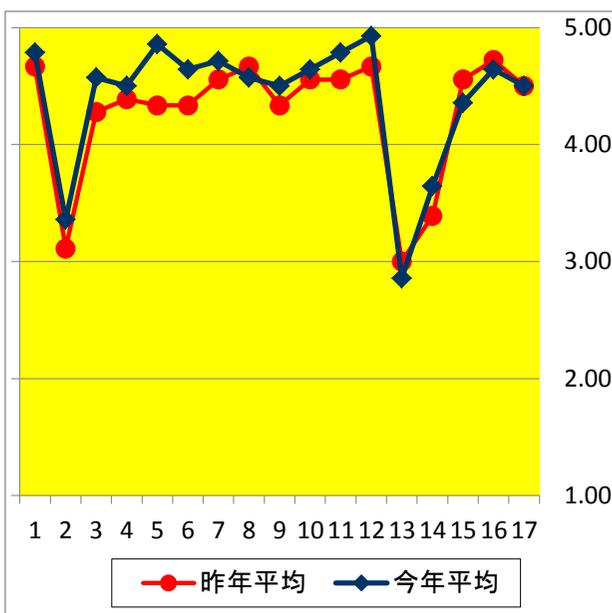
解釈論を苦手とする受講生が大半である。この点を改善するため、条文集を用いて、受講生に出来る限り多くの条文に直接当たる機会を提供すると同時に、文理解釈や目的論的解釈という解釈論の補足説明を繰り返し教授する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度も租税判例を苦手とする受講生が多かった。この点を改善するため、専門用語の補足説明に加え、判旨の論理構成を図示し、受講生の理解を促すようにしたい。

| | | | |
|------|-------------|------|-----|
| 科 目 | 基本会計プログラム演習 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月4 |
| 受講者数 | 14 | 回答者数 | 14 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.67 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.11 | 3.36 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.28 | 4.57 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.39 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.33 | 4.86 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.33 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.56 | 4.71 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.67 | 4.57 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.33 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.56 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.56 | 4.79 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.67 | 4.93 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 3.00 | 2.86 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 3.39 | 3.64 | 5 | 5 | 2 |
| 15 | 4.56 | 4.36 | 4 | 5 | 3 |
| 16 | 4.72 | 4.64 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.50 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 18 | 14 | | | |



受講生の傾向

ほとんどの受講生が毎回出席し、真摯に受講していたと思われるが、一部の受講生の課題の不実施もしくは極めて遅れた提出が目立った。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生のうちの留学生の割合に応じた対応、具体的には留学生が多い場合、日本語での説明を正確に理解していない可能性を考慮するといった対応を意識した。今年度は留学生の割合が平均的であったため、極端に意識した対応を避け、講義のポイントを板書するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

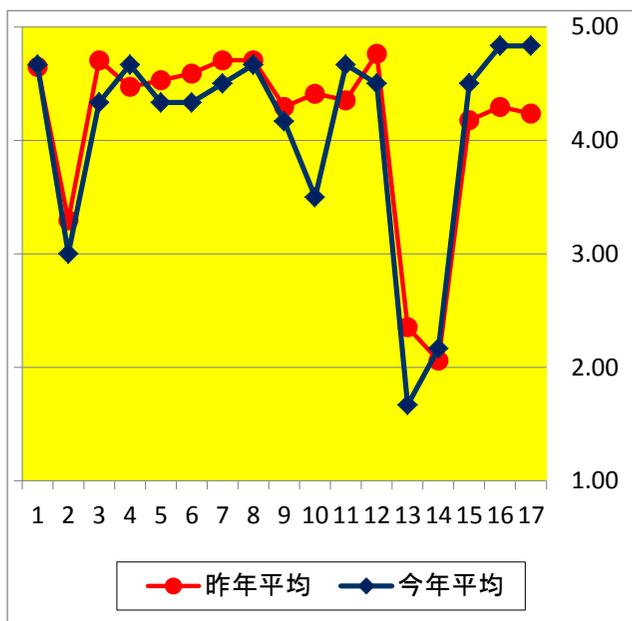
受講生のうちの留学生の割合に応じて、講義の説明方法を調整するよう留意するつもりである。また、復習時間より予習時間が短い傾向があるため、毎回次回の講義のポイントを示し、予習しやすい資料を配布するなどの工夫を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

留学生への対応(追加的な板書や机間巡回)だけでなく、受講生全体が講義のポイントや位置づけを把握しやすいように、丁寧な説明と板書(配布資料を含む)などの工夫を講じるつもりである。

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 科 目 | 監査事例研究 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋水2 |
| 受講者数 | 8 | 回答者数 | 6 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.65 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.29 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.71 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.47 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.53 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.59 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.71 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.71 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.29 | 4.17 | 4 | 5 | 3 |
| 10 | 4.41 | 3.50 | 3・4 | 4 | 3 |
| 11 | 4.35 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.76 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.35 | 1.67 | 1 | 3 | 1 |
| 14 | 2.06 | 2.17 | 3 | 3 | 1 |
| 15 | 4.18 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.29 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.24 | 4.83 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 17 | 6 | | | |



受講生の傾向

授業の2回に1回はグループで課題の不正事例についてディスカッションを行ったが、概ね積極的に参加していた。会計士志望の学生が多く具体的な監査手続についても真剣に議論していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年に引き続き、ディスカッション形式のアクティブラーニングを取り入れた。出来るだけ最近の不正事例を題材に取り上げて解説し、ディスカッションと発表をしてもらうようにした。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

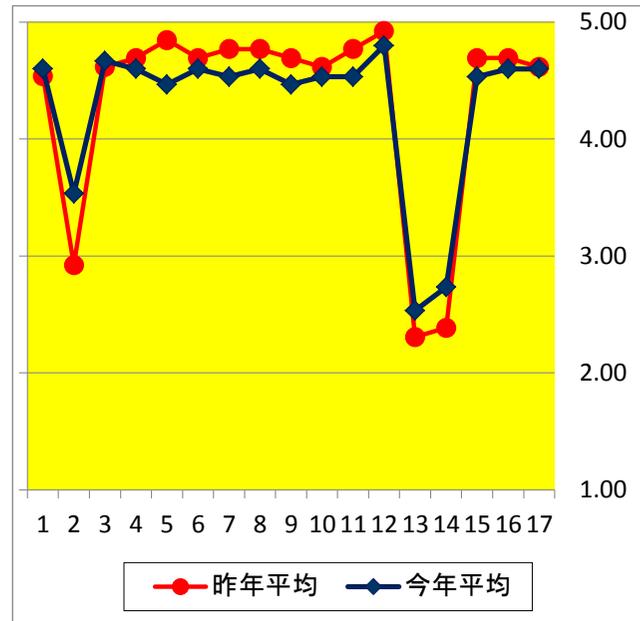
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

グループでのディスカッションにすると個々の受講生の実力が見えにくくなることもあるので、全員に発表と書記と司会の役割を分担してもらうとともに、個人での分析発表の機会を増やすことを検討する。

| | | | |
|------|-------------|------|-----|
| 科目 | 基本監査プログラム演習 | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋金4 |
| 受講者数 | 18 | 回答者数 | 15 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-------|-----|-----|
| 1 | 4.54 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 2 | 2.92 | 3.53 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.62 | 4.67 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 4.69 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 5 | 4.85 | 4.47 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.69 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.77 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.77 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.69 | 4.47 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.62 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.77 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 12 | 4.92 | 4.80 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 2.31 | 2.53 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 2.38 | 2.73 | 1・2・5 | 5 | 1 |
| 15 | 4.69 | 4.53 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.69 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.62 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 回答者数 | 13 | 15 | | | |



受講生の傾向

今年度は授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)においてほぼ90%以上を達成しており、昨年度に引き続き非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。また予習時間(項目13)と復習時間(項目14)も昨年度よりも増加していることから、受講生による準備と復習が若干ではあるが改善した傾向が見出せる。

さらに本講義を受講することによって、昨年度と同様に学習意欲の向上(項目15)や知識・能力の向上(項目16)が極めて高く現われていることから、今年度の受講生の質の高さを見出できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は監査実施に関する監査基準改訂はなかったため、テキストをベースにこれまでの監査基準及び監査実務指針を纏め直したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意して配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。

前半で監査実施プロセスについてテキストと配布資料に基づいて授業を行い、後半に監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。特に今年度は春学期開講だったため、前半の講義の充実を図った。さらに2度の課題(フローチャート作成、掛け売上取引の監査)と、講義時における積極的質問や発言を促すことで、それらを成績に反映するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

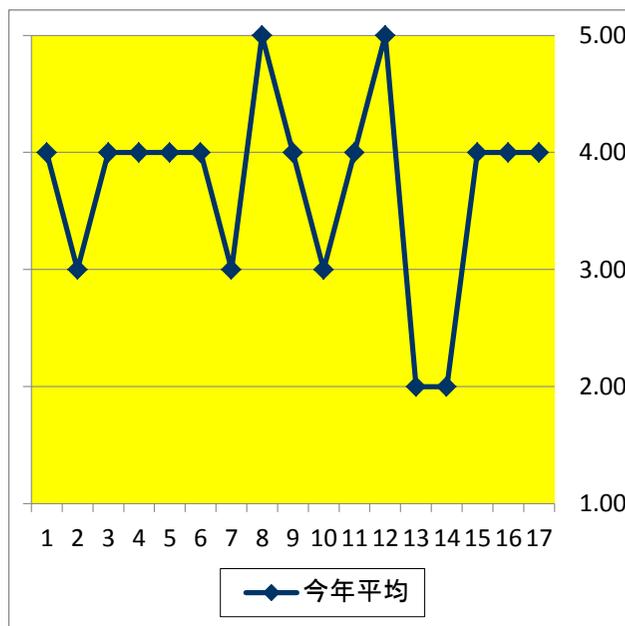
学生の能動的参加を促す措置として、講義途中における適時かつ頻繁な質問提起を行うだけでなく、期中・期末の課題レポートの作成に対して、講義時間中に指導を行う必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義途中における質問提起によって学生の能動的参加を促すだけでなく、課題作成中に机間巡回を行うことで指導を行う必要がある。

| | | | |
|------|----------------------------------------------|------|-----|
| 科目 | アカデミック・ソリューション <ソリューション・イン・アカデミック>(大西クラス) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月5 |
| 受講者数 | 1 | 回答者数 | 1 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 2 | — | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 4 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 5 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 6 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 7 | — | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 8 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 10 | — | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 11 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 12 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | — | 2.00 | 2 | 2 | 2 |
| 14 | — | 2.00 | 2 | 2 | 2 |
| 15 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 16 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 17 | — | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 回答者数 | — | 1 | | | |



受講生の傾向

本講義は、1年次生を対象とした管理会計の演習である。受講生は、まじめに講義に出席していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は開講していないため、昨年との比較はできない。ただし、受講生との個別の対話を重視して、管理会計の理論的な詳細を教えるように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

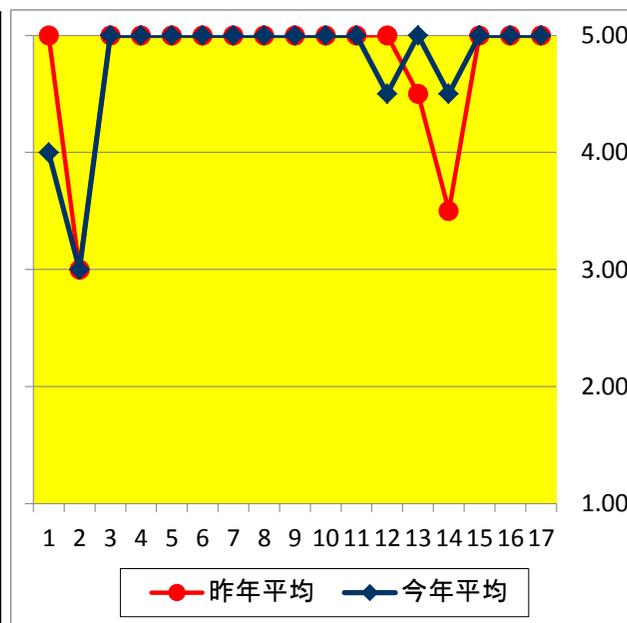
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

評点は比較的良好であると認識している。そのため、これからも同様の取り組みを継続するつもりである。

| | | | |
|------|----------------------------------------------|------|-----|
| 科目 | アカデミック・ソリューション <ソリューション・イン・アカデミック>(富田クラス) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月5 |
| 受講者数 | 2 | 回答者数 | 2 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 5.00 | 4.00 | 3・5 | 5 | 3 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 13 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | 3.50 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 15 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 2 | 2 | | | |



受講生の傾向

受講生は2人であった。体調不良による欠席以外は全て出席し、幾分難易度の高い課題をしっかりと実施し、さらに質問により理解を深めるという状況で、学習意欲の高い受講生であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、ディスカッションとそれに伴う資料作成課題を重視した結果、学習が予習に傾倒したことを踏まえ、課題として毎回のディスカッションの内容や講義のポイントを各自で簡単にノートにまとめることを追加した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

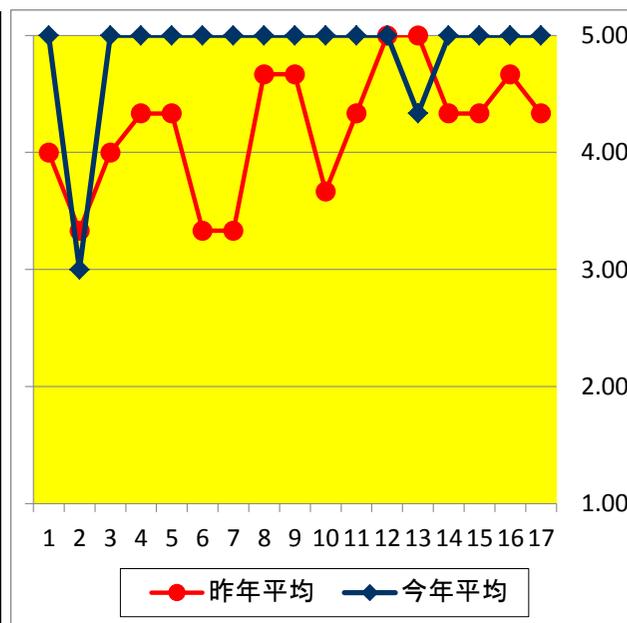
論点を明確にしつつ、ディスカッションとそれに伴う資料作成課題を重視したため、予習への時間が多く、復習への時間が短くなる傾向にあったため、復習にも注力するよう、各講義の開始時に前回の確認をし、復習ノートを作成させるような工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本的にアンケート結果が、昨年度より改善されているように感じ、基本的な方法は今年度の方法を踏襲しつつ、高い学習意欲が維持されるような工夫を講じるつもりである。

| | | | |
|------|----------------------------------------------|------|-----|
| 科目 | アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（松本クラス） | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月5 |
| 受講者数 | 3 | 回答者数 | 3 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.33 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 3.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 3.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.67 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.67 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 3.67 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | 4.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 5.00 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 14 | 4.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | 4.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.67 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.33 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 3 | 3 | | | |



受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率（項目12）において、ほぼ90%以上を達成しており、また演習のための予習時間（項目13）も復習（項目14）時間も2時間以上確保できており、積極的に演習への参加が行われたことが表われている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習開始時に演習生からの希望を聴取した上で、監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討する形態とした。このため担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行えるように、複数の課題を事前に配布した。この結果、受講生も予習時間（項目13）と復習時間（項目14）に2時間以上を掛けていることが判る。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

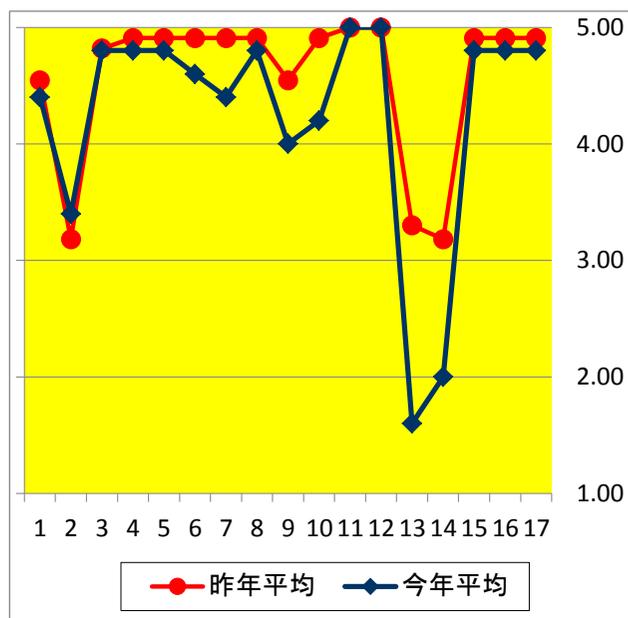
演習生同士の討議や検討の時間がなかなか持てないため、相互にコミュニケーションを取れる機会を演習時間とは別に設ける必要があると思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

SNSを用いた教員と受講生間、受講生同士のコミュニケーションを演習時間外で確保できるようにしたい。

| | | | |
|------|----------------------------------------------|------|-----|
| 科目 | アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞(三島クラス) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月5 |
| 受講者数 | 7 | 回答者数 | 5 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.55 | 4.40 | 4 | 5 | 4 |
| 2 | 3.18 | 3.40 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.82 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.91 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.91 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.91 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.91 | 4.40 | 4 | 5 | 4 |
| 8 | 4.91 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.55 | 4.00 | 4 | 5 | 3 |
| 10 | 4.91 | 4.20 | 4 | 5 | 4 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.30 | 1.60 | 1 | 3 | 1 |
| 14 | 3.18 | 2.00 | 2 | 3 | 1 |
| 15 | 4.91 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.91 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.91 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 11 | 5 | | | |



受講生の傾向

今回はこの授業の受講生は7人であって、その全員が公認会計士を目指しているというのもあり、授業には熱心かつまじめに取り組んでいた。また、予習・復習もしっかりと行っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業においては対話中心という組立で授業を行った。今回の授業で特に工夫したこととしては、対話の中でもなるべく考えて答えてもらうよう心掛けた。すなわち、対話においても即答が可能なもの、たとえば、知っているか知らないかというものよりもむしろ、本人であれば答えを導き出せるような内容について、じっくり考えてもらって、解答してもらうということを中心とした。さらに、解答が出ない場合であっても、何らかのヒントを与えて、自らが考えて答えを導き出すという習慣を身につけてもらうということを意識した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

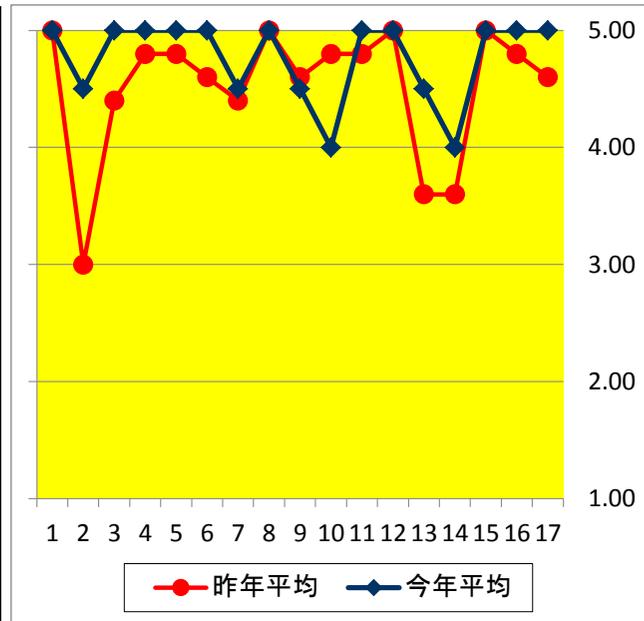
今年度行ったようなクラスを二つに分割するということは、時間割を変更する際に学生と教員の都合がつけば行うことができるという本来的な方法ではないため、今後はやはり原則的な形態である1クラスでも授業を行えるようにしなければならない。その際に学生の学習レベルや弱点、その他学生の進路に至るまで、ケアできるよう心がけねばならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

毎年この授業は、企業法の基礎を扱うことが多いのであるが、今年は全員があらかじめ企業法を学習してきており、基礎を超えた部分を扱ったが、どのレベルまで理解できているかということをごちらが把握するのに時間がかかってしまった。全受講生のレベルを最初の段階でしっかりと把握する必要性を感じた。

| | | | |
|------|----------------------------------------------|------|-----|
| 科目 | アカデミック・ソリューション ＜ソリューション・イン・アカデミック＞（中村クラス） | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋月5 |
| 受講者数 | 2 | 回答者数 | 2 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.00 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 3 | 4.40 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.40 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 8 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.60 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.80 | 4.00 | 3・5 | 5 | 3 |
| 11 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.60 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 14 | 3.60 | 4.00 | 3・5 | 5 | 3 |
| 15 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 5 | 2 | | | |



受講生の傾向

2名の受講生は、いずれも税理士志望者で、実務経験者でもあった。質問No.13及び14の結果の通り、今年度の受講生は予習、復習の時間を前年度よりもかけているようであった。ただ、これは昨年度が5名の受講生であったのに対し、今年度は2名だったためとも考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

判例分析の方法を理解させるため、まず報告のデモンストレーションを行った。次に、受講生に判例分析を行った後の私見の作り方を指導した。私見は、判旨の論理構成を十分に理解し、また、評釈者の意見を参考にしないと作れないからである。そして、質疑応答は、受講生の私見にウェイトを置くようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

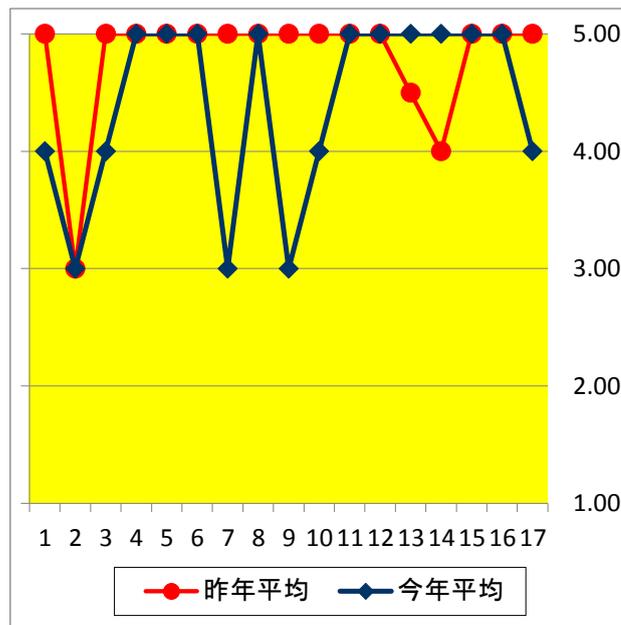
受講生からの報告では、租税事件の問題となった条文の解釈について、ほとんど説明がなされていなかった。これは、判旨の論理構成が十分に理解できていないためと考えられる。そこで、受講生との質疑応答では、その点を重点的に行うようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の報告では、評釈者の意見が十分にくみ取れず、単なる感想文となる私見が多かった。原因としては、判旨の論理構成だけでなく、評釈者の意見の理解不足と考えられる。今後の対応としては、その点を繰り返し受講生に指導を行うことが大切と考える。

| | | | |
|------|------------------------------------|------|-----|
| 科 目 | 論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(三島クラス) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋火5 |
| 受講者数 | 1 | 回答者数 | 1 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 5.00 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 5.00 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 4 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 5.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 8 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 5.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 10 | 5.00 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 5.00 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 回答者数 | 2 | 1 | | | |



受講生の傾向

「論文指導・修士論文(基礎)」の受講生は1人であった。受講生が一人ということもあり、授業態度はまじめで、授業に取り組む姿勢も熱心である。また、この授業の最終的な目的は修士論文を完成させることにあるため、自らが主体性を持って授業ないし論文作成に取り組む必要があり、そのような授業の趣旨も理解して、受講しているようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業で工夫した点としては、受講生が論文作成をすることが初めてであるということなので、論文作成に関する基本的な事項(資料収集の仕方や執筆の要領など)を丁寧に扱った。また、実際に文章を書く練習を行い、文章の書き方について詳細な指導を行った。最終的には修士論文に耐えうる文章というものはどういうものかということ自分の体験を持って知ってもらおうと心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

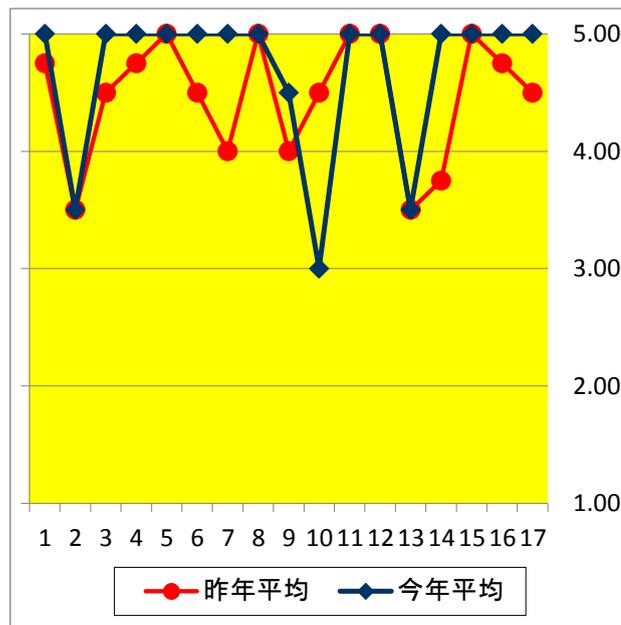
本授業は、これに続く「論文指導・修士論文(実践)」につなげていくことも重要となってくるので、これのみで完結するものではない。しかしながら、「実践」につなげていくのに必要な指導は半年ではなかなか難しいと実感した。学生の希望を早めにくみ取り、秋学期の本授業が始まる前から、準備を行うなどの工夫が必要となるであろう。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「論文指導・修士論文(基礎)」の授業を終えたが、いまだ基礎にあたる部分のすべてを授業の中で扱えたとは思っていない。もっと文章を書く練習を積み重ねる必要があったし、それらの文章についてもっと細かくチェックできればなおよかったと思う。今後はこれをふまえた指導を行えるようにしたい。

| | | | |
|------|------------------------------------|------|-----|
| 科 目 | 論文指導(基礎) ＜論文指導・修士論文(基礎)＞(中村クラス) | | |
| 配当年次 | 1 | 開講時限 | 秋火5 |
| 受講者数 | 2 | 回答者数 | 2 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.75 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.50 | 3.50 | 3・4 | 4 | 3 |
| 3 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.75 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.00 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.50 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 3.50 | 3.50 | 2・5 | 5 | 2 |
| 14 | 3.75 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.75 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.50 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 4 | 2 | | | |



受講生の傾向

受講生2名は、いずれも実務経験者で、かつ、税理士志望者であった。質問No.14の結果の通り、今年度の受講生は前年度よりも本科目の復習を多く行っていたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生に各自の関心のある分野における先行研究者の論文を発見し、報告するよう指導した。また、受講生には根拠を示しながら、私見を論じるよう指導した(単なる感想を避けるため)。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

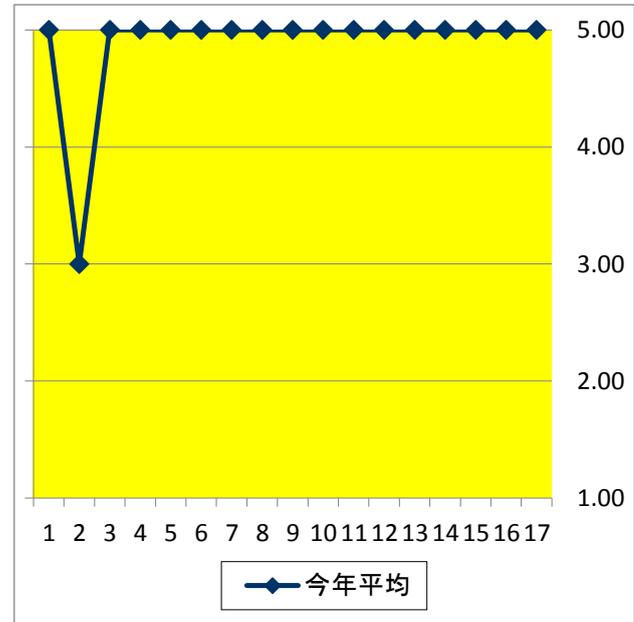
受講生の多くは、自身のテーマに関する先行研究者の論文を発見できなかった。また、発見しても、当該論文の手法や主張、さらにその主張の限界などをきちんと理解するところには至っていなかった。以上から、受講生が先行研究者の論文をきちんと理解できるまで、繰り返し報告を行わせることにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

先行研究者の論文をきちんと理解できるまで繰り返し報告させるようにする。難解な先行研究論文の場合、1回の報告では十分に先行研究者の意見をくみ取ることが困難だったためである。

| | | | |
|------|----------------------|------|-----|
| 科 目 | 論文指導・修士論文(実践)(富田クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋月1 |
| 受講者数 | 1 | 回答者数 | 1 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | — | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | — | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | — | 1 | | | |



受講生の傾向

受講生は一人であったため、毎回必要な学習を実施するだけでなく、関連部分も自主的に調べており、学習意欲が高く、真摯に受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は該当なしであり、昨年度を踏まえることはできなかったが、修士論文のための学習や執筆の全体像やその中での位置付けやスケジュールを明確にし、受講生がモチベーションを維持できるように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

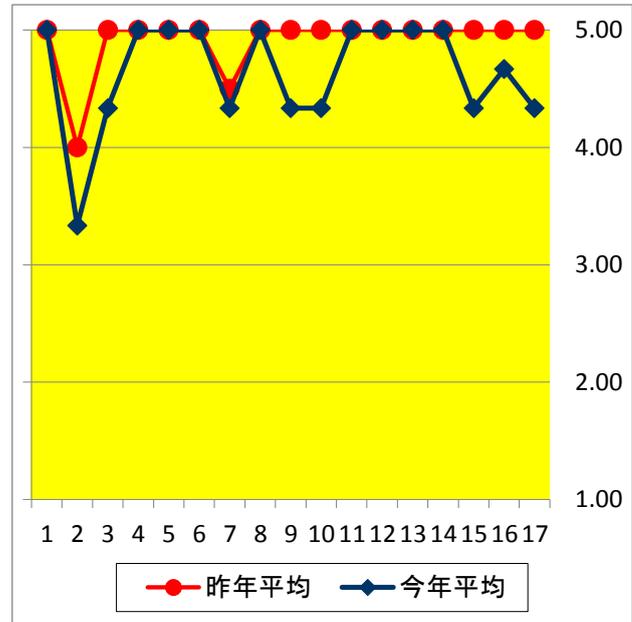
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果からは、今年度の受講生に合致した指導であったと思われる。これを基本として、受講生個々の特性に配慮しつつ、修士論文に向けた学習への意欲を維持できるよう意識しようとする。

| | | | |
|------|----------------------|------|-----|
| 科 目 | 論文指導・修士論文(実践)(中村クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋月1 |
| 受講者数 | 3 | 回答者数 | 3 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 4.00 | 3.33 | 3 | 4 | 3 |
| 3 | 5.00 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 4 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.50 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 5.00 | 4.33 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 5.00 | 4.33 | 4 | 5 | 4 |
| 11 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | 5.00 | 4.33 | 4 | 5 | 4 |
| 16 | 5.00 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 5.00 | 4.33 | 4 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 2 | 3 | | | |



受講生の傾向

3名の受講生のうち、2名が立法論、1名が解釈論であり、税目は2名が消費税、1名が法人税であった。各自まじめに取り組んでくれた結果、全員が修士論文を提出することができた。なお、質問No.2で昨年度よりも授業の進捗が早いという結果になっているが、この原因は途中で研究テーマの変更をした受講生がいたためと推測している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生に研究計画書を作成させ、研究の進捗管理について繰り返し指導した結果、受講生2名はスケジュールとして順調に修論を執筆することができた。ただ、残り1名の受講生は、研究テーマの変更が響き、研究が順調に進まなかった。また、3名とも引用もれについては、なかなか改善されなかったため、最後まで繰り返し指導を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

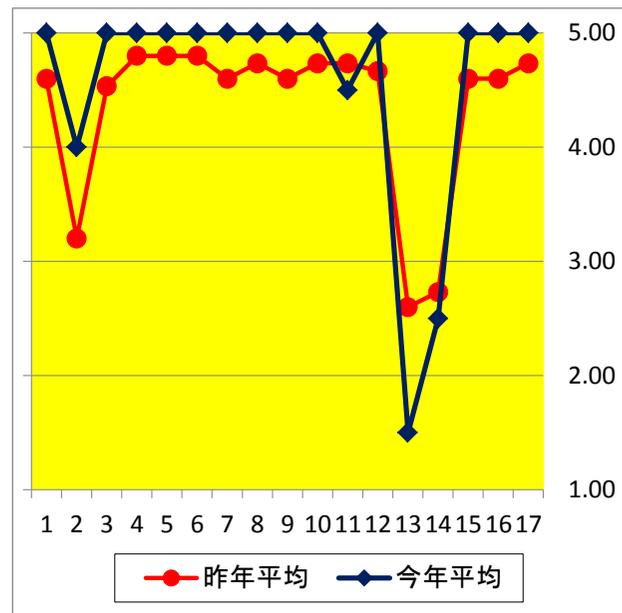
研究計画書の作成は、受講生にとって有効と考えるため、今後も継続して実施する。また、受講生には授業での報告と研究計画書に記載した研究計画との位置関係を絶えず意識させ、受講生自らが積極的に研究に取り組むよう指導したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

研究の進捗管理に関して、研究計画書を作成させることは有効と考えられるので、今後も継続したい。あと、受講生に対し、途中で研究テーマを変更するリスクについて、きちんと理解させておくことが研究の進捗管理において大切であろう。

| | | | |
|------|--------|------|-----|
| 科目 | 租税法会計論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋木4 |
| 受講者数 | 4 | 回答者数 | 2 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.20 | 4.00 | 3・5 | 5 | 3 |
| 3 | 4.53 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.80 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.73 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 4.73 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | 4.73 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.67 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 2.60 | 1.50 | 1・2 | 2 | 1 |
| 14 | 2.73 | 2.50 | 1・4 | 4 | 1 |
| 15 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.60 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.73 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 15 | 2 | | | |



受講生の傾向

受講生4名の内訳は、会計士志望2名、税理士志望1名、一般企業志望1名であった。また、会計士志望者は税法の既修者であったが、他の受講生は税務会計の初学者であった。質問No.13及び14の結果の通り、昨年度より予習と復習に要した時間は少なかったようであるが、講義中は受講生同士で意見交換を行うなど、大変良い教育環境となっていたと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は所得税法と消費税法の両方を取り扱う関係で、講義では典型的な問題の解法を示すのみとし、練習問題は宿題とした。また、各講義の最初に、前回講義の確認問題を解かせ、知識の定着を促した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

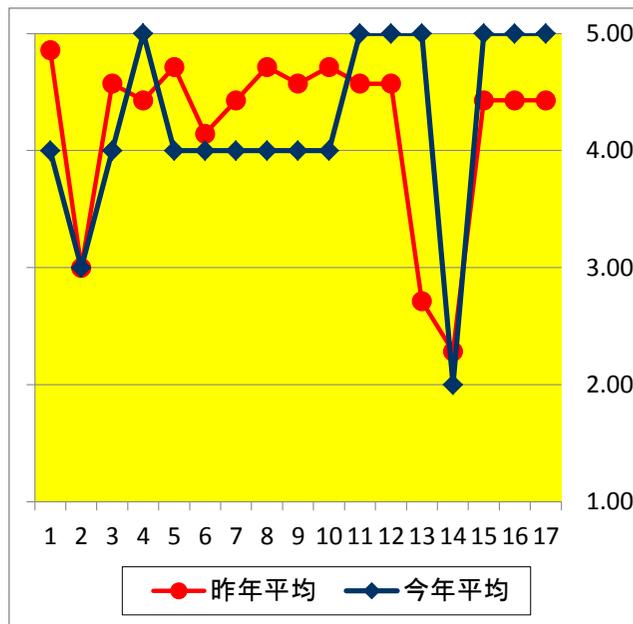
今年度新たに使用したテキストの有効性が(効率的学習という観点で)確認できたので、次年度は本講義において所得税と消費税を取り扱うことにする。また、その関係で「上級税務会計論」は法人税に特化させる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度に引き続き、本科目では所得税法と消費税法を取り扱うことにする。また、講義の最初に前回の確認問題を解かせるが、その内容を公認会計士試験の過去問を出来る限り多く含めるようにし、受講生のレベル向上を目指したい。

| | | | |
|------|----------------|------|-----|
| 科目 | コーポレート・ファイナンス論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋火3 |
| 受講者数 | 1 | 回答者数 | 1 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.86 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.57 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 4 | 4.43 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.71 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 6 | 4.14 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 7 | 4.43 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 8 | 4.71 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 9 | 4.57 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 10 | 4.71 | 4.00 | 4 | 4 | 4 |
| 11 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 2.71 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 14 | 2.29 | 2.00 | 2 | 2 | 2 |
| 15 | 4.43 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 4.43 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 4.43 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 7 | 1 | | | |



受講生の傾向

受講者は一人であり、ほぼゼミ状態であった。
 毎回レジュメを作成して準備してくる等、コーポレートファイナンスを学ぼうという意欲にあふれていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数学的な面は避けつつ、結論を暗記するのではなく、どのような考え方に基いているのかを基本を意識しつつ講義を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

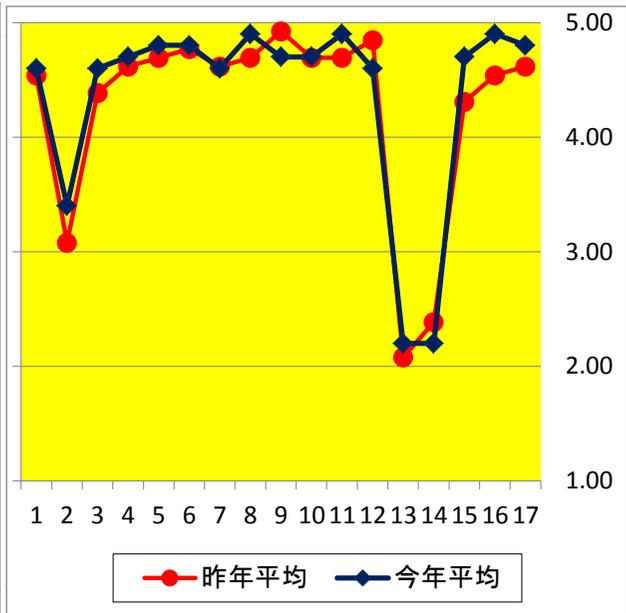
本年度と同様、教科書を中心に、数学的な面を避けつつ、基本的な考え方について授業する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回は、受講者が1名という状況で、かつ、学ぼうとする姿勢があったため、例を交えながらどんどん授業を進めることができた。複数の受講者でもほぼ同様の授業を行っていきたい。

| | | | |
|------|---------|------|-----|
| 科 目 | 国際会計基準論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋月3 |
| 受講者数 | 13 | 回答者数 | 10 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.54 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.08 | 3.40 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.38 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.62 | 4.70 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.69 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.77 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 7 | 4.62 | 4.60 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.69 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 9 | 4.92 | 4.70 | 5 | 5 | 4 |
| 10 | 4.69 | 4.70 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.69 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.85 | 4.60 | 5 | 5 | 4 |
| 13 | 2.08 | 2.20 | 2 | 5 | 1 |
| 14 | 2.38 | 2.20 | 1 | 5 | 1 |
| 15 | 4.31 | 4.70 | 5 | 5 | 3 |
| 16 | 4.54 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.62 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 13 | 10 | | | |



受講生の傾向

概ね全ての受講生が毎回出席し、真摯に受講していた。ただ、就職活動による欠席が目立った。また、昨年度に続き今年度の授業への満足度が幾分低くなっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と今年度は、それ以前と比較して受講生が増えており、また公認会計士試験合格者も多くなっているため、講義としながらディスカッションやトピックの紹介の割合を減らし、予習用の資料配布とパワーポイントによる資料提示を行い、より多くの基準紹介に変更している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

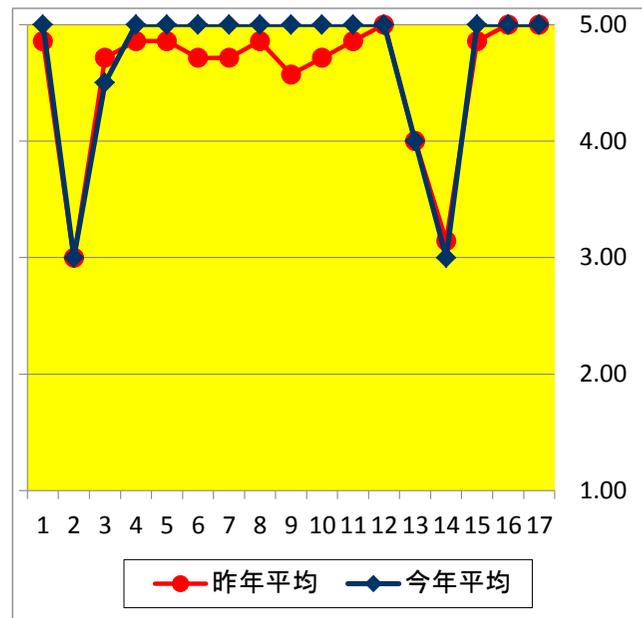
昨年度に比べ、予習時間が増加し、復習時間が減少しているため、予習用の資料の配布に加え、復習のポイントを提示し、復習による理解度を高める工夫を講じるつもりである。また、昨年度と比べ授業への満足度が幾分低くなっているため、より具体的な事例を含めて説明するなどの工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度、今年度と受講生が増加し、公認会計士試験合格者が受講生の中で多くなっている。そのため講義で力点を変更したが、全体的な授業への満足度は低くなっており、力点を変更しなかったほうがよさそうである。そのため、ディスカッションや関連するトピック紹介を増やし、それを受講生が増加した状態でできるよう工夫を講じる。

| | | | |
|------|-----------------------------|------|-----|
| 科目 | ソリューション・イン・エキスパートタイズ(松本クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋金5 |
| 受講者数 | 2 | 回答者数 | 2 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 2 | 3.00 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 3 | 4.71 | 4.50 | 4・5 | 5 | 4 |
| 4 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 5 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 4.71 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 7 | 4.71 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 4.57 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 10 | 4.71 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 11 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 13 | 4.00 | 4.00 | 3・5 | 5 | 3 |
| 14 | 3.14 | 3.00 | 3 | 3 | 3 |
| 15 | 4.86 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 16 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 17 | 5.00 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 回答者数 | 7 | 2 | | | |



受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)において、ほぼ100%を達成しているため、積極的な演習への参加が認められるものの、演習のための予習時間(項目13)と復習(項目14)時間が1時間から1時間半というレベルに留まっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の課題に続き、監査論に関する諸論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討する形態とした。このため担当者個々が課題に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行えるように、複数の課題を事前に配布した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

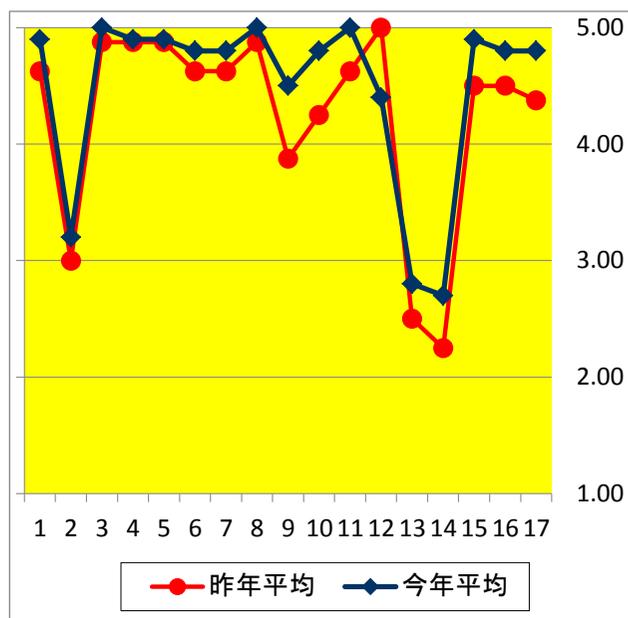
公認会計士を志望するか否かにかかわらず、演習生に対しては、如何にして論文作成能力を高めるか、という観点からの解答の準備と相互検証に加えた、演習指導が必要と思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

記述指導を必要とする学生について、演習中の課題への解答を別途添削指導する形で論文作成能力を高めるようにしたい。

| | | | |
|------|-----------------------------|------|-----|
| 科 目 | ソリューション・イン・エキスパートタイズ(三島クラス) | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋木5 |
| 受講者数 | 11 | 回答者数 | 10 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.63 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.20 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.88 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.88 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 6 | 4.63 | 4.80 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.63 | 4.80 | 5 | 5 | 3 |
| 8 | 4.88 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 9 | 3.88 | 4.50 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.25 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.63 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 12 | 5.00 | 4.40 | 5 | 5 | 3 |
| 13 | 2.50 | 2.80 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 2.25 | 2.70 | 2・3 | 5 | 1 |
| 15 | 4.50 | 4.90 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.50 | 4.80 | 5 | 5 | 3 |
| 17 | 4.38 | 4.80 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 8 | 10 | | | |



受講生の傾向

今年度は11人の受講者があったが、授業にはすべて出席しており、予習・復習も丁寧に行われていた。また、授業進度やレベルについてもちょうど良いようであった。11人の受講生のすべてが、公認会計士を目指しているというものではなかったが、目的意識を明確にもっており、授業に対して真面目にかつ熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ソリューション・イン・エキスパートタイズとしては、11人という人数は多く、そのためいろいろな受講生の意見を聞きそれを基に議論をするということができた。多くの学生が、自分以外の考え方を耳にしそれに対して議論をすることで、受講生の理解を深めることができたように思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

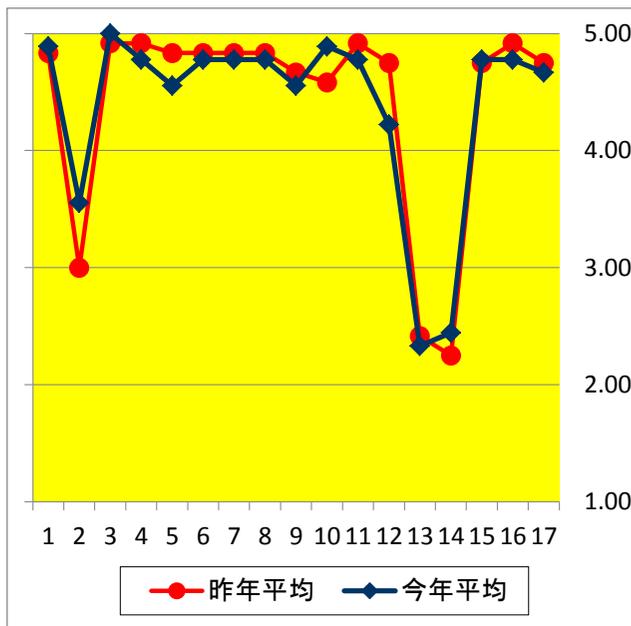
授業全体を通して、活発に議論がなされ、ソリューションとしての目的は達成されているように思う。しかしながら、扱うテーマによっては、若干議論が停滞するような場面もあり、これについては助言や論点を示したりする必要があるように感じられた。また、1つのテーマから、派生して現れる論点については、あまり気づいてもらえなかったところもあるので、この点も今後は配慮したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューション・イン・エキスパートタイズは、ソリューションの中でも2年秋学期という最後のソリューションとなり、受講生のキャリア設計等が受講目的として明確に反映されるようになる。受講生の受講目的やその背景にあるキャリア設計などを丁寧に聞き取り、それに合致した授業を行うよう心がけねばならない。今年度は11人の受講生がいたが、事前に学生と相談し、方針を決めて授業を進めなければならない。

| | | | |
|------|---------|------|-----|
| 科 目 | 不正摘発監査論 | | |
| 配当年次 | 2 | 開講時限 | 秋土1 |
| 受講者数 | 12 | 回答者数 | 9 |

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 | 最頻値 | 最高点 | 最低点 |
|-------|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 4.83 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 2 | 3.00 | 3.56 | 3 | 5 | 3 |
| 3 | 4.92 | 5.00 | 5 | 5 | 5 |
| 4 | 4.92 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 5 | 4.83 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 6 | 4.83 | 4.78 | 5 | 5 | 3 |
| 7 | 4.83 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 8 | 4.83 | 4.78 | 5 | 5 | 3 |
| 9 | 4.67 | 4.56 | 5 | 5 | 3 |
| 10 | 4.58 | 4.89 | 5 | 5 | 4 |
| 11 | 4.92 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 12 | 4.75 | 4.22 | 5 | 5 | 2 |
| 13 | 2.42 | 2.33 | 1 | 5 | 1 |
| 14 | 2.25 | 2.44 | 1・2 | 5 | 1 |
| 15 | 4.75 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 16 | 4.92 | 4.78 | 5 | 5 | 4 |
| 17 | 4.75 | 4.67 | 5 | 5 | 4 |
| 回答者数 | 12 | 9 | | | |



受講生の傾向

出席率は平均で85%程度と決して低くはないが、毎回出席して講義に熱心に取り組む受講生がいた一方で、欠席しがちの受講生も少数ながらいいた。公認会計士試験に合格した受講生が、年明け以降に補修所との兼ね合いで欠席したことも、出席率を下げる要因になっている。

知識面については、監査の理論を相当程度理解している受講生が多いと感じた。そのため、講義内容への対応は特に問題がなかったと認識している。応用的な位置づけにある本講座ではあるが、受講生の学習レベルは一致しているという印象を持っている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年同様、実際の企業活動と監査の現場を具体的にイメージできるような講義内容にすることを心掛けた。会計不正と対峙する際に、監査理論がどのように応用できるかを考えさせるように工夫した。さらに、不正は必ず起こることを前提に、監査に携わる者として不正に向き合う心構えにも重点を置いて講義を進めた。

その他、PC教室の特性を活かして、内部統制報告制度への対応の疑似体験、監査の現場で多用するソフトウェアの操作方法を通して、PCの活用に興味を持ってもらえるような内容とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

相次ぐ会計不正による企業不祥事に対して監査がどのような位置づけにあり、どのような役割を果たすべきか、次代を担う受講生に考えさせる講義を目指す。その意味では、単に事例や監査のテクニックを紹介するような内容に終始することなく、監査の本来の目的と機能、可能性と限界を意識し納得できるような講義にすべく、さらに工夫を重ねたい。また、PC教室の特性をさらに活かせるよう、毎回の講義の中で可能な限りPCに触れる工夫をしてみたい。

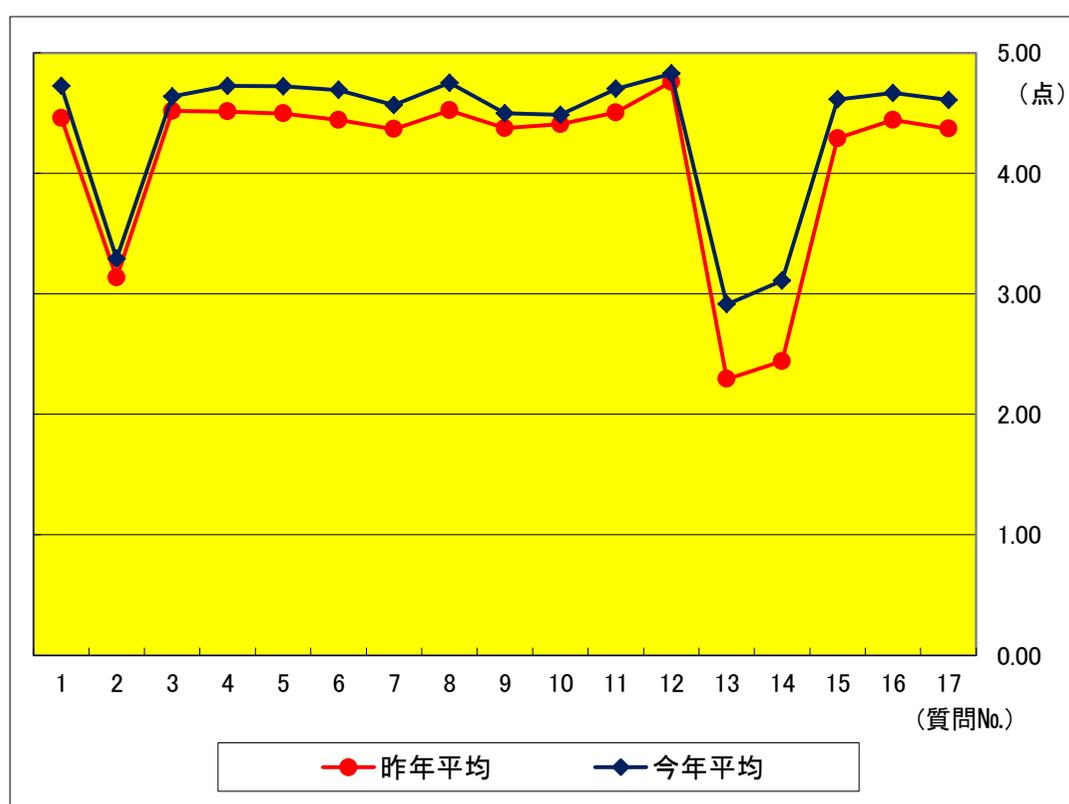
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年の経験を踏まえた取り組みは、想定した通りの成果を上げていると考えており、引き続き実施していく所存である。さらに、時間の制約がある中でどこまで実現できるか未知数ではあるが、対話によって考える力の向上を目指したい。知っている知識を披露するだけでなく、その知識を活用して自分なりの答えを見つける努力を積み重ねることで、より応用力が身に付くことを期待する。

Ⅲ-(3). 2018 年度授業評価アンケート総括

総括

| 質問No. | 昨年平均 | 今年平均 |
|-------|------|------|
| 1 | 4.46 | 4.72 |
| 2 | 3.13 | 3.29 |
| 3 | 4.52 | 4.64 |
| 4 | 4.51 | 4.73 |
| 5 | 4.50 | 4.72 |
| 6 | 4.44 | 4.69 |
| 7 | 4.37 | 4.57 |
| 8 | 4.52 | 4.75 |
| 9 | 4.38 | 4.50 |
| 10 | 4.41 | 4.49 |
| 11 | 4.50 | 4.70 |
| 12 | 4.76 | 4.83 |
| 13 | 2.29 | 2.91 |
| 14 | 2.44 | 3.11 |
| 15 | 4.29 | 4.61 |
| 16 | 4.44 | 4.67 |
| 17 | 4.37 | 4.61 |
| 回答者数 | 743 | 705 |



授業評価アンケートを分析した結果、関西大学会計専門職大学院における今年度(2018年度)の授業は、全体として受講生から高い評価を得たことが明らかになった。昨年度(2017年度)の評価も高かったと考えられるが、今年度の評価は、ほとんど全ての項目において昨年度の評価を上回った。個別の質問項目の分析結果は以下の通りである。

質問項目1(授業内容と授業計画の整合性)に関する今年度の評価は平均4.72であり、昨年平均を上回った。次に、質問項目2(授業の進度)に関する今年度の評価は平均3.29であり、昨年平均(3.13)を上回った。質問項目3(教員による授業準備)に関する今年度の評価は、平均4.64であり、昨年度平均よりも増加した。したがって、授業計画と授業内容との整合度が高いと考える学生が増加した一方で、授業進度が早いと感じる学生も昨年度よりも増加したといえる。ただし、全体としては進捗が「ちょうど良い」とされる評価に近く、他項目の評価も高いため、現在の授業方法を変更する必要は少ないと考えられる。また、教員による授業準備に対しても、受講生からの高い満足を引き出すことができた。

質問項目4(教員の熱意)に関する今年度の評価は平均4.73であり、昨年度平均を上回る高い評価であった。また、質問項目5(教員の話し方)に関する今年度の平均は4.72であり、やはり昨年度平均を上回った。したがって、講義中における教員の熱意、および教員の説明に対する学生の満足度は、昨年度よりもさらに向上した。

質問項目6(教科書・配付資料の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.69であり、昨年度平均を大きく上回った。質問項目7(機材利用の適切さ)に関する今年度の評価は平均4.57であり、昨年度平均を上回る高い評価を得た。したがって、教員が指定したテキスト、配付資料、および機材利用について、受講生から満足していることが明らかになった。

質問項目8(質問への対応)に関する今年度の評価は平均4.75、質問項目9(宿題および小テストの効果)に関する今年度の評価は平均4.50であり、いずれも昨年平均を上回った。したがって、教員による質問対応について、昨年度よりも受講生の満足度が高まった。しかも、受講生は教員による宿題および小テストの実施に納得していると考えられる。

質問項目10(クラス規模)に関する今年度の評価は、平均4.49であり、昨年度よりも若干の改善が見られた。ただし、新カリキュラムの完成年度は次年度(2019年度)であるため、今後もクラス規模に関する評価は引き続き注意する必要があると考え

以上のアンケート結果と整合して、質問項目11(全体としての授業の満足度)に関する今年度の評価は平均4.70であり、昨年度平均を大きく上回った。したがって、教員による授業改善の努力が、全体として成功したと考えられる。

質問項目12(出席状況)に関する評点は平均4.83であった。したがって、受講生の出席率は、昨年度よりも若干改善した。また、質問項目13(予習)の回答は、今年度平均が2.91、および質問項目14(復習)の回答は今年度平均が3.11であった。したがって、受講生による予習時間と復習時間は昨年度よりも大きく改善しており、学習意欲の高い受講生が増加したと考えられる。

質問項目15(講義による触発)に関する今年度の評価は平均4.61であった。質問項目16(職業会計人としての知識の増加)に関する今年度の評価は平均4.67であった。さらに、質問項目17(全体としての授業の理解度)に関する今年度の評価は平均4.61であった。これらの評価結果は、いずれも昨年度を上回った。

したがって、本年度におけるFDの取り組みは概ね高い評価を得た。次年度も本年度の取り組みを継続することが重要であると考えられる。

IV. 講演会

2018 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2018 年 4 月 3 日(火)開催]

◇中央大学大学院フェロー／IFRS 財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「目指そう・挑戦しよう 将来性のある会計人材への道」

■客員教授講演会

[2019 年 2 月 21 日(木)開催]

◇東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「貿易戦争下の世界と日本」

■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2019 年 3 月 23 日(土)開催]

◇あずさ監査法人大阪事務所長 公認会計士

後藤研了氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

藤沼亜起 客員教授講演会

中央大学大学院フェロー、IFRS財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長

～目指そう・挑戦しよう 将来性のある会計人材への道～

会計専門職大学院では、2018年度入学生を対象とした新生行事の一環として、中央大学大学院フェロー、IFRS財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。

多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：2018年4月3日（火）

10:40～12:10

■場所：千里山キャンパス第2学舎
2号館4階 C403教室

■演題：目指そう・挑戦しよう
将来性のある会計人材への道

■対象：会計研究科新生・在学生、
幅広い分野で活躍する会計ブ

ロ

の道に興味のある学部生

■事前申込は不要です。

<会場案内図>



第2学舎2号館
4階 C403教室



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

E-Mail kaikei@ml.kandai.jp



竹中平蔵 客員教授講演会

東洋大学教授、慶應義塾大学名誉教授

「貿易戦争下の世界と日本」

元国務大臣で、総務大臣や郵政民営化担当大臣等を歴任された竹中平蔵客員教授をお招きし、講演会を開催します。学生、教職員はもちろんのこと、学外一般の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：2019年2月21日(木)

18:30~20:00

※終了後、ビジネス講座説明会(15分程度)を予定

■場所：関西大学 梅田キャンパス

8階 KANDAI Me RISE ホール

(阪急梅田駅徒歩5分、大阪市北区鶴野町1-5)

■費用：無料(定員240名)

■申込：会計研究科HPより申込受付

↓ 申込専用フォーム

<会場案内図>



梅田キャンパス1階正面入口



講師 竹中平蔵 氏

関西大学 客員教授

<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

Mail : kaikei@ml.kandai.jp

後藤研了 客員教授講演会

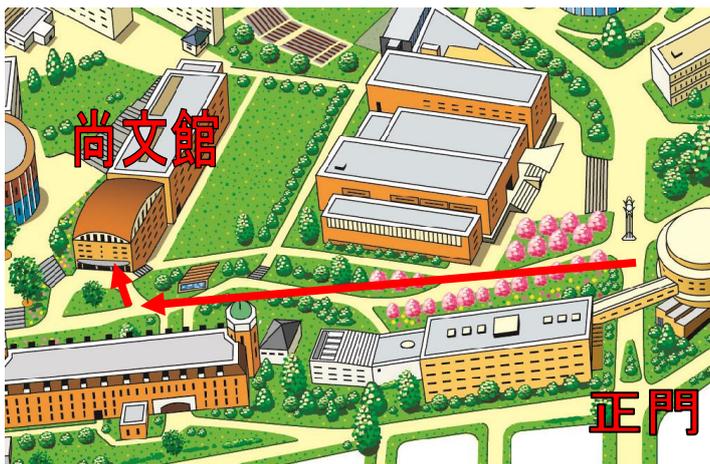
あずさ監査法人大阪事務所長 公認会計士

会計専門職大学院では、2019年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、あずさ監査法人 大阪事務所長の後藤研了客員教授をお招きし、講演会を開催します。

公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：2019年3月23日（土）
15:00～16:30
- 場所：尚文館5階 501講義室
- 演題：監査を取り巻く環境変化と
求められる人材
- 対象：会計研究科入学予定者・在学生
公認会計士を目指す学部生
- **事前申込は不要**です。

<会場案内図>



講師 後藤研了 氏
関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121 (代表)
E-Mail kaikei@ml.kandai.jp

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248